

ENGLISH & AMERICAN LITERATURE / ENGLISH
JAPANESE LITERATURE
CROSS-CULTURAL STUDIES
CONTEMPORARY SOCIETIES

2025年度

文学部履修要項

〈2014年度～2019年度入学生用〉

成蹊大学

文学部履修要項

(2014年度～2019年度入学生用)

『履修要項』は卒業まで使用しますので、大切に保管し、活用してください。

また、『履修要項』配付後に発生した変更、学年暦や各種日程については、大学HPの履修要項Webページを通じてお知らせします。

<https://www.seikei.ac.jp/university/campuslife/risyuyoukou.html>



※入学年度により、カリキュラムが異なります。誤って他の入学年度のものを参照しないよう注意してください。

成 蹊 大 学

目 次

はじめに

1. 教務部の業務と事務取扱い時間
2. 掲示・連絡
3. 教務部への問い合わせ
4. 教員との連絡

カリキュラム

カリキュラムの構造	8
科目群と科目の種類	10
単位制と単位の認定	14
カリキュラム科目一覧	15
卒業に必要な修得単位数	35
卒業・進級要件	39

履修要領

履修とは	41
履修登録	42
履修に関わる各種申請について	44
予備登録	47
あらかじめクラスが指定される科目（プレ・タームと第2タームの科目）	49
あらかじめクラスが指定される科目（第3タームと第4タームの科目）	52
初修外国語・異文化理解科目の履修について	54
インターンシップ科目の履修について	57
外国人留学生の日本語科目等の履修について	60
履修上の諸注意	61
成蹊教養カリキュラム 履修上の諸注意	
文学部共通 履修上の諸注意	
英米文学科、英語英米文学科 履修上の諸注意	
日本文学科 履修上の諸注意	
国際文化学科 履修上の諸注意	
現代社会学科 履修上の諸注意	
自由設計科目・教職科目・特設科目 履修上の諸注意	
Q & A	75

文学部情報

単位認定・単位互換	79
「成蹊ボランティア」の単位認定	83
「Practical English Training」の単位認定	85
「国際ボランティア」の単位認定	87
「地域交流実践研究」の単位認定	89
指導教授	91

一般情報

授 業	93
1. 授業時間・授業日	
2. 休講	
3. 補講	
4. 教室	
5. 出席情報の管理について	
6. 授業の欠席について	
7. 感染症にかかった場合の対応について	
8. 天災（台風、地震、大雪等）、事故、ストライキなどによる 交通機関運行停止の場合の授業措置	
9. 気象警報、地震に関する情報、Jアラートを通じた緊急情報などが発表された場合の 授業措置	
学 籍	96
納付金	100
学期末試験・レポート	102
成 績	107
証明書	109
外国留学	110

資格課程

教職課程	120
学校図書館司書教諭課程	121
日本語教員養成課程	122
社会調査士課程	125
社会福祉主事任用資格	127

はじめに

大学では、学生が自分の学問的興味・関心に従って履修計画を立て、所属する学部学科の卒業・進級要件を満たすように単位を修得していきます。そのため、大学での学修は、高校時代よりも大幅な自由が認められていると言えます。しかし、これは同時に、責任は自分自身にかかってくることを意味します。

各自、この履修要項を有効に活用し、適切な履修計画を組むようにしてください。2年次生以降もこのことは変わりません。前年度を振り返って、計画どおり学修できたか、必修科目でまだ修得できていない科目があるかなどを、成績通知表と履修要項を照らし合わせ十分確認の上、今年度の履修計画を立ててください。特に、卒業を控えた4年次生は、卒業要件を十分に満たしているかについて、よりいっそう慎重に確認してください。

教務部の業務と取扱い時間

教務部は各学部のカリキュラムに基づき実施される授業、学期末試験、履修登録、成績処理・通知等の業務のほかに、学籍、成績関係の証明書発行、教職課程・資格課程に関する業務を行っています。

■ 各学部カウンターで受け付ける業務

- ① 学籍に関すること（休学・退学など）
- ② 授業に関すること（授業運営、時間割、教室変更、休講、補講など）
- ③ 学期末試験に関すること
- ④ 履修登録に関すること
- ⑤ 成績に関すること
- ⑥ 9月卒業・卒業延期制度に関すること
- ⑦ 各資格課程・コースに関すること（芸術文化行政、日本語教員養成、社会調査士、社会福祉主事任用資格）

■ 共通カウンターで受け付ける業務

- ① 証明書に関すること（在学・成績・卒業見込証明書など）
- ② 単位互換に関すること

■ 教職課程センターで受け付ける業務

- ① 教職課程に関すること（学校図書館司書教諭課程を含む）

■ 事務取扱い時間

月曜日～金曜日 9:00～17:00（11:30～12:30を除く）

土曜日 9:00～12:00

時間外の取扱いはできません。また、日曜日、祝日（授業日以外）は休業です。夏期・冬期の休業期間や、特別な場合の取扱い時間については、ポータルサイトの掲示で連絡します。

掲示・連絡

大学から学生への連絡は、基本的には全てポータルサイトおよび CoursePower で行います。

SEIKEI PORTAL URL : <https://portal.seikei.ac.jp/>



CoursePower URL : <https://lms.seikei.ac.jp/lms/loginLgir/#>



※以降、「掲示」については、ポータルサイトでの掲示を指します。

掲示を見なかったために生じる不利益は、学生本人の責任となります。授業に関する情報（休講、補講、教室変更、試験やレポートの告知など）や、学生への個人連絡なども掲示で行います。このほかにも、緊急を要する重要な掲示を行うこともありますので、最新の情報を得るためにも、毎日必ずポータルサイトを見るように習慣づけてください。

掲示内容については、ポータルサイトでも確認できますが、携帯電話（スマートフォン）等のメールアドレスをあらかじめ登録しておくことで、休講などの一部の情報はメールで配信されます。

教務部への問い合わせ

授業や履修・成績等に関する教務部への相談は、必ず本人が直接教務部カウンターまで来て行ってください。留学中や病気療養中であるなど、直接本人が教務部カウンターに相談に来ることができない特別な場合を除いて、個人情報保護のため、また間違いや誤解が生じるのを防ぐため、電話や電子メールでの対応、家族や友人などの本人以外の者からの相談受付は行っていません。

なお、家族や友人からの電話による学生呼出しについても応じていません。これらのことを、あらかじめご家族にも伝えておいてください。

教員との連絡

教員への授業内容などに関する質問・相談は、授業時間の前後に受付けています。ただし、成績に関する質問は、所定の期間に教務部で受付けます。後掲の『成績』を参照してください。

■ 専任教員

成蹊大学を本務校とする専任教員は、学内に研究室があり、個別に相談に応じています。各教員のオフィスアワーは、ポータルサイトに掲載しています。オフィスアワーとは、予約なしで研究室を訪問することができる時間帯を指します。各教員のオフィスアワーを確認し、研究室を訪ねてください。

■ 非常勤講師

成蹊大学を本務校としていない教員については、学内に研究室はありません。授業の前後に相談をするか、ポータルサイトの「オフィスアワー検索」で指定された連絡方法を確認のうえ、連絡してください。教務部では個人情報保護のため、非常勤講師の連絡先を教えることはできません。

カリキュラム

カリキュラムの構造

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

文学部（英語英米文学科、日本文学科、国際文化学科、現代社会学科）は、本学部の学位授与の方針（Diploma Policy；以下 DP）を踏まえ、次のような方針（Curriculum Policy；以下 CP）で教育課程を編成・実施しています。

＜大学（学士課程）共通＞

（CP1） 大学共通 DP および各学科固有 DP の各項目の達成、及び学生の自発的かつ能動的な学習の徹底を図るため、各学科の教育課程において 8 単位以上必修の演習科目を置き、卒業論文（またはこれに代わるもの）の作成を必修とする。

＜全学共通科目（成蹊教養カリキュラム）＞

（CP2） 大学共通 DP の各項目を達成するために、全学共通科目（成蹊教養カリキュラム）を策定する。カリキュラムと DP の各項目との関係はカリキュラムマップによって示す。

（CP2-1） 円滑な高大接続と（DP4）を達成するため、学部 1 年次前期をプレ・タームとし、学びの動機づけを目的とした科目を配置する。

（CP2-2） （DP4）の確実な達成を目指して、成蹊教養カリキュラム及び各学科のカリキュラムに留学、インターンシップ、ボランティア等の単位認定のしくみを設け、さらに成蹊国際コース等の選抜型の教育プログラムを設置する。

＜文学部＞

（CP3） 本学部の教育が目標とする文化現象の総合的理解とその継承に向け、各学科の理念と、基礎となる教養の考え方にに基づきながら、人間・歴史・社会・文化の多様なあり方を研究するための授業科目を体系的に配置する。

（CP4） 専門知識、教養および学際分野をバランスよく学修することができるように、教育課程の中に学科専門科目、成蹊教養カリキュラム（全学共通科目）、自由設計科目の 3 つの区分を明示し、それぞれから単位修得を行うことを基本とする。

（CP5） 「学士の学位授与の方針」に各学科が掲げている項目を総合的に修得することができるようにするために、1 年次から 4 年次までのすべての学年に少人数による演習科目を設け、また 4 年次に卒業論文の提出を義務づける。

大学共通 DP や各学科固有 DP などの詳細は大学ホームページを参照してください。

カリキュラムの構成

文学部のカリキュラムは、以下のように構成されています。

各区分の内容等については後掲の『科目群と科目の種類』を、授業科目については、『カリキュラム科目一覧』を参照してください。

（1）成蹊教養カリキュラム科目（全学部共通）

- ・桃李成蹊科目
- ・人間形成系統
- ・文化創造系統

（2）専門科目

- ・必修科目（必修科目の区分は学科によって異なります）
- ・選択科目（選択科目の区分は学科によって異なります）

- (3) 自由設計科目
 - ・文学部共通科目
 - ・単位認定科目
 - ・学際科目
- (4) 特設科目
- (5) 教職科目

文学部のカリキュラムは上記のように区分され、区分ごとに固有の教育目的を設け、科目の単位数や履修年次の規定などにより、学部および学科教育の目的を総合的に達成することをめざしています。

このため、卒業に必要な単位数は、単に修得した科目の合計単位数ではなく、それぞれの科目区分ごとに定められた単位数を充足することが必要となっています。科目区分ごとの単位数については、後掲の『卒業に必要な修得単位数』を参照してください。

進級要件

学年・学科ごとに進級するための要件が設けられています。後掲の『卒業・進級要件』を確認してください。

科目群と科目の種類

各科目群の教育目的

■ 成蹊教養カリキュラム（全学共通科目）

成蹊教養カリキュラム（全学共通科目）は、全学共通科目として、21 世紀に求められる、「文理の枠を超えた幅広い教養」と「確かな英語力の修得」を目指すために設置されたものです。これにより文系学生でも理系の視点を、理系学生でも文系の視点を持つことが可能となり、多角的な視点と柔軟な思考力を身につけることができます。

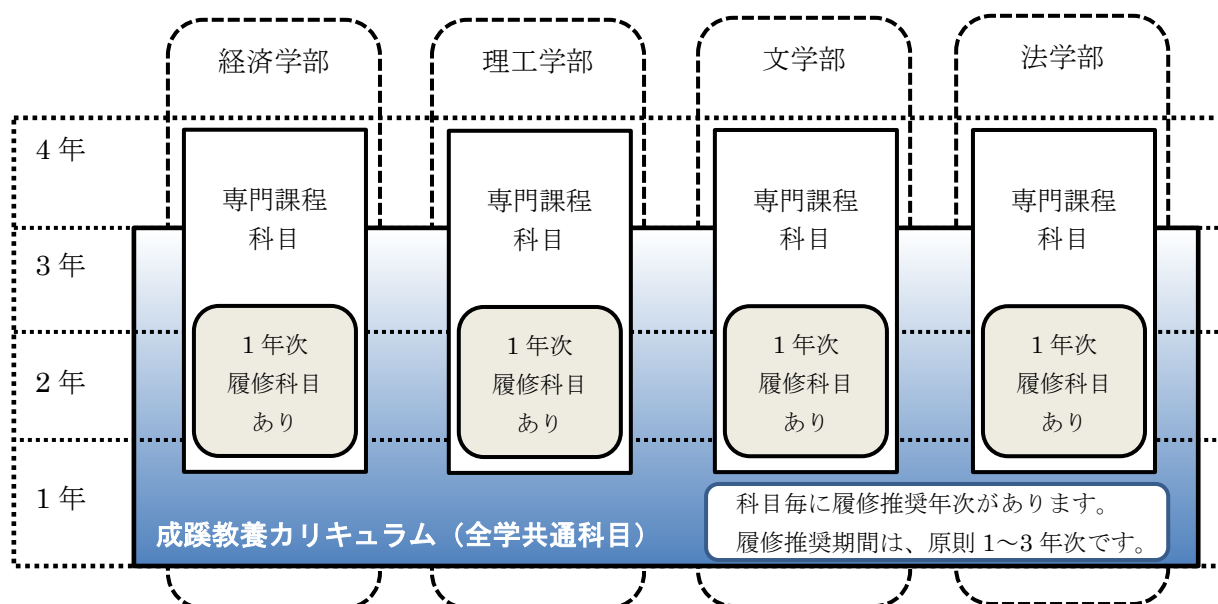
（以下、履修要項上では、全学共通科目を「成蹊教養カリキュラム」と称します。）

カリキュラムには「**コア科目**」（多くの学生に履修を促す、基礎的で重要な科目）と「**発展科目**」（コア科目をもとに、学生の興味・関心に応じて履修する科目。一部の科目を除き、基本的には 2 年次以降に開講されます。すべて選択科目です。）があります。

成蹊教養カリキュラムでは、桃李成蹊科目のコア科目である「フレッシュャーズ・セミナー」、英語科目のコア科目である「Freshers' English」と「College English」を必修科目としています。「Freshers' English」と「College English」は習熟度を考慮したクラスになっており、体系的かつ段階的に英語を学ぶため、実践的な英語力を身につけることができます。

また「**人間形成系統**」科目群、「**文化創造系統**」科目群から成る学部を越えた文理融合のカリキュラムを編成しており、所属学部や専門分野にかかわらず、興味や関心に応じたテーマを選ぶことができ、幅広い知識の修得が可能です。

■ 成蹊教養カリキュラムと各学部カリキュラムとの関係



■ 成蹊教養カリキュラムの構造

成蹊教養カリキュラムは、3つのテーマで構成しています。

(1) 桃李成蹊科目

創立者中村春二の理念「個性尊重の人格教育」を受け継ぐ科目です。「成蹊教育の特色」「地域とのつながり」「他人を思いやる心の育成」の3つの分野の特徴的な発展科目があります。

(2) 社会性の育成

日本語、情報など社会人としての基礎能力や科学技術を含めた一般教養を学び、「社会に貢献していくための基礎」をつくります。

(3) 国際性の育成

歴史認識や地理、異文化理解のための科目を勉強することで、真に「グローバルな感覚を持った国際人」を育てます。

また、「社会性の育成」「国際性の育成」の2つのテーマは、2つの系統を組み合わせた科目群で構成しており、学部の特を越えた科目群の中から履修でき、幅広い教養と多角的な視点を身につけることができます。

(1) 人間形成系統

自立的な社会人として必要とされる、基本的な技能や考え方を身につけます。

(2) 文化創造系統

レポート作成や発表等を活用した教育により、自分の意見を発信する習慣を養います。

(構造図)

桃李成蹊科目					
社会性の育成	日本語力科目		総合文化科目	人間と文化	
	キャリア教育科目			社会と文化	
	情報基盤科目			科学技術と文化	
	健康・スポーツ科目				
国際性の育成	英語科目		国際理解科目	初修外国語・	
				異文化理解科目 国際教養科目	
	人間形成系統			文化創造系統	

■ 成蹊教養カリキュラムの科目群とその種類

(1) 桃李成蹊科目

創立以来、学生の個性を尊重し、自ら学修できる人間を育てることが成蹊の伝統です。桃李成蹊科目は、「成蹊教育の特色」「地域とのつながり」「他人を思いやること」の発展科目をおき、成蹊教育の神髄に触れ、大学生活のモチベーションを高めます。

(2) 人間形成系統

人間形成系統の科目は、自立的な社会人として力強く生きるために必要となる基本的な技能や考え方を身につけることを目的としています。

① 英語科目

英語科目は、文系・理系を問わず、英語によるコミュニケーションを楽しみつつ、英語圏の言語文化についての理解を深めることを目標とします。

② 日本語力科目

日本語力科目は、読む・書く・話すの諸点にわたり、日本語力（日本語運用能力・漢字能力と日本語についての知識）のレベルアップを図ります。

③ キャリア教育科目

キャリア教育科目は、みなさんが仕事や職業を通して自分が社会とどのように関わっていくべきかという意識を高めていくこと（キャリア発達）をサポートする科目群です。

④ 情報基盤科目

情報基盤科目は、在学中はもちろん卒業後の社会で必要不可欠な情報の基礎知識の修得をはじめとして、コンピュータとネットワークの活用術、有益な情報を正しく獲得・発信する技術と正しい情報倫理を、PCを用いた実習を通じて学びます。情報技術に関する資格試験の基礎勉強にも役立ちます。

⑤ 健康・スポーツ科目

健康・スポーツをテーマに身体運動を介して学修していきます。コア科目では、自己の身体の把握とその向上・改善の知識や運動実践の習得を目的とします。発展科目では、複数種目を実践し、その中のコミュニケーションを通して、達成感や楽しみなどのスポーツ・運動の意義を学修する科目と、1種目を専門的に実践し、技術・技能の体得、戦術・戦略の理解と体得、それらの達成に向けたマネジメントを学修する科目があります。また、発展科目には、健康・スポーツの知識から教養を高める講義科目もあります。

(3) 文化創造系統

文化創造系統の科目は、多様な文化を学び、国際理解を深めることを通して、新しい文化を作り出す下地を養います。

① 総合文化科目

人間は、人文科学、社会科学、自然科学の各分野の中で、多くの理念体系や世界観を築き上げ文化を創造してきました。総合文化科目で、現在の私たちの考え方の本質を支えている文化の態様を一緒にみつめていきましょう。

【人間と文化】

この科目群では、哲学、倫理学、文学、心理学などの人文科学や音楽や美術などの芸術を通して、「人間」に関する理解を深めていくことを目的としています。

【社会と文化】

この科目群では、社会制度に関する多くの有用な知識をみなさんに提供し、みなさんが様々な社会問題を考えていくための基礎を築いていくことを目的としています。

【科学技術と文化】

この科目群では、身の回りの現象から科学技術分野の最先端の話題まで、科学的なものの見方、考え方について理解することを目指します。

② 国際理解科目

国際化する社会の中で、英語の習得はもちろん大切ですが、この他に言語、歴史、地理などの知識を深め、他の国の人々がどのような考え方を持ち、どのように文化や社会を成り立たせているのか、また、日本という国や身近な地域の成り立ちを知ること重要です。国際理解科目では、これらの理解を深めていきます。

【初修外国語・異文化理解科目】

初修外国語・異文化理解科目は、実践的な学習を通して、グローバル化した世界で異文化間でのコミュニケーションを可能にする言語学習と各言語を通しての異文化理解を図り、互いの共存、各文化の創造性を高めていくことを目的としています。

【国際教養科目】

国際教養科目は、グローバル社会に暮らし活躍する人材に必要な教養を歴史や地理といった視点から学ぶ科目群です。国際社会との関わり合いにおいて日本や身近な地域にも着目します。

科目群と科目の種類

■ 専門科目

各学科の専門科目の区分は、以下のとおりです。学科での学修・研究の柱になる領域の科目が設置されています。

専門科目に属する授業科目は、必修科目と選択科目に分かれます。

必修科目…卒業までに必ず修得しなければならない科目

選択科目…その科目群の中で、学生が自由に選択して履修する科目

学科ごとに修得する単位数が定められています。カリキュラム科目一覧を参考にし、履修計画を立ててください。

英語英米 文学科 (2019 年度入学生)	必修科目	基幹科目、英語強化科目、演習科目
	選択科目	基本講義科目、研究講義科目、Language & Culture、関連科目
日本文学科	必修科目	基礎科目、基本ゼミ科目
	選択科目	文学史科目、日本語学講義科目、日本文学講義科目、学際講義科目、日本探究科目、日本語力錬成科目
国際文化 学科	必修科目	演習系科目
	選択必修科目	国際関係科目、文化人類学科目、歴史・文化研究科目
	選択科目	広域科目、広域基礎科目
現代社会 学科	必修科目	必修専門、演習科目
	選択科目	社会学基礎、社会学発展、社会調査、メディア研究基礎、メディア研究発展、実践科目、現代社会研究、広域基礎科目

■ 自由設計科目

学科専門科目以外の学部固有科目や、成蹊国際コースの科目、教職科目のうち卒業所要単位に算入される科目、他学科・他学部・他大学開講科目などがあります。

卒業所要単位に算入される単位数は、学科によって異なりますので、注意してください。

文学部共通科目	トピック・セミナー、ことばの世界、実践・発信する文化演習、文学部総合講義
単位認定科目	資格課程認定単位、留学関係認定単位、成蹊教養カリキュラム超過単位
学際科目	成蹊国際コース、他学科・他学部・他大学

■ 特設科目

日本語教員養成課程など資格取得のために必要な実習科目、専門科目があります。

この科目は、卒業に必要な単位には含まれませんので、注意してください。

■ 教職課程科目

教育職員免許状取得希望者のための科目です。

自由設計科目にも併記されている一部の科目を除き、卒業に必要な単位にはなりません。

教職課程の履修については、別途配布される「教職課程履修ガイド」で確認してください。

単位制と単位の認定

単位制

所定の授業科目を履修し、科目ごとに定められている単位を修得して、卒業・進級に必要な単位数を充足しなければならない制度です。

開設科目の単位

各授業科目の単位は、次の基準により定められています。なお、時間割上の1時限は2時間に該当し、半期は14週、通年は28週としています。

■ 講義、演習、スポーツ

15時間の授業をもって1単位とします。週2時間、半期履修する科目は2単位となります。

■ 外国語

30時間の授業をもって1単位とします。週2時間、半期履修する科目は1単位となります。

■ 実習、実験、製図

30時間から45時間の範囲で定める時間の授業をもって1単位とします。

※ ただし、科目によっては、学部が定める基準により単位数を決めているものもあります。

単位の認定

履修登録している科目の成績は、前期末、後期末に実施される学期末試験・期末レポート・平常点(授業への参加状況やレポート等の提出状況)等により評価され、授業担当者により合格と判定された者は、単位の認定を受けることができます。

単位の認定を受けるためには、各授業科目について出席すべき時間数の3分の2に達していることが必要です(学則第38条)。授業の出席は全授業(14回)の出席が必要であり、4回まで休めるという意味ではありません。

カリキュラム科目一覧

■ 全学共通科目（成蹊教養カリキュラム科目）

○印の数字は、当該科目の単位数を表します。

科目 区分		授 業 科 目 ・ 単 位 数 ・ 年 次 ・ タ ー ム							
		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
		第 1	第 2	第 3	第 4	第 5	第 6	第 7	第 8
桃 李 成 蹊 科 目									
桃李成蹊科目	コア	フレッシュャーズ・セミナー② フレッシュャーズ講座①							
	発展	A 群	【成蹊のアイデンティティを求めて】 成蹊を知る② 成蹊教養セミナー② 成蹊ボランティア②						
		B 群	【成蹊と地域の共生をめざして】 武蔵野地域研究② 成蹊環境セミナー② 地域福祉論② 武蔵野市寄附講座② 武蔵野地域連携セミナー②						
		C 群	【他人を思いやる豊かな心を育む】 人権とジェンダー② 青年の心と身体② こどもと社会② 老人福祉論② 福祉社会に生きる② 情報保障とボランティア② 成蹊グローバルセミナーA② 成蹊グローバルセミナーB②						
人 間 形 成 系 統									
英語科目	コア	Freshers' English① College English (Listening & Speaking) I ① College English (Reading & Writing) I ①							
		College English (Listening & Speaking) II ① College English (Reading & Writing) II ①							
	ア	College English (Global Topics) I ① College English (Local Topics) I ①							
		College English (Global Topics) II ① College English (Local Topics) II ①							
発展	TOEFL Preparation Intermediate① TOEFL Preparation Advanced① TOEIC Preparation Intermediate① TOEIC Preparation Advanced① IELTS Preparation Intermediate① IELTS Preparation Advanced①								
	Presentation Skills② Discussion Skills② Writing Skills② 多読で学ぶ英語と文化② 映画で学ぶ英語と文化② ドラマで学ぶ英語と文化② 歌で学ぶ英語と文化②								
日本語科目	コア	日本語表現講義② 実践漢字講座② 実践日本語表現② 実践話し方入門② 文章読解講座②							
	発展	古典日本語A② 古典日本語B② テーマ別日本語表現② 実用文書の作り方・情報の伝え方②							
キャリア教育科目	コア	キャリアプランニング② ビジネストレーニングセミナー② ※2015 年度以降入学者対象							
	発展	キャリアセミナー② キャリア発展講義② International Internship②							
		日本企業の現状と展望② インターンシップ準備講座② インターンシップ実習② 理工系インターンシップ実習②							
情報基盤科目	コア	情報基礎②							
	発展	情報活用A② 情報活用B② 情報活用C② 情報活用D② 情報活用E② 情報活用F②							

科目 区分		授 業 科 目 ・ 単 位 数 ・ 年 次 ・ タ ー ム								
		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		
		第 1	第 2	第 3	第 4	第 5	第 6	第 7	第 8	
健康・ スポーツ科目	コア	健康・スポーツの基礎②								
	発展	講義	スポーツと科学② スポーツと身体②		スポーツと文化②		スポーツと社会②		健康と科学②	
		演習	健康・スポーツの発展 AⅠ② 健康・スポーツの発展 AⅢ② 健康・スポーツの発展 BⅠ② 健康・スポーツの発展 BⅢ② 健康・スポーツの発展 SⅠ② 健康・スポーツの発展 SⅢ②		健康・スポーツの発展 AⅡ② 健康・スポーツの発展 AⅣ② 健康・スポーツの発展 BⅡ② 健康・スポーツの発展 BⅣ② 健康・スポーツの発展 SⅡ② 健康・スポーツの発展 SⅣ②					
		文 化 創 造 系 統								
総合 文化 科目	人間と文化	コア	哲学の基礎② 心理学の基礎②		倫理学の基礎② 自己理解の心理学②		文学への招待②			
		発展	現代社会と哲学② 日本の思想史② 音楽への招待② 多文化主義と文学② 舞台芸術論② 映像と文化②		現代社会と倫理学② 脳科学と心② 美術への招待② サブカルチャーと文学② ことばの科学② 映像と人間②		現代社会と宗教② こころの健康と臨床② 人間と美術② ファッションと文化② 文化人類学の考え方②			
	社会と文化	コア	政治学の基礎② 市民生活と法Ⅰ②		経済学の基礎② 市民生活と法Ⅱ②		社会学と現代②		日本国憲法②	
		発展	日本の政治② 企業と社会② 社会心理学入門② 生命倫理と法②		現代の国際政治② 現代のマスメディア② 社会と統計②		日本と世界の経済② コミュニケーションと社会② 裁判と社会②			
	科学技術と文化	コア	科学的に考える②		環境と科学②					
		発展	物質の究極像② 身の回りの科学② 環境論②		人間と進化② 科学技術の発展と歴史② 気象と地球環境②		天文学入門② 科学と哲学②		薬はなぜ効くか②	
国際 理解 科目	初修外国語・異文化理解科目	コア	ドイツ語基礎 AⅠ① フランス語基礎 AⅠ① スペイン語基礎 AⅠ① 中国語基礎 AⅠ① 韓国語基礎 AⅠ①		ドイツ語基礎 BⅠ① フランス語基礎 BⅠ① スペイン語基礎 BⅠ① 中国語基礎 BⅠ① 韓国語基礎 BⅠ①					
			ドイツ語基礎 AⅡ① フランス語基礎 AⅡ① スペイン語基礎 AⅡ① 中国語基礎 AⅡ① 韓国語基礎 AⅡ①		ドイツ語基礎 BⅡ① フランス語基礎 BⅡ① スペイン語基礎 BⅡ① 中国語基礎 BⅡ① 韓国語基礎 BⅡ①					
			ドイツ語基礎 AⅢ① フランス語基礎 AⅢ① スペイン語基礎 AⅢ① 中国語基礎 AⅢ① 韓国語基礎 AⅢ①		ドイツ語基礎 BⅢ① フランス語基礎 BⅢ① スペイン語基礎 BⅢ① 中国語基礎 BⅢ① 韓国語基礎 BⅢ①					

科目 区分			授 業 科 目 ・ 単 位 数 ・ 年 次 ・ タ ー ム												
			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次						
			第 1	第 2	第 3	第 4	第 5	第 6	第 7	第 8					
国 際 理 解 科 目	初 修 外 国 語 ・ 異 文 化 理 解 科 目	発 展 A 群					ドイツ語演習言語と文化Ⅰ② ドイツ語演習言語と文化Ⅱ② ドイツ語演習検定対策Ⅰ② ドイツ語演習検定対策Ⅱ② ドイツ語演習プレゼンテーションⅠ② ドイツ語演習プレゼンテーションⅡ②								
							フランス語演習言語と文化Ⅰ② フランス語演習言語と文化Ⅱ② フランス語演習検定対策Ⅰ② フランス語演習検定対策Ⅱ② フランス語演習プレゼンテーションⅠ② フランス語演習プレゼンテーションⅡ②								
							スペイン語演習言語と文化Ⅰ② スペイン語演習言語と文化Ⅱ② スペイン語演習検定対策Ⅰ② スペイン語演習検定対策Ⅱ② スペイン語演習プレゼンテーションⅠ② スペイン語演習プレゼンテーションⅡ②								
							中国語演習言語と文化Ⅰ② 中国語演習言語と文化Ⅱ② 中国語演習検定対策Ⅰ② 中国語演習検定対策Ⅱ② 中国語演習プレゼンテーションⅠ② 中国語演習プレゼンテーションⅡ②								
							韓国語演習言語と文化Ⅰ② 韓国語演習言語と文化Ⅱ② 韓国語演習検定対策Ⅰ② 韓国語演習検定対策Ⅱ② 韓国語演習プレゼンテーションⅠ② 韓国語演習プレゼンテーションⅡ②								
							ドイツ語会話Ⅰ① 中国語会話Ⅰ①		フランス語会話Ⅰ①		スペイン語会話Ⅰ①				
									韓国語会話Ⅰ①						
									ドイツ語会話Ⅱ①		フランス語会話Ⅱ①		スペイン語会話Ⅱ①		
									中国語会話Ⅱ①		韓国語会話Ⅱ①				
											ドイツ語会話Ⅲ①		フランス語会話Ⅲ①		
											スペイン語会話Ⅲ①		中国語会話Ⅲ①		
							発 展 B 群					韓国語会話Ⅲ①			
												ドイツ語会話Ⅳ①		フランス語会話Ⅳ①	
												スペイン語会話Ⅳ①		中国語会話Ⅳ①	
												韓国語会話Ⅳ①			
							発 展 C 群	異文化理解A②							
		異文化理解B（ドイツ語圏）②						異文化理解B（フランス語圏）②							
		異文化理解B（スペイン語圏）②						異文化理解B（中国語圏）②							
				異文化理解B（韓国語圏）②											
D 群				世界の言語①											
			国 際 教 養 科 目	コ ア	近現代日本史A②		近現代日本史B②		戦後の日本と世界②						
現代日本の地理②		現代世界の地理②													
国際教養総合講義②															
		近現代アジア史A②			近現代アジア史B②		近現代欧米史A②								
		近現代欧米史B②		歴史トピックス②		アジア地域理解②									
発 展			ヨーロッパ地域理解②		北米地域理解②										
			イスラーム世界理解②		地域理解トピックス②										
留 学			海外研修A②						海外研修B②						

■ 文学部科目

1-2 英語英米文学科

(注) ○印の数字は、当該科目の単位数を表す。

科目区分			授 業 科 目 ・ 単 位 数 ・ 年 次 ・ タ ー ム							
			1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次	
			第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8
専 門 科 目	必修科目	基幹科目	英米文学概論Ⅰ②		英語学概論Ⅰ②					
					英米文学概論Ⅱ②		英語学概論Ⅱ②			
					イギリス文学史Ⅰ②		アメリカ文学史Ⅰ②			
							イギリス文学史Ⅱ②		アメリカ文学史Ⅱ②	
		英語強化科目	CALLⅠ①							
					CALLⅡ①					
					Academic Reading①		Integrated EnglishⅠ①			
							Academic WritingⅠ①		Integrated EnglishⅡ①	
		演習科目					Academic WritingⅡ②			
			1年次演習②							
					2年次演習Ⅰ②					
							2年次演習Ⅱ②			
							演習Ⅰ②			
									演習Ⅱ②	
									演習Ⅲ②	
									演習Ⅳ②	
									卒業論文⑧	
	選択科目	基本講義科目			文学理論Ⅰ② 文学理論Ⅱ② 英米文学を読むための思想A② 英米文学を読むための思想B② 児童文学論A② 児童文学論B② 英語史Ⅰ② 英語史Ⅱ② 英文法Ⅰ② 英文法Ⅱ② 英語教育Ⅰ② 英語教育Ⅱ② Teaching English as a Second LanguageⅠ② Teaching English as a Second LanguageⅡ② 英語音声学Ⅰ② 英語音声学Ⅱ② メディア英語A② メディア英語B②					
		研究講義科目			イギリス文学・文化AⅠ② イギリス文学・文化AⅡ② イギリス文学・文化BⅠ② イギリス文学・文化BⅡ② イギリス文学・文化CⅠ② イギリス文学・文化CⅡ② イギリス文学・文化DⅠ② イギリス文学・文化DⅡ② アメリカ文学・文化AⅠ② アメリカ文学・文化AⅡ② アメリカ文学・文化BⅠ② アメリカ文学・文化BⅡ② アメリカ文学・文化CⅠ② アメリカ文学・文化CⅡ② アメリカ文学・文化DⅠ② アメリカ文学・文化DⅡ② 英語学Ⅰ② 英語学Ⅱ②					
		Language & Culture					Advanced Oral English A② Advanced Oral English B②			
					異文化コミュニケーション② 異文化交流② 英語圏文化Ⅰ② 英語圏文化Ⅱ② 英語圏文化Ⅲ② 英語圏文化Ⅳ② 翻訳・通訳セミナーA② 翻訳・通訳セミナーB② Topics in British Culture A② Topics in British Culture B② Topics in American Culture A② Topics in American Culture B②					
		関連科目	キリスト教思潮A②		イギリスの歴史と文化A②		アメリカの歴史と文化A②			
					キリスト教思潮B②		イギリスの歴史と文化B②		アメリカの歴史と文化B②	
					Practical English Training①					
					イギリス文化・文化史特講A② イギリス文化・文化史特講B② アメリカ文化・文化史特講A② アメリカ文化・文化史特講B② ヨーロッパの文学A② ヨーロッパの文学B② 英語圏文学・文化A② 英語圏文学・文化B② 英語圏文学・文化C② 英語圏文学・文化D② English Workshop A① English Workshop B① English Workshop C① English Workshop D①					

2 日本文学科

(注) ○印の数字は、当該科目の単位数を表す。

科 目 区 分		授 業 科 目 ・ 単 位 数 ・ 年 次 ・ タ ー ム								
		1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		
		第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8	
専 門 科 目	必修 科目	基礎科目	日本文学研究の基礎② 日本語研究の基礎②							
			日本文学入門② 日本語法②							
		基本ゼミ 科目			古典文学基礎研究Ⅰ① 近・現代文学基礎研究Ⅰ① 日本語学基礎研究Ⅰ①					
					古典文学基礎研究Ⅱ① 近・現代文学基礎研究Ⅱ① 日本語学基礎研究Ⅱ①					
			日本文学演習Ⅰ② 日本語学演習Ⅰ②							
							日本文学演習Ⅱ② 日本語学演習Ⅱ②			
									日本文学演習Ⅲ② 日本語学演習Ⅲ②	
									日本文学演習Ⅳ② 日本語学演習Ⅳ②	
			卒業論文⑧							
	選択 科目	文学史科目	古代日本文学史A② 中世日本文学史A② 近世日本文学史A② 近代日本文学史A②							
			古代日本文学史B② 中世日本文学史B② 近世日本文学史B② 近代日本文学史B②							
		日本語学 講義科目	日本語の歴史A②							
			日本語の歴史B②							
			日本語学講義A② 日本語学講義B② 日本語学講義C② 日本語学講義D② 日本語学講義E② 日本語学講義F②							
		日本文学 講義科目			文学作品をどう読むか②					
					古代日本文学講義A②		古代日本文学講義B②			
					古代日本文学講義C②		古代日本文学講義D②			
					古代日本文学講義E②		古代日本文学講義F②			
					中世日本文学講義A②		中世日本文学講義B②			
					中世日本文学講義C②		中世日本文学講義D②			
					近世日本文学講義A②		近世日本文学講義B②			
					近世日本文学講義C②		近世日本文学講義D②			
		近・現代日本文学講義A②		近・現代日本文学講義B②						
		近・現代日本文学講義C②		近・現代日本文学講義D②						
学際講義 科目				日本語・日本文学総合テーマ講義A② 日本語・日本文学総合テーマ講義B② 日本語・日本文学総合テーマ講義C② 日本語・日本文学総合テーマ講義D② 日本漢文学A② 日本漢文学B② 漢文学A② 漢文学B② 中国文学史A② 中国文学史B②						
	比較文学A② 外から見た日本語・日本文学A②									
	比較文学B② 外から見た日本語・日本文学B②									
日本探究 科目	日本探究特別講義A② 日本美術史A② 日本民俗学A②									
			日本探究特別講義B② 日本美術史B② 日本民俗学B②							
			日本思想講義A② 日本思想講義B② 日本の風土と景観A② 日本の風土と景観B② 物語と絵画A② 物語と絵画B② 日本演劇史A② 日本演劇史B②							
日本語力 錬成科目			日本語を正しく話す②							
			上級表現講座② 日本語・日本文学のためのコンピュータ② 上級漢字講座②							

3 国際文化学科

(注) ○印の数字は、当該科目の単位数を表す。

科目区分			授 業 科 目 ・ 単 位 数 ・ 年 次 ・ タ ー ム							
			1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次	
			第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8
専 門 科 目	必修科目	演 習 系 目	国際文化研究の現在②							
			国際文化基礎演習Ⅰ②							
			国際文化基礎演習Ⅱ②							
			国際文化基礎演習Ⅲ②							
			演習Ⅰ②							
			演習Ⅱ②							
			演習Ⅲ②							
			演習Ⅳ②							
			卒業論文⑧							
	選択科目	国 際 関 係 科 目	国際関係論② 平和学②							
			国際文化論②		国際協力論②		国際政治経済学②			
				国際協力論特講A②		国際協力論特講B②		国際関係論特講A②		
				国際関係論特講B②		平和学特講②				
		文化人類学 科 目	文化人類学② 社会人類学②							
			民族誌②		開発の人類学②		フィールドワーク論②			
			エスニック・スタディーズ②							
		歴史・文化 研 究 科 目	フランスの歴史と文化A② ドイツの歴史と文化A② イギリスの歴史と文化A② アメリカの歴史と文化A② 日本の歴史と文化A② 比較文化研究A②							
					フランスの歴史と文化B②		ドイツの歴史と文化B②		イギリスの歴史と文化B②	
					イギリスの歴史と文化B②		アメリカの歴史と文化B②			
					日本の歴史と文化B②		アジアの歴史と文化A②			
			アジアの歴史と文化B②		比較文化研究B②					
			地域研究A②		地域研究B②		地域研究C②			
			地域研究D②							
			文化交流史②		ギリシア・ローマ文化A②		ギリシア・ローマ文化B②			
			フランス文化・文化史特講A②		フランス文化・文化史特講B②					
			ドイツ文化・文化史特講A②		ドイツ文化・文化史特講B②					
選択科目	広 域 科 目	国際ボランティア① 世界の言語文化A② 世界の言語文化B② 世界の宗教文化② 国際文化研究A② 国際文化研究B② 西洋美術史② 東洋美術史② 日本美術史A② 社会学入門②								
		アラビア語の世界Ⅰ② アラビア語の世界Ⅱ②								
		実践国際コミュニケーションA② 実践国際コミュニケーションB②								
	広 域 基 礎 科 目			日本史概論Ⅰ② 日本史概論Ⅱ② 世界史概論Ⅰ② 世界史概論Ⅱ② 人文地理学② 自然地理学② 地誌学② 現代の政治学②						

4 現代社会学科

(注) ○印の数字は、当該科目の単位数を表す。

科目区分			授 業 科 目 ・ 単 位 数 ・ 年 次 ・ タ ー ム									
			1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次			
			第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8		
専 門 科 目	必修科目	必修専門	現代社会入門②		コミュニケーション論入門②							
			社会学入門②		メディア論入門②							
			社会学史②		メディア史入門②							
			現代社会研究の基礎②		現代社会研究の方法Ⅰ②							
		演習科目	現代社会研究の方法Ⅱ②		演習Ⅰ②							
			演習Ⅱ②		演習Ⅲ②							
			演習Ⅳ②		卒業論文⑧							
			社会学基礎		家族社会学②		都市社会学②		社会心理学②		歴史と社会②	
			ジェンダーの社会学②		労働社会学②		アイデンティティの社会学②					
			コミュニティの社会学②		環境社会学②		生活文化史②					
	選択科目	社会学発展	教育社会学②		社会階層論②		ライフコースの社会学②					
			ボランティア・NPOの社会学②		文化社会学②		科学技術の社会学②					
			スポーツ社会学②		経済社会学②		グローバリゼーションの社会学②					
			社会福祉事業史②		社会福祉概論②							
		社会調査	社会調査入門②		社会調査の方法②		量的調査入門（統計学）②					
			量的調査法（統計分析）②		質的調査入門（資料分析）②							
		メディア研究基礎	情報社会論②		メディア文化論②							
			ネットワーク社会論②		メディア産業論②		メディア制度論②					
		メディア研究発展	メディア制度史②		マス・メディアの歴史②		マス・コミュニケーション論②					
			マス・コミュニケーション論②		メディア・リテラシー論②		ジャーナリズム論②					
	実践科目	放送通信論②		広告論②		出版論②		新聞論②				
		情報デザイン論②		グローバリゼーションとメディア②		デジタル・メディア論②		メディアの理論②				
		社会調査演習Ⅰ②		社会調査演習Ⅱ②		メディア・リテラシー演習A④						
	現代社会研究	メディア・リテラシー演習B④		コミュニティ演習A②		コミュニティ演習B②		地域交流実践研究①				
		現代社会研究A②		現代社会研究B②								
		日本史概論Ⅰ②		日本史概論Ⅱ②		世界史概論Ⅰ②		自然地理学②				
	広域基礎科目	世界史概論Ⅱ②		人文地理学②		現代の政治学②						
		地誌学②										

(注) 選択科目の社会調査の科目のうち、「社会調査入門」及び「社会調査の方法」は、当該年次・タームにおいて履修しなければならない。

5 自由設計科目

(注) ○印の数字は、当該科目の単位数を表す。

科 目 区 分		授 業 科 目 ・ 単 位 数 ・ 年 次 ・ タ ー ム							
		1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次	
		第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8
文学部共通科目	トピック・セミナー		トピック・セミナーA② トピック・セミナーB② トピック・セミナーC② トピック・セミナーD② トピック・セミナーE② トピック・セミナーF②						
	こ と ば の 世 界		Active English Grammar① Practical English Grammar① ラテン語Ⅰ② ラテン語Ⅱ② 古典ギリシア語Ⅰ② 古典ギリシア語Ⅱ②						
	実践・発信する 文 化 演 習			発信する武蔵野地域文化② 実践する日本文化② Musashino Culture Studies ② Japanese Culture Studies②					
	文学部総合講義		文学部総合講義A② 文学部総合講義B② 文学部総合講義C② 文学部総合講義D②						
単位認定科目	資格課程認定単位		学校と社会② 教育史② 生涯教育研究② 生涯学習研究②						
	留学関係認定単位		海外研修C② 海外研修D② 海外研修E② 海外研修F② 海外研修G② 海外研修H②						
		海外研修J①※							
	全学共通科目 超 過 単 位								
学 際 科 目	成蹊国際コース		Independent Study I② Independent Study II② Independent Study III② Academic Listening② Cross Cultural Communication Skills② Discussion & Presentation② English for the Work Place② Essay Writing② Intensive Reading②						
			<Diversity> Global Perspectives② <Culture & History> Embracing Cultural Diversity② History and the World② International Societies and Representation of “Others” ② Regional Studies Seminar② Seminar on Culture② <International Society> Current Topics② Exploring Media Literacy② Global Peace Studies② Global Values② Science and Technology in the World② World Politics in Comparative Perspective② <Language> Seminar on Communication Strategy A② Seminar on Communication Strategy B② World Englishes②						
	他 学 科 ・ 他 学 部 ・ 他 大 学		他学科の専門科目、他学部の専門科目及び単位互換制度による他大学開講科目で修得した単位						

※英語英米文学科のみ対象となります。

6-1 特設科目（2014～2018年度 入学生）

（注）○印の数字は、当該科目の単位数を表す。

科 目 区 分			授 業 科 目 ・ 単 位 数 ・ 年 次 ・ タ ー ム							
			1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次	
			第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8
特 設 科 目	教 職 の 教 科 に 関 する 科 目		書道（書写を中心とする。）A② 書道（書写を中心とする。）B②							
	教 科 又 は 教 職 に 関 す る 科 目	学 校 図 書 館 司 書 教 諭 課 程 科 目							地域福祉実践研究② 教職総合演習② 共生社会実践研究②	
			学校経営と学校図書館② 学校図書館メディアの構成②							
			学習指導と学校図書館② 読書と豊かな人間性②							
	日 本 語 教 員 養 成 課 程 科 目		日本語教授論Ⅰ② 日本語教材研究Ⅰ②							
日本語教授論Ⅱ② 日本語教材研究Ⅱ②				日本語教育実習②						

（注1）教職の教科に関する科目のうち、「書道（書写を中心とする。）A」及び「書道（書写を中心とする。）B」は、教職課程登録者で中学校教諭免許状（国語）取得希望者のみ履修することができる。

（注2）教科又は教職に関する科目のうち、「教職総合演習」は教職課程登録者のみ履修することができる。

（注3）学校図書館司書教諭課程科目及び日本語教員養成課程科目の欄に掲げる授業科目は、それぞれ当該課程登録者のみ履修することができる。

6-2 特設科目（2019年度 入学生）

（注）○印の数字は、当該科目の単位数を表す。

科 目 区 分			授 業 科 目 ・ 単 位 数 ・ 年 次 ・ タ ー ム							
			1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次	
			第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8
特 設 科 目	教職の教科に関する専門的事項		書道（書写を中心とする。）A② 書道（書写を中心とする。）B②							
	教職課程の大学が独自に設定する科目		教職特論演習Ⅰ②						教職特論演習Ⅱ②	
		学校図書館司書教諭科目								
			学校経営と学校図書館②		学校図書館メディアの構成②					
			学習指導と学校図書館②		読書と豊かな人間性②					
			情報メディアの活用②							
	日 本 語 教 員 養 成 課 程 科 目		日本語教授論Ⅰ②		日本語教材研究Ⅰ②					
日本語教授論Ⅱ②			日本語教材研究Ⅱ②							
				日本語教育実習②						

（注1）教職の教科に関する専門的事項の「書道（書写を中心とする。）A」及び「書道（書写を中心とする。）B」は、教職課程登録者で中学校教諭免許状（国語）取得希望者のみ履修することができる。

（注2）教職課程の大学が独自に設定する科目のうち、「教職特論演習Ⅰ」「教職特論演習Ⅱ」は、教職課程登録者のみ履修することができ、「学校経営と学校図書館」から「情報メディアの活用」までの科目は、学校図書館司書教諭課程登録者のみ履修することができる。

（注3）日本語教員養成課程科目の欄に掲げる授業科目は、日本語教員養成課程登録者のみ履修することができる。

7-1 教職に関する科目（2014～2018年度 入学生）

（注）○印の数字は、当該科目の単位数を表す。

科 目 区 分		授 業 科 目 ・ 単 位 数 ・ 年 次 ・ タ ー ム							
		1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次	
		第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8
教 職 に 関 す る 科 目	教 職 の 意 義 に 関 する 科 目	教職研究②							
	教 職 の 基 礎 理 論 に 関 する 科 目	教育原論②							
		学校と社会②							
				教育史②		生涯教育研究②		生涯学習研究②	
	教育心理学②								
	教 育 課 程 及 び 指 導 法 に 関 する 科 目			教育課程の研究（特別活動論を含む。） ②					
		数学科教育法Ⅰ②		数学科教育法Ⅱ②		数学科教育法Ⅲ②		数学科教育法Ⅳ②	
		理科教育法Ⅰ②		理科教育法Ⅱ②		理科教育法Ⅲ②		理科教育法Ⅳ②	
		工業科教育法Ⅰ②		工業科教育法Ⅱ②		情報科教育法Ⅰ②		情報科教育法Ⅱ②	
				国語科教育法Ⅰ②		社会科・地理歴史科教育法②			
		社会科・公民科教育法②		英語科教育法Ⅰ②					
				国語科教育法Ⅱ②		国語科教育法Ⅲ②			
				国語科教育法Ⅳ②		社会科教育法A②			
				社会科教育法B②		地理歴史科教育法②			
				公民科教育法②		英語科教育法Ⅱ②			
				英語科教育法Ⅲ②		英語科教育法Ⅳ②			
				道徳教育論②					
				教育方法研究②					
生 徒 指 導、教 育 相 談 及 び 進 路 指 導 等 に 関 する 科 目	生活指導論②								
			教育相談②						
	教育実習研究①								
教 育 実 習							教育実習（中・高）⑤		
							教育実習（高）③		
教 職 実 践 演 習								教職実践演習 （中・高）②	

（注1）「学校と社会」、「教育史」、「生涯教育研究」及び「生涯学習研究」は、資格課程単位認定として卒業に必要な単位数に算入するとともに、各年度において履修することができる単位数に算入する。

（注2）前項に掲げる授業科目以外の科目は、教職課程登録者のみ履修することができる。

7-2 教職に関する科目（2019年度 入学生）

（注）○印の数字は、当該科目の単位数を表す。

科目区分		授業科目・単位数・年次・ターム							
		1年次		2年次		3年次		4年次	
		第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8
教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教職論②		教育原理②		教育心理学②			
				学校と社会②					
				特別支援教育概論②		教育課程論②			
	道徳、総合的学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目			生徒・進路指導論②					
				教育方法論②		教育相談②			
教科及び教科の指導法に関する科目	各教科の指導法					道徳教育の指導法②		総合的な学習の時間の指導法②	
						特別活動の指導法②			
						教育実習論①			
								教育実習（中・高）⑤	
								教育実習（高）③	
教科及び教科の指導法に関する科目	各教科の指導法							教職実践演習（中・高）②	
						国語科教育法Ⅰ②			
						社会科・地理歴史科教育法②			
						社会科・公民科教育法②			
						英語科教育法Ⅰ②			
教科及び教科の指導法に関する科目	各教科の指導法					国語科教育法Ⅱ②			
						社会科教育法A②			
						社会科教育法B②			
						英語科教育法Ⅱ②			
								国語科教育法Ⅲ②	
教科及び教科の指導法に関する科目	各教科の指導法							国語科教育法Ⅳ②	
								地理歴史科教育法②	
								公民科教育法②	
								英語科教育法Ⅲ②	
								英語科教育法Ⅳ②	

（注1）「学校と社会」は、資格課程単位認定として卒業に必要な単位数に算入するとともに、各年度において履修することができる単位数に算入する。

（注2）2年次以上に配当されている科目は、教職課程登録者のみ履修することができる。

カリキュラム科目一覧 (2014～2019年度入学生用)

1. 成蹊教養カリキュラム一覧表

科目区分			授業科目・単位数・配当年次								区分別 必要単位数		
			1年次		2年次		3年次		4年次				
			第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム	第5ターム	第6ターム	第7ターム	第8ターム			
成蹊大学	桃李目録	コア	フレッシュヤーズ・セミナー② プレッシュヤーズ講座①								2		
		発展	A群	【成蹊のアイデンティティを求めて】 成蹊を知る② 成蹊教養セミナー② 成蹊ボランティア②									
			B群	【成蹊と地域の共生をめざして】 武蔵野地域研究② 成蹊環境セミナー② 地域福祉論② 武蔵野市寄附講座②									
	C群	【他人を思いやる豊かな心を育て】 人権とジェンダー② 青年の心と身体② こどもと社会② 老人福祉論② 福祉社会に生きる② 情報保障とボランティア② 成蹊グローバルセミナーA② 成蹊グローバルセミナーB②											
	英語科目	コア	Freshers' English① College English (Listening & Speaking) I ① College English (Reading & Writing) I ①								9		
			College English (Listening & Speaking) II ① College English (Reading & Writing) II ①										
			College English (Global Topics) I ① College English (Local Topics) I ①										
		発展	College English (Global Topics) II ① College English (Local Topics) II ①										
			TOEFL Preparation Intermediate① TOEFL Preparation Advanced① TOEIC Preparation Intermediate① TOEIC Preparation Advanced① IELTS Preparation Intermediate① IELTS Preparation Advanced①										
	カリコンポ	コア	日本語表現講義② 実践漢字講座② 実践日本語表現② 実践話し方入門② 文章読解講座②								20		
		発展	古典日本語A② 古典日本語B②										
			テーマ別日本語表現② 実用文書の作り方・情報の伝え方②										
		コア	キャリアプランニング②										
		発展	ビジネストレーニングセミナー②(※2015年度以降入学生対象) キャリアセミナー② キャリア発展講義② International Internship②										
	統	コア	情報基礎②										
		発展	情報活用A② 情報活用B② 情報活用C② 情報活用D② 情報活用E② 情報活用F②										
			健康・スポーツの基礎②										
			ス ポ ー ツ	講義	スポーツと科学② スポーツと文化② スポーツと社会② 健康と科学② スポーツと身体②								
				演習	健康・スポーツの発展AⅡ② 健康・スポーツの発展AⅢ② 健康・スポーツの発展AⅣ② 健康・スポーツの発展BⅠ② 健康・スポーツの発展BⅡ② 健康・スポーツの発展BⅢ② 健康・スポーツの発展BⅣ② 健康・スポーツの発展SⅠ② 健康・スポーツの発展SⅡ② 健康・スポーツの発展SⅢ② 健康・スポーツの発展SⅣ②								
	教養カリキュラム	総合文化科目	人間と文化	コア	哲学の基礎② 倫理学の基礎② 心理学の基礎② 自己理解の心理学② 文学への招待②								34
発展			現代社会と哲学② 現代社会と倫理学② 現代社会と宗教② 日本の思想史② 脳科学と心② こころの健康と臨床② 音楽への招待② 美術への招待② 人間と美術② 多文化主義と文学② サブカルチャーと文学② 舞台芸術論② ことばの科学② ファッションと文化② 映像と文化② 映像と人間② 文化人類学の考え方②										
			社会と文化	コア	政治学の基礎② 経済学の基礎② 社会学と現代② 日本国憲法② 市民生活と法Ⅰ② 市民生活と法Ⅱ②								
発展			日本の政治② 人間の国際政治② 現代の国際政治② 日本と世界の経済② 企業と社会② 現代のマスメディア② コミュニケーションと社会② 社会心理学入門② 社会と統計② 裁判と社会② 生命倫理と法②										
			技術と科学	コア	科学的に考える② 環境と科学②								
文化創造系統		初修外国語・異文化理解科目	発展	コア	ドイツ語基礎AⅠ① ドイツ語基礎BⅠ① フランス語基礎AⅠ① フランス語基礎BⅠ① スペイン語基礎AⅠ① スペイン語基礎BⅠ① 中国語基礎AⅠ① 中国語基礎BⅠ① 韓国語基礎AⅠ① 韓国語基礎BⅠ①								14
				ドイツ語基礎AⅡ① ドイツ語基礎BⅡ① ドイツ語基礎AⅢ① ドイツ語基礎BⅢ① フランス語基礎AⅡ① フランス語基礎BⅡ① スペイン語基礎AⅡ① スペイン語基礎BⅡ① 中国語基礎AⅡ① 中国語基礎BⅡ① 韓国語基礎AⅡ① 韓国語基礎BⅡ①									
				ドイツ語基礎AⅢ① ドイツ語基礎BⅢ① フランス語基礎AⅢ① フランス語基礎BⅢ① スペイン語基礎AⅢ① スペイン語基礎BⅢ① 中国語基礎AⅢ① 中国語基礎BⅢ① 韓国語基礎AⅢ① 韓国語基礎BⅢ①									
				ドイツ語演習言語と文化Ⅰ② ドイツ語演習言語と文化Ⅱ② ドイツ語演習検定対策Ⅰ② ドイツ語演習検定対策Ⅱ② ドイツ語演習プレゼンテーションⅠ② ドイツ語演習プレゼンテーションⅡ② フランス語演習言語と文化Ⅰ② フランス語演習検定対策Ⅰ② フランス語演習プレゼンテーションⅠ② フランス語演習プレゼンテーションⅡ② スペイン語演習言語と文化Ⅰ② スペイン語演習言語と文化Ⅱ② スペイン語演習検定対策Ⅰ② スペイン語演習プレゼンテーションⅠ② スペイン語演習検定対策Ⅱ② スペイン語演習プレゼンテーションⅡ② 中国語演習言語と文化Ⅰ② 中国語演習言語と文化Ⅱ② 中国語演習検定対策Ⅰ② 中国語演習検定対策Ⅱ② 中国語演習プレゼンテーションⅠ② 中国語演習プレゼンテーションⅡ② 韓国語演習言語と文化Ⅰ② 韓国語演習言語と文化Ⅱ② 韓国語演習検定対策Ⅰ② 韓国語演習検定対策Ⅱ② 韓国語演習プレゼンテーションⅠ② 韓国語演習プレゼンテーションⅡ②									
				ドイツ語会話Ⅰ① ドイツ語会話Ⅱ① フランス語会話Ⅰ① フランス語会話Ⅱ① スペイン語会話Ⅰ① スペイン語会話Ⅱ① 中国語会話Ⅰ① 中国語会話Ⅱ① 韓国語会話Ⅰ① 韓国語会話Ⅱ①									
国際教養	国際理解科目	発展	ドイツ語会話Ⅲ① ドイツ語会話Ⅳ① フランス語会話Ⅲ① フランス語会話Ⅳ① スペイン語会話Ⅲ① スペイン語会話Ⅳ① 中国語会話Ⅲ① 中国語会話Ⅳ① 韓国語会話Ⅲ① 韓国語会話Ⅳ①										
			異文化理解A②										
			異文化理解B(ドイツ語圏)② 異文化理解B(フランス語圏)② 異文化理解B(スペイン語圏)② 異文化理解B(中国語圏)② 異文化理解B(韓国語圏)										
			世界の言語①										
			近現代日本史A② 近現代日本史B② 戦後の日本と世界② 現代日本の地理② 現代世界の地理②										
留学	海外研修A② 海外研修B②	国際教養総合講義②											
	発展	近現代アジア史A② 近現代アジア史B② 近現代欧米史A② 近現代欧米史B② 歴史トピックス② アジア地域理解② ヨーロッパ地域理解② 北米地域理解② イスラーム世界理解② 地域理解トピックス②											
留学	海外研修A② 海外研修B②												

2. 英語英米文学科カリキュラム一覧表(2019年度入学生適用)

科目区分			授業科目・単位数・配当年次								区分別 必要単位数									
			1年次		2年次		3年次		4年次											
			第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム	第5ターム	第6ターム	第7ターム	第8ターム										
専門科目	必修科目	基幹科目	英米文学概論Ⅰ②		英語学概論Ⅰ②						16									
					英米文学概論Ⅱ②		英語学概論Ⅱ②													
					イギリス文学史Ⅰ②		アメリカ文学史Ⅰ②													
					イギリス文学史Ⅱ②		アメリカ文学史Ⅱ②													
		英語強化科目	CALLⅠ①										8							
					CALLⅡ①															
					Academic Reading①		Integrated EnglishⅠ①													
							Academic WritingⅠ①		Integrated EnglishⅡ①											
		演習科目			1年次演習②						Academic WritingⅡ②		22							
					2年次演習Ⅰ②															
							2年次演習Ⅱ②													
							演習Ⅰ②													
	選択科目	科目	基本講義科目			文学理論Ⅰ②		文学理論Ⅱ②		英米文学を読むための思想A②		英米文学を読むための思想B②		児童文学論A②		児童文学論B②		10以上		
						英語史Ⅰ②		英語史Ⅱ②		英文法Ⅰ②		英文法Ⅱ②		英語教育Ⅰ②		英語教育Ⅱ②			メディア英語A②	
			研究講義科目			Teaching English as a Second LanguageⅠ②		Teaching English as a Second LanguageⅡ②		英語音声Ⅰ②		英語音声Ⅱ②						8以上		
						イギリス文学・文化AⅠ②		イギリス文学・文化AⅡ②		イギリス文学・文化BⅠ②		イギリス文学・文化BⅡ②		イギリス文学・文化CⅠ②		イギリス文学・文化CⅡ②				
				イギリス文学・文化DⅠ②		イギリス文学・文化DⅡ②		イギリス文学・文化EⅠ②		イギリス文学・文化EⅡ②		アメリカ文学・文化AⅠ②		アメリカ文学・文化AⅡ②						
				アメリカ文学・文化CⅠ②		アメリカ文学・文化CⅡ②		アメリカ文学・文化DⅠ②		アメリカ文学・文化DⅡ②		アメリカ文学・文化EⅠ②		アメリカ文学・文化EⅡ②						
Language & Culture							Advanced Oral English A②		Advanced Oral English B②								20以上			
					異文化コミュニケーション②		異文化交流②		英語圏文化Ⅰ②		英語圏文化Ⅱ②		英語圏文化Ⅲ②		英語圏文化Ⅳ②					
関連科目					翻訳・通訳セミナーA②		翻訳・通訳セミナーB②										90			
					Topics in British Culture A②		Topics in British Culture B②		Topics in American CultureA②		Topics in American CultureB②									
			キリスト教思潮A②		イギリスの歴史と文化A②		アメリカの歴史と文化A②													
					キリスト教思潮B②		イギリスの歴史と文化B②		アメリカの歴史と文化B②		Practical English Training①									
自由設計科目			共通科目	文学部	トピック・セミナー		トピック・セミナーA②		トピック・セミナーB②		トピック・セミナーC②		トピック・セミナーD②		トピック・セミナーE②		トピック・セミナーF②		(最大24)	
					ことばの世界		Active English Grammar①		Practical English Grammar①		ラテン語Ⅰ②		ラテン語Ⅱ②		古典ギリシア語Ⅰ②		古典ギリシア語Ⅱ②			
				実践・発信する文化演習			発信する武蔵野地域文化②		実践する日本文化②		Musashino Culture Studies②		Japanese Culture Studies②							
					文学部総合講義		文学部総合講義A②		文学部総合講義B②		文学部総合講義C②		文学部総合講義D②							
		単位認定科目	資格課程認定単位		学校と社会②															
	留学関係認定単位		海外研修C②		海外研修D②		海外研修E②		海外研修F②		海外研修G②		海外研修H②							
	成蹊教養カリキュラム超過単位		海外研修J①																	
	6単位まで卒業に必要な修得単位数に算入																			
	学際科目	成蹊国際コース			Independent StudyⅠ②															
							Independent StudyⅡ②													
									Independent StudyⅢ②											
					Academic Listening②		Cross Cultural Communication Skills②		Discussion & Presentation②		English for the Work Place②									
	他学科・他学部・他大学			Essay Writing②		Intensive Reading②														
				<Diversity>		Global Perspectives②														
				<Culture & History>		Embracing Cultural Diversity②		History and the World②												
				<International Society>		International Societies and Representation of “Others”②		Regional Studies Seminar②		Seminar on Culture②										
		<Language>		Science and Technology in the World②		World Politics in Comparative Perspective②														
				Seminar on Communication Strategy A②		Seminar on Communication Strategy B②		World Englishes②												

卒業に必要な単位数合計 124単位

3-1. 日本文学科カリキュラム一覧表(2014～2018年度入学生適用)

科目区分			授業科目・単位数・配当年次								区分別 必要単位数								
			1年次		2年次		3年次		4年次										
			第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム	第5ターム	第6ターム	第7ターム	第8ターム									
専 門 科 目	必修 科目	基礎科目	日本文学研究の基礎②		日本語研究の基礎②								8	30					
			日本文学入門②		日本語法②														
		基本ゼミ科目			古典文学基礎研究Ⅰ①		近・現代文学基礎研究Ⅰ①		日本語学基礎研究Ⅰ①						22				
					古典文学基礎研究Ⅱ①		近・現代文学基礎研究Ⅱ①		日本語学基礎研究Ⅱ①										
							日本文学演習Ⅰ②		日本語学演習Ⅰ②										
							日本文学演習Ⅱ②		日本語学演習Ⅱ②										
									日本文学演習Ⅲ②		日本語学演習Ⅲ②		卒業論文⑧						
													日本文学演習Ⅳ② 日本語学演習Ⅳ②						
	選択 科目	文学史科目	古代日本文学史A②		中世日本文学史A②		近世日本文学史A②		近代日本文学史A②						8 以上	42 以上			
					古代日本文学史B②		中世日本文学史B②		近世日本文学史B②		近代日本文学史B②								
		日本語学講義科目	日本語の歴史A②		日本語の歴史B②								4 以上						
					日本語学講義A②		日本語学講義B②		日本語学講義C②		日本語学講義D②			日本語学講義E②			日本語学講義F②		
		日本文学講義科目			文学作品をどう読むか②														
					古代日本文学講義A②		古代日本文学講義B②		古代日本文学講義C②		古代日本文学講義D②		古代日本文学講義E②		古代日本文学講義F②				
					中世日本文学講義A②		中世日本文学講義B②		中世日本文学講義C②		中世日本文学講義D②								
					近世日本文学講義A②		近世日本文学講義B②		近世日本文学講義C②		近世日本文学講義D②								
		学際講義科目			近・現代日本文学講義A②		近・現代日本文学講義B②		近・現代日本文学講義C②		近・現代日本文学講義D②								
					日本語・日本文学総合テーマ講義A②		日本語・日本文学総合テーマ講義B②		日本語・日本文学総合テーマ講義C②										
					日本語・日本文学総合テーマ講義D②		日本漢文学A②		日本漢文学B②		漢文学A②		漢文学B②		中国文学史A②		中国文学史B②		
					比較文学A②		外から見た日本語・日本文学A②												
		日本探究科目			比較文学B②		外から見た日本語・日本文学B②												
			日本探究特別講義A②		日本美術史A②		日本民俗学A②												
					日本探究特別講義B②		日本美術史B②		日本民俗学B②										
					日本思想講義A②		日本思想講義B②		日本の風土と景観A②		日本の風土と景観B②								
					物語と絵画A②		物語と絵画B②		日本演劇史A②		日本演劇史B②								
日本語力錬成科目			日本語を正しく話す②																
					上級表現講座②		日本語・日本文学のためのコンピュータ②		上級漢字講座②										
自 由 設 計	共通 文 学 部 科目	トピック・セミナー			トピック・セミナーA②		トピック・セミナーB②		トピック・セミナーC②		トピック・セミナーD②		トピック・セミナーE②		トピック・セミナーF②				
		ことばの世界			Active English Grammar①		Practical English Grammar①		ラテン語Ⅰ②		ラテン語Ⅱ②		古典ギリシア語Ⅰ②		古典ギリシア語Ⅱ②				
		実践・発信する文化演習			発信する武蔵野地域文化②		実践する日本文化②		Musashino Culture Studies②		Japanese Culture Studies②								
		文学部総合講義			文学部総合講義A②		文学部総合講義B②		文学部総合講義C②		文学部総合講義D②								
	単位 認定 科目	資格課程認定単位			学校と社会②														
		留学関係認定単位			教育史②		生涯教育研究②		生涯学習研究②										
		成蹊教養カリキュラム超過単位			海外研修C②		海外研修D②		海外研修E②		海外研修F②		海外研修G②		海外研修H②				
				6単位まで卒業に必要な修得単位数に算入															
	学 際 科 目	成蹊国際コース			Independent StudyⅠ②														
					Independent StudyⅡ②														
							Independent StudyⅢ②												
					Academic Listening②		Cross Cultural Communication Skills②		Discussion & Presentation②		English for the Work Place②								
			Essay Writing②		Intensive Reading②														
			<Diversity>		Global Perspectives②														
			<Culture & History>		Embracing Cultural Diversity②														
			<International Society>		Current Topics②														
他学科・他学部・他大学				他学科の専門科目、他学部の専門科目および単位互換制度による他大学開講科目で修得した単位															

卒業に必要な単位数合計 124単位

3-2. 日本文学科カリキュラム一覧表(2019年度入学生適用)

科目区分		授業科目・単位数・配当年次								区分別 必要単位数						
		1年次		2年次		3年次		4年次								
		第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム	第5ターム	第6ターム	第7ターム	第8ターム							
専 門 科 目	必修科目	基礎科目	日本文学研究の基礎②		日本語研究の基礎②								8	30		
			日本文学入門②		日本語法②								22			
	基本ゼミ科目			古典文学基礎研究Ⅰ①		近・現代文学基礎研究Ⅰ①		日本語学基礎研究Ⅰ①								
						古典文学基礎研究Ⅱ①		近・現代文学基礎研究Ⅱ①		日本語学基礎研究Ⅱ①						
								日本文学演習Ⅰ②		日本語学演習Ⅰ②						
								日本文学演習Ⅱ②		日本語学演習Ⅱ②		日本文学演習Ⅲ② 卒業論文⑤				
	選択科目	文学史科目	古代日本文学史A②		中世日本文学史A②		近世日本文学史A②		近代日本文学史A②						8以上	
					古代日本文学史B②		中世日本文学史B②		近世日本文学史B②		近代日本文学史B②				4以上	
		日本語学講義科目	日本語の歴史A②													
					日本語の歴史B②											
		日本文学講義科目				日本語学講義A②		日本語学講義B②		日本語学講義C②		日本語学講義D②		日本語学講義E② 日本語学講義F②		
				文学作品をどう読むか②												
						古代日本文学講義A②		古代日本文学講義B②		古代日本文学講義C②		古代日本文学講義D②		古代日本文学講義E② 古代日本文学講義F②		
		学際講義科目				中世日本文学講義A②		中世日本文学講義B②		中世日本文学講義C②		中世日本文学講義D②				
						近世日本文学講義A②		近世日本文学講義B②		近世日本文学講義C②		近世日本文学講義D②				
						近・現代日本文学講義A②		近・現代日本文学講義B②		近・現代日本文学講義C②		近・現代日本文学講義D②				
日本探究科目				日本語・日本文学総合テーマ講義A②		日本語・日本文学総合テーマ講義B②		日本語・日本文学総合テーマ講義C②								
				日本語・日本文学総合テーマ講義D②		日本漢文学A②		日本漢文学B②		漢文学A② 漢文学B②		中国文学史A② 中国文学史B②				
		比較文学A② 外から見た日本語・日本文学A②														
				比較文学B② 外から見た日本語・日本文学B②												
		日本探究特別講義A②		日本美術史A② 日本民俗学A②												
自由設計科目	共通文 学 部 目	トピック・セミナー			トピック・セミナーA②		トピック・セミナーB②		トピック・セミナーC②		トピック・セミナーD②		トピック・セミナーE② トピック・セミナーF②		90	
		ことばの世界			Active English Grammar①		Practical English Grammar①		ラテン語Ⅰ②		ラテン語Ⅱ②		古典ギリシア語Ⅰ② 古典ギリシア語Ⅱ②			
	単位 目 認 定	実践・発信する文化演習					発信する武蔵野地域文化②		実践する日本文化②		Musashino Culture Studies②		Japanese Culture Studies②		(最大18)	
		文学部総合講義			文学部総合講義A②		文学部総合講義B②		文学部総合講義C②		文学部総合講義D②					
		資格課程認定単位			学校と社会②											
		留学関係認定単位			海外研修C②		海外研修D②		海外研修E②		海外研修F② 海外研修G② 海外研修H②					
	学 際 科 目	成蹊教養カリキュラム超過単位			6単位まで卒業に必要な修得単位数に算入											
		成蹊国際コース				Independent StudyⅠ②										
								Independent StudyⅡ②								
										Independent StudyⅢ②						
					Academic Listening②		Cross Cultural Communication Skills②		Discussion & Presentation②		English for the Work Place②					
					Essay Writing②		Intensive Reading②									
他学科・他学部・他大学				<Diversity>		Global Perspectives②										
				<Culture & History>		Embracing Cultural Diversity②		History and the World②								
				International Societies and Representation of "Others"②		Regional Studies Seminar②		Seminar on Culture②								
				<International Society>		Current Topics②		Exploring Media Literacy②		Global Peace Studies②		Global Values②				
				Science and Technology in the World②		World Politics in Comparative Perspective②										
				Seminar on Communication Strategy A②		Seminar on Communication Strategy B②		World Englishes②								

卒業に必要な単位数合計 124単位

4-1. 国際文化学科カリキュラム一覧表(2014～2018年度入学生適用)

科目区分		授業科目・単位数・配当年次								区分別 必要単位数		
		1年次		2年次		3年次		4年次				
		第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム	第5ターム	第6ターム	第7ターム	第8ターム			
専 門 科 目	必修科目	演習系科目	国際文化研究の現在②								24	
			国際文化基礎演習Ⅰ②									
			国際文化基礎演習Ⅱ②									
			国際文化基礎演習Ⅲ②									
			演習Ⅰ②									
			演習Ⅱ②									
	選択必修科目	国際関係科目	国際関係論② 平和学②								4以上	
			国際文化論② 国際協力論② 国際政治経済学②									
		文化人類学科目	国際協力論特講A② 国際協力論特講B② 国際関係論特講A② 国際関係論特講B② 平和学特講②								4以上	
			文化人類学② 社会人類学②									
		歴史・文化研究科目	民族誌② 開発の人類学② フィールドワーク論② エスニック・スタディーズ②								26以上	
			文化人類学特講② 社会人類学特講②									
			フランスの歴史と文化A② ドイツの歴史と文化A② イギリスの歴史と文化A② アメリカの歴史と文化A② 日本の歴史と文化A② 比較文化研究A②									
			フランスの歴史と文化B② ドイツの歴史と文化B② イギリスの歴史と文化B② アメリカの歴史と文化B② 日本の歴史と文化B② 比較文化研究B②									
			アジアの歴史と文化A② アジアの歴史と文化B② 地域研究A② 地域研究B② 地域研究C② 地域研究D② 文化交流史②									
			ギリシア・ローマ文化A② ギリシア・ローマ文化B②									
		選択科目	広域科目	フランス文化・文化史特講A② フランス文化・文化史特講B② ドイツ文化・文化史特講A② ドイツ文化・文化史特講B② イギリス文化・文化史特講A② イギリス文化・文化史特講B② アメリカ文化・文化史特講A② アメリカ文化・文化史特講B② 日本文化・文化史特講A② 日本文化・文化史特講B② アジア文化・文化史特講A② アジア文化・文化史特講B②								
				国際ボランティア① 世界の言語文化A② 世界の言語文化B② 世界の宗教文化② 国際文化研究A② 国際文化研究B② 西洋美術史② 東洋美術史② 日本美術史A② 社会学入門②								
		広域基礎科目	アラビア語の世界Ⅰ② アラビア語の世界Ⅱ② 実践国際コミュニケーションA② 実践国際コミュニケーションB② 日本史概論Ⅰ② 日本史概論Ⅱ② 世界史概論Ⅰ② 世界史概論Ⅱ② 人文地理学② 自然地理学② 地誌学② 現代の政治学②									
		自 由 設 計 科 目	共通文学部	トピック・セミナー	トピック・セミナーA② トピック・セミナーB② トピック・セミナーC② トピック・セミナーD② トピック・セミナーE② トピック・セミナーF②							
ことばの世界	Active English Grammar① Practical English Grammar① ラテン語Ⅰ② ラテン語Ⅱ② 古典ギリシア語Ⅰ② 古典ギリシア語Ⅱ②											
実践・発信する文化演習	発信する武蔵野地域文化② 実践する日本文化② Musashino Culture Studies② Japanese Culture Studies②											
文学部総合講義	文学部総合講義A② 文学部総合講義B② 文学部総合講義C② 文学部総合講義D②											
単位認定科目	資格課程認定単位		学校と社会②									
			教育史② 生涯教育研究② 生涯学習研究②									
	留学関係認定単位		海外研修C② 海外研修D② 海外研修E② 海外研修F② 海外研修G② 海外研修H②									
成蹊教養カリキュラム超過単位	6単位まで卒業に必要な修得単位数に算入											
学際科目	成蹊国際コース		Independent StudyⅠ②								(最大40)	
			Independent StudyⅡ②									
		Independent StudyⅢ②										
		Academic Listening② Cross Cultural Communication Skills② Discussion & Presentation② English for the Work Place② Essay Writing② Intensive Reading②										
		<Diversity> Global Perspectives② <Culture & History> Embracing Cultural Diversity② History and the World② International Societies and Representation of "Others"② Regional Studies Seminar② Seminar on Culture② <International Society> Current Topics② Exploring Media Literacy② Global Peace Studies② Global Values② Science and Technology in the World② World Politics in Comparative Perspective② <Language> Seminar on Communication Strategy A② Seminar on Communication Strategy B② World Englishes②										
他学科・他学部・他大学	他学科の専門科目、他学部の専門科目および単位互換制度による他大学開講科目で修得した単位											

卒業に必要な単位数合計 124単位

4-2. 国際文化学科カリキュラム一覧表(2019年度入学生適用)

科目区分		授業科目・単位数・配当年次								区分別 必要単位数		
		1年次		2年次		3年次		4年次				
		第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム	第5ターム	第6ターム	第7ターム	第8ターム			
専 門 科 目	必修 科目	演習系科目	国際文化研究の現在②								24	
			国際文化基礎演習Ⅰ②									
			国際文化基礎演習Ⅱ②									
			国際文化基礎演習Ⅲ②									
			演習Ⅰ②									
			演習Ⅱ②									
	選択 必修 科目	国際関係科目	国際関係論② 平和学②								4 以上	
			国際文化論② 国際協力論② 国際政治経済学②									
		文化人類学科目	文化人類学② 社会人類学②								4 以上	
			民族誌② 開発の人類学② フィールドワーク論② エスニック・スタディーズ②									
		歴史・文化研究科目	文化人類学特講② 社会人類学特講②								26 以上	
			フランスの歴史と文化A② ドイツの歴史と文化A② イギリスの歴史と文化A② アメリカの歴史と文化A② 日本の歴史と文化A② 比較文化研究A②									
			フランスの歴史と文化B② ドイツの歴史と文化B② イギリスの歴史と文化B② アメリカの歴史と文化B② 日本の歴史と文化B② 比較文化研究B②									
			アジアの歴史と文化A② アジアの歴史と文化B② 地域研究A② 地域研究B② 地域研究C② 地域研究D② 文化交流史②									
			ギリシア・ローマ文化A② ギリシア・ローマ文化B②									
			フランス文化・文化史特講A② フランス文化・文化史特講B② ドイツ文化・文化史特講A② ドイツ文化・文化史特講B② イギリス文化・文化史特講A② イギリス文化・文化史特講B② アメリカ文化・文化史特講A② アメリカ文化・文化史特講B② 日本文化・文化史特講A② 日本文化・文化史特講B② アジア文化・文化史特講A② アジア文化・文化史特講B②									
	選択 科目	広域科目	国際ボランティア① 世界の言語文化A② 世界の言語文化B② 世界の宗教文化② 国際文化研究A② 国際文化研究B② 西洋美術史② 東洋美術史② 日本美術史A② 社会学入門②								90	
			アラビア語の世界Ⅰ② アラビア語の世界Ⅱ② 実践国際コミュニケーションA② 実践国際コミュニケーションB②									
	自 由 設 計 科 目	共通 文学 科目	日本史概論Ⅰ② 日本史概論Ⅱ② 世界史概論Ⅰ② 世界史概論Ⅱ② 人文地理学② 自然地理学② 地誌学② 現代の政治学②									
		単位 認定	トピック・セミナー ことばの世界	トピック・セミナーA② トピック・セミナーB② トピック・セミナーC② トピック・セミナーD② トピック・セミナーE② トピック・セミナーF②								(最大 40)
			実践・発信する 文化演習	Active English Grammar① Practical English Grammar① ラテン語Ⅰ② ラテン語Ⅱ② 古典ギリシア語Ⅰ② 古典ギリシア語Ⅱ②								
文学部総合講義			発信する武蔵野地域文化② 実践する日本文化② Musashino Culture Studies② Japanese Culture Studies②									
資格課程認定単位			文学部総合講義A② 文学部総合講義B② 文学部総合講義C② 文学部総合講義D②									
留学関係認定単位			学校と社会②									
成蹊教養カリキュラム 超過単位			海外研修C② 海外研修D② 海外研修E② 海外研修F② 海外研修G② 海外研修H②									
学際 科目		成蹊国際コース	6単位まで卒業に必要な修得単位数に算入									
			Independent StudyⅠ②									
	Independent StudyⅡ②											
	Independent StudyⅢ②											
	Academic Listening② Cross Cultural Communication Skills② Discussion & Presentation② English for the Work Place② Essay Writing② Intensive Reading②											
	<Diversity> Global Perspectives② <Culture & History> Embracing Cultural Diversity② History and the World② International Societies and Representation of "Others"② Regional Studies Seminar② Seminar on Culture② <International Society> Current Topics② Exploring Media Literacy② Global Peace Studies② Global Values② Science and Technology in the World② World Politics in Comparative Perspective② <Language> Seminar on Communication Strategy A② Seminar on Communication Strategy B② World Englishes②											
他学科・他学部・他大学		他学科の専門科目、他学部の専門科目および単位互換制度による他大学開講科目で修得した単位										

卒業に必要な単位数合計 124単位

5-1. 現代社会学科カリキュラム一覧表(2014~2018年度入学生適用)

科目区分			授業科目・単位数・配当年次								区分別 必要単位数			
			1年次		2年次		3年次		4年次					
			第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム	第5ターム	第6ターム	第7ターム	第8ターム				
専 門 科 目	必修科目	必修専門	現代社会入門②		コミュニケーション論入門②						12	34		
			社会学入門②		メディア論入門②									
			社会学史②		メディア史入門②									
		演習科目	現代社会研究の基礎②		現代社会研究の方法Ⅰ②		現代社会研究の方法Ⅱ②				22			
							演習Ⅰ②							
									演習Ⅱ②					
									演習Ⅲ② 卒業論文⑧					
	選択科目	社会学基礎	家族社会学② 都市社会学② 社会心理学② 歴史と社会②								34 以上	90		
			ジェンダーの社会学② 労働社会学② アイデンティティの社会学② コミュニティの社会学② 環境社会学② 生活文化史②											
		社会学発展	教育社会学② 社会階層論② ライフコースの社会学② ボランティア・NPOの社会学② 文化社会学② スポーツ社会学②		経済社会学② 科学技術の社会学② グローバリゼーションの社会学② 社会福祉概論② 社会福祉事業史②									
			社会調査入門②											
		社会調査	社会調査の方法②		量的調査入門（統計学）② 質的調査入門（資料分析）② 量的調査法（統計分析）② 質的調査法（インタビュー）②									
			情報社会学② メディア文化論②											
		メディア研究基礎	ネットワーク社会学② メディア産業論② メディア制度論② メディア制度史② マス・メディアの歴史② マス・コミュニケーション論②		メディア・リテラシー論②									
			ジャーナリズム論② 新聞論② 出版論② 放送通信論② 広告論② デジタル・メディア論② 情報デザイン論②		グローバリゼーションとメディア② メディアの理論②									
		メディア研究発展			社会調査演習Ⅰ② 社会調査演習Ⅱ②									
			メディア・リテラシー演習A④ メディア・リテラシー演習B④ コミュニティ演習A② コミュニティ演習B②											
		実践科目	地域交流実践研究①											
		現代社会研究			現代社会研究A② 現代社会研究B②									
		広域基礎科目			日本史概論Ⅰ② 日本史概論Ⅱ② 世界史概論Ⅰ② 世界史概論Ⅱ② 人文地理学② 自然地理学② 地誌学② 現代の政治学②									
		自由設計科目	共通文学科目	トピック・セミナー		トピック・セミナーA② トピック・セミナーB② トピック・セミナーC② トピック・セミナーD② トピック・セミナーE② トピック・セミナーF②							(最大 22)	
				ことばの世界		Active English Grammar① Practical English Grammar① ラテン語Ⅰ② ラテン語Ⅱ② 古典ギリシア語Ⅰ② 古典ギリシア語Ⅱ②								
				実践・発信する文化演習		発信する武蔵野地域文化② 実践する日本文化② Musashino Culture Studies② Japanese Culture Studies②								
				文学部総合講義		文学部総合講義A② 文学部総合講義B② 文学部総合講義C② 文学部総合講義D②								
単位認定科目	資格課程認定単位		学校と社会②											
	留学関係認定単位		教育史② 生涯教育研究② 生涯学習研究②											
	成蹊関係認定単位		海外研修C② 海外研修D② 海外研修E② 海外研修F② 海外研修G② 海外研修H②											
	成蹊教養カリキュラム超過単位		6単位まで卒業に必要な修得単位数に算入											
学際科目	成蹊国際コース		Independent StudyⅠ②		Independent StudyⅡ②		Independent StudyⅢ②							
			Academic Listening② Cross Cultural Communication Skills② Discussion & Presentation② English for the Work Place②		Essay Writing② Intensive Reading②									
		<Diversity> Global Perspectives②		<Culture & History> Embracing Cultural Diversity② History and the World②										
		International Societies and Representation of "Others"② Regional Studies Seminar② Seminar on Culture②		<International Society> Current Topics② Exploring Media Literacy② Global Peace Studies② Global Values②										
		Science and Technology in the World② World Politics in Comparative Perspective②		<Language> Seminar on Communication Strategy A② Seminar on Communication Strategy B② World Englishes②										
		他学科・他学部・他大学		他学科の専門科目、他学部の専門科目および単位互換制度による他大学開講科目で修得した単位										

卒業に必要な単位数合計 124単位

5-2. 現代社会学科カリキュラム一覧表(2019年度入学生適用)

科目区分			授業科目・単位数・配当年次								区分別 必要単位数		
			1年次		2年次		3年次		4年次				
			第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム	第5ターム	第6ターム	第7ターム	第8ターム			
専 門 科 目	必修科目	必修専門	現代社会入門② コミュニケーション論入門②								12	34	
			社会学入門② メディア論入門②										
			社会学史②										
			メディア史入門②										
		演習科目	現代社会研究の基礎②								22		
			現代社会研究の方法Ⅰ②										
			現代社会研究の方法Ⅱ②										
			演習Ⅰ②										
	選択科目	社会学基礎	家族社会学② 都市社会学② 社会心理学② 歴史と社会②								34 以上	90	
			ジェンダーの社会学② 労働社会学② アイデンティティの社会学② コミュニティの社会学② 環境社会学② 生活文化史②										
		社会学発展	教育社会学② 社会階層論② ライフコースの社会学② ボランティア・NPOの社会学② 文化社会学② スポーツ社会学②										
			経済社会学② 科学技術の社会学② グローバリゼーションの社会学② 社会福祉概論② 社会福祉事業史②										
		社会調査	社会調査入門②										
			社会調査の方法②										
		メディア研究基礎	情報社会論② メディア文化論②										
			ネットワーク社会論② メディア産業論② メディア制度論② メディア制度史② マス・メディアの歴史② マス・コミュニケーション論②										
		メディア研究発展	メディア・リテラシー論②										
			ジャーナリズム論② 新聞論② 出版論② 放送通信論② 広告論② デジタル・メディア論② 情報デザイン論②										
		実践科目	グローバリゼーションとメディア② メディアの理論②										
			社会調査演習Ⅰ② 社会調査演習Ⅱ②										
			メディア・リテラシー演習A④ メディア・リテラシー演習B④ コミュニティ演習A② コミュニティ演習B②										
			地域交流実践研究①										
		現代社会研究	現代社会研究A② 現代社会研究B②										
		広域基礎科目	日本史概論Ⅰ② 日本史概論Ⅱ② 世界史概論Ⅰ② 世界史概論Ⅱ② 人文地理学② 自然地理学② 地誌学② 現代の政治学②										
		共通科目	文学部	トピック・セミナー		トピック・セミナーA② トピック・セミナーB② トピック・セミナーC② トピック・セミナーD② トピック・セミナーE② トピック・セミナーF②							
				ことばの世界		Active English Grammar① Practical English Grammar① ラテン語Ⅰ② ラテン語Ⅱ② 古典ギリシア語Ⅰ② 古典ギリシア語Ⅱ②							
実践・発信する文化演習				発信する武蔵野地域文化② 実践する日本文化② Musashino Culture Studies② Japanese Culture Studies②									
単位認定	文学部総合講義		文学部総合講義A② 文学部総合講義B② 文学部総合講義C② 文学部総合講義D②										
	資格課程認定単位		学校と社会②										
	留学関係認定単位		海外研修C② 海外研修D② 海外研修E② 海外研修F② 海外研修G② 海外研修H②										
設計科目	学際科目	成蹊教養カリキュラム超過単位		6単位まで卒業に必要な修得単位数に算入									
		成蹊国際コース		Independent StudyⅠ②									
				Independent StudyⅡ②									
				Independent StudyⅢ②									
				Academic Listening② Cross Cultural Communication Skills② Discussion & Presentation② English for the Work Place②									
				Essay Writing② Intensive Reading②									
他学科・他学部・他大学				<Diversity> Global Perspectives②									
				<Culture & History> Embracing Cultural Diversity② History and the World②									
				International Societies and Representation of "Others"② Regional Studies Seminar② Seminar on Culture②									
				<International Society> Current Topics② Exploring Media Literacy② Global Peace Studies② Global Values②									
				Science and Technology in the World② World Politics in Comparative Perspective②									

卒業に必要な単位数合計 124単位

卒業に必要な修得単位数

英語英米文学科

科 目 区 分				区分別必要単位数		卒業に必要な 修得単位数
全 学 共 通 科 目	桃 李 成 蹊 科 目		コ ア		2	34
			発 展			
	人 間 形 成 系 統		英語科目	コ ア	9	
			発 展			
			日 本 語 力 科 目			
			キ ャ リ ア 教 育 科 目			
			情 報 基 盤 科 目			
	健 康 ・ ス ポ ー ツ 科 目					
	文化創造 系 統	総合文化 科 目	人 間 と 文 化		14	
			社 会 と 文 化			
科 学 技 術 と 文 化						
国 際 教 養 科 目						
専 門 科 目	必 修 科 目		基 幹 科 目		16	46
			英 語 強 化 科 目		8	
			演 習 科 目		22	
	選 択 科 目		基 本 講 義 科 目		10以上	20以上
			研 究 講 義 科 目		8以上	
			Language & Culture			
			関 連 科 目			
自 由 設 計 科 目	文 学 部 共 通 科 目		ト ピ ッ ク ・ セ ミ ナ ー		(最大24)	90
			こ と ば の 世 界			
			実 践 ・ 発 信 す る 文 化 演 習			
			文 学 部 総 合 講 義			
	単 位 認 定 科 目		資 格 課 程 認 定 単 位			
			留 学 関 係 認 定 単 位			
			全 学 共 通 科 目 超 過 単 位			
	学 際 科 目		成 蹊 国 際 コ ー ス			
他 学 科 ・ 他 学 部 ・ 他 大 学						

(注) 単位認定科目のうち、全学共通科目（成蹊教養カリキュラム）超過単位は、6単位まで卒業に必要な修得単位数に算入する。

日本文学科

科 目 区 分				区分別必要単位数		卒業に必要な 修得単位数
全 学 共 通 科 目	桃 李 成 蹊 科 目	コ ア 発 展		2	20	34
	人 間 形 成 系 統	英 語 科 目	コ ア 発 展	9		
		日 本 語 力 科 目				
		キ ャ リ ア 教 育 科 目				
		情 報 基 盤 科 目				
	健 康 ・ ス ポ ー ツ 科 目					
	文化創造 系 統	総合文化 科 目	人 間 と 文 化		14	
			社 会 と 文 化			
国際理解 科 目		科 学 技 術 と 文 化				
		初修外国語・異文化理解科目				
		国 際 教 養 科 目				
専 門 科 目	必 修 科 目	基 礎 科 目		8	30	124
		基 本 ゼ ミ 科 目		22		
	選 択 科 目	文 学 史 科 目		8以上	42以上	
		日 本 語 学 講 義 科 目		4以上		
		日 本 文 学 講 義 科 目				
		学 際 講 義 科 目				
		日 本 探 究 科 目				
		日 本 語 力 錬 成 科 目				
自 由 設 計 科 目	文 学 部 共 通 科 目	ト ピ ッ ク ・ セ ミ ナ ー		(最大18)	90	
		こ と ば の 世 界				
		実 践 ・ 発 信 す る 文 化 演 習				
		文 学 部 総 合 講 義				
	単 位 認 定 科 目	資 格 課 程 認 定 単 位				
		留 学 関 係 認 定 単 位				
		全 学 共 通 科 目 超 過 単 位				
	学 際 科 目	成 蹊 国 際 コ ー ス				
		他学科・他学部・他大学				

(注) 単位認定科目のうち、全学共通科目（成蹊教養カリキュラム）超過単位は、6単位まで卒業に必要な修得単位数に算入する。

国際文化学科

科 目 区 分				区分別必要単位数		卒業に必要な 修得単位数		
全 学 共 通 科 目	桃 李 成 蹊 科 目		コ ア		2	20	34	
			発 展					
	人 間 形 成 系 統		英 語 科 目	コ ア	9			
			発 展					
			日 本 語 力 科 目					
			キ ャ リ ア 教 育 科 目					
			情 報 基 盤 科 目					
	文化創造 系 統		人 間 と 文 化		14			
			社 会 と 文 化					
			科 学 技 術 と 文 化					
初修外国語・異文化理解科目								
		国 際 教 養 科 目						
専 門 科 目	必 修 科 目		演 習 系 科 目		24	26以上	124	
	選 択 必 修 科 目		国 際 関 係 科 目		4 以上			
			文 化 人 類 学 科 目		4 以上			
			歴 史 ・ 文 化 研 究 科 目		4 以上			
	選 択 科 目		広 域 科 目					
			広 域 基 礎 科 目					
自 由 設 計 科 目	文 学 部 共 通 科 目		ト ピ ッ ク ・ セ ミ ナ ー		(最大40)	90		
			こ と ば の 世 界					
			実 践 ・ 発 信 す る 文 化 演 習					
			文 学 部 総 合 講 義					
	単 位 認 定 科 目		資 格 課 程 認 定 単 位					
			留 学 関 係 認 定 単 位					
			全 学 共 通 科 目					
			超 過 単 位					
	学 際 科 目		成 蹊 国 際 コ ー ス					
			他 学 科 ・ 他 学 部 ・ 他 大 学					

(注) 単位認定科目のうち、全学共通科目（成蹊教養カリキュラム）超過単位は、6 単位まで卒業に必要な修得単位数に算入する。

現代社会学科

科 目 区 分				区分別必要単位数		卒業に必要な 修得単位数		
全 学 共 通 科 目	桃 李 成 蹊 科 目		コ ア		2	20	34	
			発 展					
	人 間 形 成 系 統		英 語 科 目	コ ア	9			
			発 展					
			日 本 語 力 科 目					
			キ ャ リ ア 教 育 科 目					
			情 報 基 盤 科 目					
	健 康 ・ ス ポ ー ツ 科 目							
	文化創造系	総合文化 科 目	人 間 と 文 化		14			
			社 会 と 文 化					
科 学 技 術 と 文 化								
初修外国語・異文化理解科目								
	国際理解 科 目	国 際 教 養 科 目						
専 門 科 目	必 修 科 目		必 修 専 門		12	34	124	
			演 習 科 目		22			
	選 択 科 目		社 会 学 基 礎		34以上			
			社 会 学 発 展					
			社 会 調 査					
			メ デ ィ ア 研 究 基 礎					
			メ デ ィ ア 研 究 発 展					
			実 践 科 目					
			現 代 社 会 研 究					
	広 域 基 礎 科 目							
自 由 設 計 科 目	文 学 部 共 通 科 目		トピック・セミナーA～F		(最大22)		90	
			こ と ば の 世 界					
			実践・発信する文化演習					
			文学部総合講義A～D					
	単 位 認 定 科 目		資 格 課 程 認 定 単 位					
			留 学 関 係 認 定 単 位					
			全 学 共 通 科 目					
	学 際 科 目		超 過 単 位					
			成 蹊 国 際 コ ー ス					
		他学科・他学部・他大学						

(注) 単位認定科目のうち、全学共通科目（成蹊教養カリキュラム）超過単位は、6 単位まで卒業に必要な修得単位数に算入する。

卒業・進級要件

卒業・進級に必要な修得単位数

進級するためには、各年次において、1年間以上在学しなければなりません。進級は4月のみ行われ、前期終了時点で所定の在学期間を満たした場合でも、年度途中では進級しません。

■ 1年次終了時

進級要件はありませんが、1年次終了時に卒業に必要な単位を18単位以上修得していないと、2年次に履修登録上限44単位全てを修得しても、62単位を超えないため、下記の進級要件を満たせなくなります。

■ 2年次終了時

修得すべき授業科目・単位			卒業に必要な修得単位数
次の授業科目の単位を含む卒業に必要な修得単位数			62
英語英米文学科	英語科目（コア科目） 英語強化科目	8	
日本文学科	フレッシュャーズ・セミナーおよび 日本文学入門	4	
	古典文学基礎研究Ⅰ 古典文学基礎研究Ⅱ 近・現代文学基礎研究Ⅰ 近・現代文学基礎研究Ⅱ 日本語学基礎研究Ⅰ 日本語学基礎研究Ⅱ	2	
	国際文化学科	英語科目（コア科目）	
	現代社会学科	英語科目（コア科目）	
		4	

■ 3年次終了時

修得すべき授業科目・単位		
英語英米文学科	演習Ⅰおよび演習Ⅱ	4
日本文学科	古典文学基礎研究Ⅰ	6
	古典文学基礎研究Ⅱ	
	近・現代文学基礎研究Ⅰ	
	近・現代文学基礎研究Ⅱ	
	日本語学基礎研究Ⅰ	
日本語学基礎研究Ⅱ		
日本文学演習Ⅰまたは 日本語学演習Ⅰ	2	
	日本文学演習Ⅱまたは 日本語学演習Ⅱ	2
国際文化学科	演習Ⅰおよび演習Ⅱ	4
現代社会学科	演習Ⅰおよび演習Ⅱ	4

（注）上記科目を修得すれば、4年次に進級できますが、3年終了時に卒業に必要な単位を72単位以上修得していないと、4年次に履修登録上限44単位全てを修得しても、卒業に必要な124単位を4年間で修得することはできません。

■ 4年次終了時

前掲の『卒業に必要な修得単位数』のとおり、区分別必要単位数を全て修得した上で、卒業に必要な単位を124単位修得していること。

履修要領

履修とは

履修計画

■ 長期的な履修計画

卒業するためには、4年以上在学し、学部のカリキュラム（教育課程）にしたがって開講される授業科目を系統的に履修し、定められた卒業に必要な単位（卒業所要単位）を修得しなければなりません。

履修登録とは、そのために各自が受講する授業科目を申請、登録することを指します。科目によって、申請方法、期間、場所等が異なりますので、間違いのないように登録手続きを行ってください。

前掲の『カリキュラム科目一覧』には、科目の構成とその配当タームが示されていますので、必修科目と選択科目の区分をはじめ、各区分に定められた卒業・進級に必要な単位数を確認のうえ、自らの責任において長期的な履修計画を立てることが必要です。

各自の学修目的に応じた授業科目の履修計画を立てる際には、特に次の点に注意し、その年度だけでなく次年度以降における学修も考慮した長期的な履修計画を立てることが必要です。

- ① 科目区分ごとに卒業・進級に必要な単位数が定められていること
- ② 学年によって必ず履修すべき科目があること
- ③ 1年間およびタームごとに登録できる単位数が定められていること
- ④ 年度によって開講される科目が異なる場合があること

■ 系統的な履修計画

大学における学修は、卒業所要単位を修得し、学位を得て卒業することで完了します。しかし、明確な学修目的を持たず、ただ、決められた単位数を数字の上でそろえるだけのような履修計画では、たとえ4年間で卒業できたとしても、大学の卒業生にふさわしい能力と見識を持つことはできません。カリキュラムに設けられた授業科目は、特に選択科目においてはさまざまな領域におよぶため、全般的な知識を修得するのか、特定の資格の取得を目指すのか等、各自の学修目的に応じて履修することが重要です。

■ タームと学年

タームと学年は以下のように設定されています。

学年	1年		2年		3年		4年	
ターム	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8

登録上の注意事項

- ① 予備登録の申請や履修登録は、期限厳守で行ってください。
(予備登録の詳細については、後掲の『予備登録』を参照してください。)
- ② 各区分に定められた卒業・進級に必要な単位数を確認のうえ、履修登録を行ってください。
- ③ 通年・前期・後期の開講期を問わず、1年間に履修するすべての科目を、前期の履修登録期間に履修登録してください。
- ④ 上級年次に配当されている科目の履修登録はできません。
- ⑤ 各期同一曜日・時限に2科目以上の履修登録はできません。
- ⑥ 単位を修得した科目を再び履修登録することはできません。
- ⑦ 履修登録をしなかった科目は、試験を受けてもその科目の試験は無効となり、単位の修得は認められません。
- ⑧ 年間の履修上限単位数については、後掲の『履修登録』で確認してください。

履修登録

履修登録制度

履修登録とは、その年度に履修しようとする科目の授業を受ける権利を得るための手続きであり、諸手続きの中でも皆さんの学修計画における最も大切な手続きであるといえます。もしも履修登録をしなければ、その科目の授業で利用される受講者名簿や成績評価入力画面に名前が載らず、たとえ授業に出席していたとしても、試験を受験することや単位を修得することはできません。

また、一度履修登録した科目の変更や取消しは認められない場合がありますので、慎重に履修計画を立てた上で、十分な注意のもとに履修登録を行ってください。

履修上限単位数

年間の学修が無理なくできるように、1 年間およびタームごとに登録できる単位数に上限を定めています。履修登録の際には、下記の履修上限を守ってください。

学年	1		2		3		4	
年間履修上限	44		44(56)		44(56)		44(56)	
ターム	1	2	3	4	5	6	7	8
ターム履修上限	22	26	26(36)	26(36)	26(36)	26(36)	26(36)	26(36)

※ ()内は、前年度の年度 GPA が 3.0 以上の学生の上限単位数です。

※ 自由設計科目に含まれない教職科目、特設科目、インターンシップ実習科目、外国留学により認定される科目は、上限には含まれません。

※ 4 年生必修科目の卒業論文(通年 8 単位)は、履修上限単位数に含まれません。

卒業要件に算入できるオンライン授業科目の単位数上限について

大学設置基準及び学則により、卒業に必要な単位数のうち、オンライン授業科目により修得可能な単位数の上限は 60 単位までと決まっています。オンライン授業科目は、ポータルサイトおよび開講科目一覧から確認できますので、自身のオンライン授業科目の修得単位数を確認のうえ、履修登録を行ってください。ただし、2020 年度から 2023 年度のオンライン授業科目については、感染症や災害の発生等の非常時における特例的な措置により、一部の授業科目を除き、60 単位制限への算入対象外となります。当該制限の対象科目については大学 HP にて確認してください。

必修科目・登録必須科目一覧

次ページは、各学科・学年・タームで指定されている必修科目・登録必須科目一覧です。標準タームにおいて必ず履修しなくてはならない科目です。○の中の数字は、単位数です。履修登録の際に、参考にしてください。

(※1)は登録必須科目です。

(※2)は第 5 タームもしくは第 6 タームの指定されたクラスで修得してください。

(※3)は卒業・進級要件を満たす科目を修得した上で必要な修得単位数です。

(※4)は 2018 年度以降入学生対象の必修科目です。

(※5)は 2014～2017 年度入学生対象の必修科目です。

■ 必修科目・登録必須科目一覧

※ 登録必須科目は科目名の後ろに(*1)と記しています。

	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
全 学 科 共 通	1ターム フレッシュャーズ・セミナー② フレッシュャーズ講座①(*1) College English (Listening & Speaking) I ① College English (Reading & Writing) I ① Freshers' English① 異文化理解A②(*1) 情報基礎②(*1) 健康・スポーツの基礎②(*1)	3ターム College English (Global Topics) I ① College English (Local Topics) I ①	5ターム	7ターム 卒業論文⑧
	2ターム College English (Listening & Speaking) II ① College English (Reading & Writing) II ①	4ターム College English (Global Topics) II ① College English (Local Topics) II ①	6ターム	8ターム
英 米 文 学 科 ・ 英 語 英 米 文 学 科	1ターム 英米文学概論 I ② 英語学概論 I ② CALL I ①	3ターム 初修外国語基礎A II ① 初修外国語基礎B II ① } (*1) Academic Reading① Integrated English I ①(*4) 2年次演習 I ② イギリス文学史 I ② アメリカ文学史 I ② Oral English I or III or V ①(*5)	5ターム 演習 I ② Academic Writing II ②(*2)	7ターム 演習 III ②
	2ターム 初修外国語基礎A I ① 初修外国語基礎B I ① } (*1) 英米文学概論 II ② 英語学概論 II ② CALL II ① 1年次演習②	4ターム Academic Writing I ① Integrated English II ①(*4) 2年次演習 II ② イギリス文学史 II ② アメリカ文学史 II ② Oral English II or IV or VI ①(*5)	6ターム 演習 II ② Academic Writing II ②(*2)	8ターム 演習 IV ②
日 本 文 学 科	1ターム 日本文学研究の基礎② 日本語研究の基礎②	3ターム 古典文学基礎研究 I ① 近・現代文学基礎研究 I ① 日本語学基礎研究 I ①	5ターム 日本文学演習 I ② または 日本語学演習 I ②	7ターム 日本文学演習 III ② または 日本語学演習 III ②
	2ターム 日本文学入門② 日本語法②	4ターム 古典文学基礎研究 II ① 近・現代文学基礎研究 II ① 日本語学基礎研究 II ①	6ターム 日本文学演習 II ② または 日本語学演習 II ②	8ターム 日本文学演習 IV ② または 日本語学演習 IV ②
国 際 文 化 学 科	1ターム 国際文化研究の現在②	3ターム 初修外国語基礎A II ① 初修外国語基礎B II ① } (*1) 国際文化基礎演習 II ②	5ターム 演習 I ②	7ターム 演習 III ②
	2ターム 初修外国語基礎A I ① 初修外国語基礎B I ① } (*1) 国際文化基礎演習 I ②	4ターム 国際文化基礎演習 III ②	6ターム 演習 II ②	8ターム 演習 IV ②
現 代 社 会 学 科	1ターム 現代社会入門② コミュニケーション論入門② 社会調査入門②(*1)	3ターム 初修外国語基礎A II ① 初修外国語基礎B II ① } (*1) 現代社会研究の方法 I ② 社会学史②	5ターム 演習 I ②	7ターム 演習 III ②
	2ターム 初修外国語基礎A I ① 初修外国語基礎B I ① } (*1) 現代社会研究の基礎② 社会学入門② メディア論入門② 社会調査の方法②(*1)	4ターム 現代社会研究の方法 II ② メディア史入門②	6ターム 演習 II ②	8ターム 演習 IV ②
<4年間で卒業するために必要な最低修得単位数>				
	18単位	62単位(*3)	72単位(*3)	124単位(*3)

履修に関わる各種申請について

履修登録の申請方法

履修登録の申請方法は「Web 申請」と「用紙申請」があります。科目によって申請方法が異なりますので注意してください。

■ Web 申請

ポータルサイトから Web 上で履修登録を行う申請方法です。ポータルサイトの使い方の詳細は、「Seikei Portal 利用マニュアル」を参照してください（ポータルサイトからダウンロードすることができます）。

■ 用紙申請

申請用紙に必要な事項を記入して提出することで履修登録を行う申請方法です。登録に必要な申請用紙は学部や科目によって入手方法が異なりますので注意してください。

必修科目の登録の確認および指定クラスの確認

複数クラス開講の必修科目などのクラス発表は、原則として Web で行います。ポータルサイトで確認し、指定されたクラスを履修してください。

また、当該年次で履修すべき必修科目、登録必須科目、および予備登録の結果、履修が許可された科目は、あらかじめポータルサイトに科目が表示されています。詳細は後掲の『あらかじめクラスが指定される科目』、『履修上の諸注意』を参照してください。

予備登録

授業運営、教育効果あるいは使用する教室のパソコンの台数などの関係から、履修者数を制限するために、履修登録にさきがけ、事前に登録を行う制度のことです。予備登録の科目は所定の手続きを行い、許可を受けなければ履修することができません。手続き・確認期間は、『年度始め行事日程』を参照してください。許可者の選抜は予備登録申請者の中から無作為の抽選で行います。

詳細は後掲の『予備登録』を参照してください。

再履修申請

再履修は、前年度以前に履修登録し、単位を修得できなかった授業科目を翌年度以降に再び履修することです。再履修をするために特別な手続きが必要な科目があります。再履修を希望する場合は、掲示や後掲の『履修上の諸注意』をよく読んで、申請を行ってください。

演習登録

演習科目の登録は専用用紙を使用して行う場合があります。専用用紙を所定の場所・期間中に提出し、教員の選考により履修許可者が決定されます。専用用紙を使って登録する科目、入手方法などの詳細は後掲の『履修上の諸注意』をよく読んで、登録を行ってください。

他学部・他学科科目履修 *2 年次（第 3 ターム）生以上

他学部・他学科で開講している科目は、所定の手続きを行い、他学部履修の場合は、自身の所属学部と申請する科目を開講している学部の両方の許可を受けなければ履修できません。

履修を希望する場合は、ポータルサイトの掲示を確認のうえ申請してください。なお、入学年度によって履修できる科目が異なりますので、注意してください。手続き・確認期間は、『履修成績関係日程』を参照してください。

他学部・他学科科目を履修し、修得した単位は、学部で定められた科目区分の卒業所要単位数に算入されます。

他学部履修において、履修が許可された科目については履修の変更・取消し・中止はできず、必ず履修しなければなりません。よく考えて履修を申請するようにしてください。

なお、履修希望者が多い科目は、許可者の選抜を抽選で行う場合があります。

※ただし、文学部では第 2 ターム生以上の他学科履修が許可されます。詳細は後掲の『文学部共通履修上の諸注意』を参照してください。

履修変更（後期）

後期に開講されている科目について、後期の所定期間に履修の変更が可能になります。ただし、「必修科目」「登録必須科目」「実習科目」「予備登録科目（人数制限科目）」「他学部履修科目」「集中講義科目」は履修変更ができません。手続き・確認期間は、巻頭の『履修成績関係日程』を参照してください。

【 注意事項 】

- ① 卒業・進級、就職などいかなる理由があっても、履修変更した科目について、後期の履修登録内容確認日翌日以降の履修変更申請の取消しは認められません。
- ② 学部が認める履修上限単位数を超えた履修登録はできません。

履修登録内容確認日

履修登録の内容を確認する日として、前期、後期に 1 日ずつ、履修登録内容確認日があります（日時の詳細は『履修成績関係日程』を参照してください）。履修登録・申請期間にポータルサイトで登録した内容を必ず確認してください。時間割に修正が必要な場合は、開室時間内に教務部で、修正の手続きを行ってください。それ以降はいかなる理由があっても、一切履修登録内容の修正ができません。多くの学生に、登録のし忘れ、勘違い、操作ミスなどで希望の科目を履修できていないことが見受けられます。そのようなことにならないためにも、履修登録内容確認日に必ず登録した内容を確認してください。

履修中止

この制度は、授業を受けてみたものの、内容が学修したいものと違った場合や、授業についていけないだけの知識が不足していた場合など、そのままでは単位の修得が難しい場合に、不合格（「F」）評価によって GPA が下がることを回避するため、履修登録した科目の履修を取り止めること（履修中止）ができる制度です。前期と後期の年 2 回期間が定められています。

「必修科目」「教育実習科目」は、履修中止することができません。また、教養カリキュラムの「予備登録科目（人数制限科目）」や学部によって履修中止ができない科目もありますので、詳細は『開講科目一覧』で確認してください。特に他学部科目・他学科科目については、学部によって異なりますので、事前に確認してください。

期間外の履修中止は認められませんが、実習科目など一部の科目については、履修中止期間外であっても、学部で審査の上、履修中止を認める科目があります。履修中止された科目は、成績証明書には

記載されません。ただし、成績通知表およびポータルサイトの「学生カルテ」には、履修の履歴として、履修中止した科目は「W (Withdrawal)」と記載されます。

【 注意事項 】

- ① 卒業・進級、就職などいかなる理由があっても、履修中止した科目について、履修中止の申請の取消しは認められません。
 - ② 履修中止を申請した科目の単位数は、年間履修上限単位数に含まれます。履修を中止した科目の単位分について履修を追加することはできません。ただし、履修中止した科目については、翌年度に再び履修登録することができます。
 - ③ 履修中止が認められた科目は、GPA に算入されません。
 - ④ 「F」評価となった科目を再履修し、履修中止をした場合は、再履修前の「F」評価が GPA に算入されます。
- ※ GPA については、後掲の『成績』を参照してください。

予 備 登 録

予備登録が必要な科目

履修者を制限する科目は、「予備登録」を行う必要があります。**決められた期間以外の申請はできません**ので注意してください。

予備登録を行う科目には以下の2つがあります。

■ 人数制限科目（成蹊教養カリキュラム、学部開設科目）

演習科目、外国語科目、スポーツの演習科目など、教育効果を高めるため少人数での授業を行う科目などの理由で、履修可能人数が制限される科目です。

履修が許可された場合は、必ず履修しなければならないため、履修登録期間に履修の変更・取消しはできません。また、教養カリキュラム及び学部開設の一部の科目は履修中止もできません。申請前にシラバスや自身の履修計画をよく確認し申請を行ってください。

■ 事前調査科目（成蹊教養カリキュラム）

主として講義形式で授業を行う科目です。原則1クラスの人数が最大250名となるように、履修登録の希望調査を行う科目です。申請者数により、以下のようになります。（科目の定員については開講科目一覧を確認してください。）

予備登録 締切後	追加 募集	追加募集 締切後	履修変更 ・取消	注意事項
申請者：251名以上 抽選あり 時間割に表示された場合のみ 履修することができます。	無			
申請者：250名以下 抽選なし 申請者は全員履修 することができます。	有	申請者合計： 251名以上 追加申請者から抽選	可能 ただし、予備登録の <u>追加募集期間</u> は履修変更・ <u>取消はできません。</u>	
		申請者合計： 100～250名 抽選なし 申請者は全員履修 することができます。		
		申請者合計： 100名未満 抽選なし 申請者は全員履修 することができます。		履修変更期間 に、自由に履修 登録することができます。

- ・追加募集締切後の「申請者合計」とは、予備登録の申請者数と追加募集の申請者数の合計です。
- ・通常の履修登録科目になる科目は、ポータルサイトで掲示します。
- ・通常の履修登録科目になった科目について、前期および後期履修変更期間中の申請者数の状況によっては、募集の停止や、申請の取消しがされる場合があります。

申請に関する注意

- (1) 同一開講期、同一曜日・時限に 2 科目以上の申請はできません。
- (2) 「予備登録科目」と、「必修科目・登録必須科目」など、履修しなければならない科目との重複した申請はできません。
- (3) 予備登録が必要な科目の詳細（抽選種別、定員、開講期等）および履修中止の可否については『開講科目一覧』で確認してください。

あらかじめクラスが指定される科目 (プレ・タームと第2タームの科目)

あらかじめクラスが指定されるプレ・タームや第2タームに履修する科目について、次の注意事項をよく読み、ポータルサイトで、クラスおよび時間割を必ず確認してください。また再履修の希望者はそれぞれの方法に従い、申請を行ってください。

科目の種類

科目の種類は、「必修科目」「登録必須科目」があります。それぞれの趣旨は次のとおりです。

科目の種類	趣 旨	履修中止	履修変更
必修科目	卒業までに必ず単位を修得しなければなりません。	×	×
登録必須科目	必ず履修しなければなりません。 卒業資格認定の必須条件ではありません。単位未修得の場合でも卒業資格を得ることができます。	×	×

成蹊教養カリキュラムでプレ・タームや第2タームに履修する科目は次のとおりです。学部開設科目で、プレ・タームや第2タームに履修する科目は後掲の『履修上の諸注意（学部開設科目）』を参照してください。

科目名	科目の種類	開講時期
フレッシュャーズ・セミナー	必修科目	1年次前期（プレ・ターム）
フレッシュャーズ講座	登録必須科目	1年次前期（プレ・ターム）
Freshers' English	必修科目	1年次前期（プレ・ターム）
College English	必修科目	I は 1年次前期（プレ・ターム） II は 1年次後期（第2ターム）
Listening & Speaking Reading & Writing		
情報基礎	登録必須科目	1年次前期（プレ・ターム）
健康・スポーツの基礎	登録必須科目	1年次前期（プレ・ターム）
異文化理解 A	登録必須科目	1年次前期（プレ・ターム）
初修外国語・異文化理解科目（コア科目）	登録必須科目 (※)	1年次後期（第2ターム）

※ 初修外国語（コア科目）は文学部日本文学科、理工学部は登録必須科目ではありません。履修を希望する場合は後掲の『初修外国語科目の履修について』を参照してください。

フレッシュャーズ・セミナー（必修科目）

「フレッシュャーズ・セミナー」は指定されたクラスを履修してください。**履修変更・履修中止はできません。**必修科目ですので、単位を修得しないと卒業することができません。

ポータルサイトで指定クラスを確認のうえ履修してください。

フレッシャーズ講座（登録必須科目）

この科目の成績は、「P（Pass）：合格」「N（Non Pass）：不合格」で評価します。

※2020 年度以降は休講となります。

Freshers' English（必修科目）

英語科目の必修科目「Freshers' English」は指定されたクラスを履修してください。**履修変更・履修中止はできません。**

クラス発表の日時は『年度始め行事日程』を参照してください。

〔再履修について〕 **再履修の場合も、履修変更・履修中止はできません。**

前期で単位を修得できなかった場合は、後期に再履修してください。再履修クラスはあらかじめ指定されていますので、前期の成績開示の際に、確認してください。やむをえない事情により指定クラスを再履修できない場合は、教務部に申し出てください。

College English（必修科目）

英語科目の必修科目「College English」は指定されたクラスを履修してください。**履修変更・履修中止はできません。**1 年次に履修する「College English」は、「College English (Listening & Speaking) I・II」、「College English (Reading & Writing) I・II」の 4 科目です（I：前期、II：後期）。

クラス発表の日時は『年度始め行事日程』を参照してください。

〔再履修について〕 **再履修の場合も、履修変更・履修中止はできません。**

各年次で履修すべき科目の単位を修得できなかった場合は、再履修クラスをあらかじめ指定しています。やむをえない事情により指定クラスを再履修できない場合は、教務部に申し出てください。

〔12 月の英語テストについて〕

12 月に英語テスト（TOEIC・IP）を実施しています。この英語テストは原則として 1 年次生が対象ですが、「College English (Listening & Speaking) II」の履修者は、学年に関係なく受検してください。詳細は掲示します。

情報基礎（登録必須科目）

「情報基礎」は、1 年次前期（プレ・ターム）に履修します。あらかじめクラスを指定しますので、指定されたクラスを履修してください。**履修変更・履修中止はできません。**

〔再履修について〕 **再履修申請後の履修変更・履修中止はできません。**

「情報基礎」の単位をまだ修得していない学生で、再履修を希望する場合は、所属する学部・学科のクラスの時間割を確認し、6 号館 1 階教務部で再履修の申請をしてください。やむをえない事情により、所属する学部・学科のクラスが履修できない場合は、教務部に申し出てください。

再履修の申請期間、クラス発表の日時は『年度始め行事日程』を参照してください。

健康・スポーツの基礎（登録必須科目）

「健康・スポーツの基礎」は、1 年次前期（プレ・ターム）に履修する科目です。休学や留学等により、一度も履修したことがない学生は、予備登録期間内にポータルサイトから、希望するクラスに履修の申請を行ってください。**履修変更・履修中止はできません。**

〔再履修について〕 再履修申請後の履修変更・履修中止はできません。

「健康・スポーツの基礎」の単位をまだ修得していない学生で、再履修を希望する場合は、予備登録期間内にポータルサイトから、希望するクラスに履修の申請を行ってください。

再履修の申請期間、クラス発表の日は『年度始め行事日程』を参照してください。

異文化理解 A（登録必須科目）

「異文化理解 A」は、1 年次前期（プレ・ターム）において、所属する学部・学科の学生を 5 クラスに分け、授業を行います。ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語の 5 言語の各言語の特徴・当該言語圏の文化歴史・社会生活等について、各 3 回ずつ授業を行います。**履修変更・履修中止はできません。**

※2020 年度以降は休講となります。

初修外国語科目（コア科目の基礎 A I ・ B I ） （登録必須科目）

※ 初修外国語科目（コア科目）は**文学部日本文学科、理工学部**は登録必須科目ではありません。履修を希望する学生は後掲の『成蹊教養カリキュラム 履修上の諸注意』を参照してください。

初修外国語科目のコア科目は指定されたクラスを履修してください。**履修変更・履修中止はできません。**休学や留学等により、一度も履修したことがない学生は、履修時期について教務部に問い合わせてください。

〔再履修について〕 再履修申請後の履修変更・履修中止はできません。

初修外国語科目の単位をまだ修得していない学生で、再履修を希望する場合は 6 号館 1 階教務部で再履修の申請をしてください。

再履修の申請期間、クラス発表の日は『年度始め行事日程』を参照してください。

あらかじめクラスが指定される科目 (第3タームと第4タームの科目)

あらかじめクラスが指定される2年次(第3タームや第4ターム)に履修する科目について、以下の注意事項をよく読み、ポータルサイトで、クラスおよび時間割を必ず確認してください。また再履修の希望者はそれぞれの方法に従い、申請を行ってください。

科目の種類

成蹊教養カリキュラムであらかじめクラスが指定される2年次(第3タームや第4ターム)に履修する科目は以下の通りです。学部開設科目で、あらかじめクラスが指定される科目は後掲の『履修上の諸注意(学部開設科目)』を参照してください。

科目名		開講時期	備考
College English	Local Topics	I は 2 年次前期 (第 3 ターム)	必修科目
	Global Topics	II は 2 年次後期 (第 4 ターム)	
初修外国語・異文化理解科目 (コア科目)		2 年次前期 (第 3 ターム)	登録必須科目 (※)

※ 初修外国語・異文化理解科目(コア科目)は文学部日本文学科、理工学部は登録必須科目ではありません。

College English (必修科目)

英語科目の必修科目「College English」は、1年次後期に実施する英語テスト(e-Learning スーパー英語「TOEIC mini」)の結果を参考にクラス分けされていますので、指定されたクラスを履修してください。**履修変更・履修中止はできません。**

2年次(第3タームや第4ターム)には「College English (Local Topics) I・II」、「College English (Global Topics) I・II」を履修します。

【再履修について】再履修の場合も、履修変更・履修中止はできません。

各年次で履修すべき科目の単位を修得できなかった場合は、再履修クラスをあらかじめ指定しています。やむをえない事情により指定クラスを再履修できない場合は、教務部に申し出てください。

【12月の英語テストについて】

2年次の12月に英語テスト(TOEIC-IP)を実施しています。この英語テストは原則として2年次生が対象ですが、「College English (Local Topics) II」の履修者は、学年に関係なく受検してください。詳細は掲示します。

初修外国語・異文化理解科目（コア科目の基礎 AⅡ・BⅡ）（登録必須科目）

※ 初修外国語・異文化理解科目（コア科目）は文学部日本文学科、理工学部は登録必須科目ではありません。履修を希望する学生は後掲の『成蹊教養カリキュラム 履修上の諸注意』を参照してください。

2 年次前期（第 3 ターム）に履修する「基礎 AⅡ・BⅡ」は指定されたクラスを履修してください。
履修変更・履修中止はできません。 休学や留学等により、一度も履修したことがない学生は、履修時期について教務部に問い合わせてください。

〔再履修について〕 再履修申請後の履修変更・履修中止はできません。

初修外国語科目の単位をまだ修得していない学生で、再履修を希望する場合は 6 号館 1 階教務部で再履修の申請をしてください。

再履修の申請期間、クラス発表の日は『年度始め行事日程』を参照してください。

初修外国語・異文化理解科目の履修について

外国語を身につけるには、継続的に段階を踏んで履修することが大切です。コア科目をしっかりと学んだら、発展科目に進みましょう。また、発展科目には、履修にあたって一定の水準に達していることを求められる科目もあるので、科目間の関係に注意して、順序よく学んでください。

以下のガイド（5言語共通）をよく読み、履修方法や学修方法を確認してください。

全体の概要

初修外国語には、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語の5言語があります。

科目群	授業科目名	授業科目の概要
コア科目	基礎 AⅠ・AⅡ ※登録必須	基本文法、リーディング、ライティングを中心に行います。
	基礎 BⅠ・BⅡ ※登録必須	AⅠ・AⅡで学修する文法等の知識を基礎として、実践的な会話練習・表現演習等を行いながら、基本的なコミュニケーション能力を身につけます。
コア科目	基礎 AⅢ・BⅢ	基礎Ⅰ・Ⅱで身につけた基本文法、リーディング、ライティング、基本的なコミュニケーション能力に磨きをかけ、発展科目の履修につなげます。
発展科目 A群	演習 言語と文化Ⅰ・Ⅱ	コア科目の学修を基礎として、文法・講読・会話などの力を向上させるとともに、文化・時事などにも触れながら、語学・異文化理解の両面から総合的な能力を養成します。
	演習 検定対策Ⅰ・Ⅱ	
	演習プレゼンテーションⅠ・Ⅱ	
発展科目 B群	会話Ⅰ・Ⅱ	初級者向けの会話。「基礎 AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ」を履修しながら学ぶのが効果的です。
	会話Ⅲ・Ⅳ	会話Ⅰ・Ⅱを修了した人向けの中級会話です。
発展科目 C群	異文化理解 A 登録必須	ドイツ、フランス、スペイン、中国、韓国の各外国語圏の言語と文化について、初修外国語の担当教員が、各言語3回程度でコンパクトに講義します。 第1タームに履修し、第2ターム以降に履修する「コア科目」での言語選択をするためにも重要な科目です。
	異文化理解 B (各外国語圏)	その国だけではなく、その言語を使う国・地域について、言語・文化・社会などにもう一步踏み込んで、文化理解を深めていきます。
発展科目 D群	世界の言語	初修外国語以外の言語を対象にします。

※ 経済学部・文学部（日本文学科を除く）・法学部

コア科目の基礎 AⅠ・AⅡと基礎 BⅠ・BⅡおよび発展科目 C群の異文化理解 A は登録必須科目です。事前に指定されたクラスで履修します（クラスは科目名の直後に＜＞で示されています）。

※ 理工学部・文学部日本文学科

発展科目 C群の異文化理解 A は登録必須科目です。コア科目の基礎 AⅠ・AⅡと基礎 BⅠ・BⅡの履修は任意です。（履修を希望する人は、「理工学部と文学部日本文学科の学生のコア科目の履修」を参照してください。）

履修の基本的な流れ

(1) 1 年次前期 (第 1 ターム) (1 年目)

科目群	授業科目名	授業科目の概要
発展科目 C 群	異文化理解 A 登録必須	第 2 ターム以降に履修する「コア科目」での言語選択をするためにも重要な科目です。自分が学修しようとする言語だけでなく、さまざまな言語圏の文化に触れてみましょう。

(2) 1 年次後期 (第 2 ターム) (1 年目)

科目群	授業科目名	授業科目の概要
コア科目	基礎 A I ・ B I ※登録必須	2 科目をセットで履修します。
発展科目 C 群	異文化理解 B (各外国語圏)	前期に履修した「異文化理解 A」の内容をふまえ、各外国語圏の文化にもう一步深く踏み込んでみます。 コア科目で履修する言語でなくても、さまざまな言語の文化に触れることは、コア科目で履修する言語の背景のみならず、他の言語圏との相乗的な理解が深まります。

(3) 2 年次 (第 3、第 4 ターム) (2 年目)

科目群	授業科目名	授業科目の概要
コア科目	基礎 A II ・ B II ※登録必須	第 2 タームに続き、2 科目をセットで履修します。
	基礎 A III ・ B III	基礎 I ・ II の履修を受け、基礎学力をさらに固め発展させた人向けの授業です。
発展科目 B 群	会話 I ・ II	コア科目を履修した人を対象として、会話力の基礎を確実にします。 コア科目の修得者もしくは同時履修者が対象で、単独では履修できません。

(4) 3 年次 (第 5・第 6 ターム) (3 年目)

科目群	授業科目名	授業科目の概要
発展科目 A 群	演習言語と文化 I ・ II 演習検定対策 I ・ II 演習プレゼンテーション I ・ II	コア科目の履修が終わった学生が、文法・読解力や発信力をさらに深め、総合力をアップさせます。
発展科目 B 群	会話 III ・ IV	「会話 I ・ II」に続いて、会話力のアップを図ります。「会話 I ・ II」を履修した人か、同程度の学力を有する学生を対象としています。

【 履修上の注意 】

- ① 2 年次以上の発展科目 B 群の科目は、修得すべき科目の単位を修得しているか、それと同等の学力を有する者が対象です (次ページの表を参照してください)。
- ② 3 年次以上の発展科目 A 群は、コア科目を履修した学生、またはそれと同等のレベルの学生を対象としていますので、コア科目を履修していない学生は、まずコア科目を履修してください。
- ③ 上記の「同等レベル」はシラバスをよく読み、判断してください。ただし、不明な場合は教務部に問い合わせてください。

	科目名	修得すべき科目
発展科目 B 群	ドイツ語会話Ⅲ・Ⅳ	ドイツ語会話Ⅰ・Ⅱ
	フランス語会話Ⅰ	フランス語基礎 AⅠ・BⅠ
	フランス語会話Ⅱ	フランス語基礎 AⅡ・BⅡ
	フランス語会話Ⅲ・Ⅳ	フランス語会話Ⅰ・Ⅱ
	スペイン語会話Ⅰ	スペイン語基礎 AⅠ・BⅠ
	スペイン語会話Ⅱ	スペイン語基礎 AⅡ・BⅡ
	スペイン語会話Ⅲ	スペイン語会話Ⅱ
	スペイン語会話Ⅳ	スペイン語会話Ⅲ
	中国語会話Ⅰ	中国語基礎 AⅠ・BⅠ
	中国語会話Ⅱ	中国語基礎 AⅡ・BⅡ
	中国語会話Ⅲ・Ⅳ	中国語会話Ⅰ・Ⅱ
	韓国語会話Ⅰ	韓国語基礎 AⅠ・BⅠ
	韓国語会話Ⅱ	韓国語基礎 AⅡ・BⅡ
	韓国語会話Ⅲ・Ⅳ	韓国語会話Ⅰ・Ⅱ

他の外国語へのチャレンジ

発展科目 D 群の「世界の言語」では、初修外国語で学ぶ 5 言語のほか、さまざまな言語を取り上げ、学修できる機会を作っています。初心者から履修できますので、積極的にチャレンジしてください。

留学へのチャレンジ

成蹊大学では、英語圏以外の大学にも協定留学を実施しています。

大学で初めて学ぶ外国語で留学するのは大変なことではありますが、ほとんどの協定大学に毎年留学生を送り出しています。ぜひチャレンジしてみてください。

詳細は『海外留学ガイド』を参照するか、国際教育センター・国際課（1 号館 2 階）に問い合わせてください。

理工学部と文学部日本文学科の学生のコア科目の履修

理工学部と文学部日本文学科の学生は、初修外国語・異文化理解科目のコア科目の履修は他学部とは異なり登録必須ではありませんが、希望すれば履修することができます。履修する場合には、教務部に申し出てください。基礎 AⅠ、BⅠのコア科目を、同一クラス番号のクラスでセット履修することになりますが、必修科目などとの関連で、同一クラス番号のクラスでのセット履修が難しい場合も、教務部に申し出てください。

第 3 外国語としての履修

登録必須として選択する言語のほかに、別の初修外国語を「第 3 外国語」として履修を希望する場合はコア科目から履修してください。履修する場合には、教務部に申し出てください。基礎 AⅠ、BⅠのコア科目を、同一クラス番号のクラスでセット履修することになりますが、必修科目などとの関連で、同一クラス番号のクラスでのセット履修が難しい場合も、教務部に申し出てください。

インターンシップ科目の履修について

インターンシップ科目の種類とクラス

インターンシップ科目の種類とクラスは以下のとおりです。インターンシップ科目は **3 年次配当科目** です。

履修対象	科目名	開講期間	内容	単位
全学部	インターンシップ準備講座<1>	前期	一般企業、官公庁、団体、NPO 法人等の文系インターンシップに応募する意志を有する学生を対象として、その準備、心構え等の事前指導を行います。	2
	インターンシップ準備講座<2>			
	インターンシップ実習<1>	後期	一般企業、官公庁、団体、NPO 法人等の文系インターンシップに実際に参加した学生の成果報告、成果発表等の実習の事後指導を行います。	2
	インターンシップ実習<2>			
理工	理工系インターンシップ実習	集中	一般企業、官公庁、団体、NPO 法人等の理工系（技術系）インターンシップに実際に参加した学生の事後指導を行い、実習の単位認定を行います。	2
全学部	インターンシップ実習<3> (丸の内ビジネス研修 (MBT))	集中	成蹊大学と民間企業が協力して実施する産学連携人材教育プログラムである「丸の内ビジネス研修 (MBT)」に対して、単位認定が行われる科目です。	2

※「理工系インターンシップ実習」を履修登録する場合は、「インターンシップ準備講座」「インターンシップ実習」は履修できません。

インターンシップ科目・MBT 履修ガイダンス

ガイダンスでは履修の方法や授業の流れなどを説明します。インターンシップ科目の履修を希望する場合は、**ガイダンスに必ず出席してください**（ガイダンスの開催日時は、『年度始め行事日程』を参照してください）。科目により、履修申請・登録の方法が異なりますので、ガイダンスに出席した上で間違いのないように履修申請・登録を行ってください。

インターンシップ科目ごとのガイダンスから履修までの流れ

【 インターンシップ準備講座<1><2>、インターンシップ実習<1><2> 】

本科目は選考により履修者を決定します。ガイダンスにて事前登録申込票を配布しますので、希望者は必ずガイダンスに出席してください。

(1)ガイダンスに出席する。

(2)「事前登録申込票」をキャリア支援センターに提出する。担当教員が「事前登録申込票」をもとに選考。

(3)履修許可者発表（履修登録期間にポータルサイトで確認してください）

※履修許可者は自動的に科目が登録されますので、自分で履修登録を行う必要はありません。

【 理工系インターンシップ実習 】

希望者は必ずガイダンスに出席してください。本科目の履修に際し、選考はありません。

(1)ガイダンスに出席する。

(2)4月の履修登録期間にポータルサイトで履修登録する。

※履修登録は各自で行ってください。

【 インターンシップ実習<3> 】(丸の内ビジネス研修 (MBT) 以下、MBT)

本科目は選考により参加者を決定します。ガイダンスにて応募書類を配布しますので、希望者は必ずガイダンスに出席してください。

(1)ガイダンスに出席する。

(2)応募書類をキャリア支援センターに提出する。所定の方法により一次（書類）選考。

(3)一次（書類）選考の合格者発表を確認し、合格者は所定の方法により最終（面接）選考を受ける。

(4)最終（面接）選考の合格者発表を各自で確認する。

※MBT 選考合格者は、自動的に4月末頃「インターンシップ実習<3>」が登録されますので、自分で履修登録を行う必要はありません。

インターンシップ科目の注意事項

【 インターンシップ準備講座<1><2>、インターンシップ実習<1><2> 】

(1)「インターンシップ準備講座」、「インターンシップ実習」は同一クラス番号のセット履修が必要となります。どちらかの科目のみの履修、およびクラス番号の違うクラスのセット履修はできません。

(2)NPO 法人でのインターンシップを希望する場合は、文学部開講科目の「ボランティア・NPO の社会学」を履修してください。文学部以外の学生が「ボランティア・NPO の社会学」の履修を希望する場合は他学部履修申請が必要となります。申請日時については『年度始め行事日程』を参照してください。

(3)履修者は、前期に開催されるビジネスマナー講座（基礎編）等の事前指導に必ず参加してください。

【 理工系インターンシップ実習 】

(1)履修者は、前期に開催される履修者対象説明会、ビジネスマナー講座（基礎編）、実習ノート配布説明会等の事前指導に必ず参加してください。

【 インターンシップ実習<3> 】(MBT)

(1)前期の所定の時限に課外講座が実施されますので、この曜日時限に他の科目は履修できません。もし履修登録していた場合は、登録していた科目（必修科目は除く）は履修が取消されます。

【 MBT と他のインターンシップ科目を併願・同時申請した場合の取り扱いについて 】

(1)MBT とその他のインターンシップ科目（インターンシップ準備講座<1><2>/インターンシップ実習<1><2>、理工系インターンシップ実習）は併願、登録できます。

(2)インターンシップ実習<1><2><3>および理工系インターンシップ実習において認められる単位はいずれか一つのみとなります。

(3)MBT 選考合格者は自動的にインターンシップ実習<3>履修者となり、インターンシップ実習<1><2>、理工系インターンシップ実習を履修登録している場合には自動的にインターンシップ実習<3>へ振替となります。

履修上限単位数について

「インターンシップ準備講座<1><2>」は、各学部が定める**履修上限単位数に含まれます**。「インターンシップ実習<1><2><3>」「理工系インターンシップ実習」は各学部が定める**履修上限単位数に含まれません**。

卒業所要単位数への算入について

「インターンシップ準備講座<1><2>」、「インターンシップ実習<1><2><3>」「理工系インターンシップ実習」は、各学部が定める**卒業所要単位数に算入されます**。

インターンシップ科目の履修変更・取消

インターンシップ科目は、履修の変更・取消しをすることができません。

インターンシップ科目の履修中止

インターンシップ科目は、履修中止をすることができません。ただし、実習を行う意志があるにもかかわらず、実習先が見つからなかった場合に限り、履修中止を認めることがあります。該当する場合は、以下の表のインターンシップ科目ごとの方法に従い、履修中止を申請してください。所定期間内に**手続きを行わない場合は成績評価が「F」となります**。

科目名	履修中止
インターンシップ準備講座<1>	履修中止をすることはできません。
インターンシップ準備講座<2>	
インターンシップ実習<1>	履修中止をすることはできません。 ただし、実習先が見つからなかった等の理由で実習を行うことができなかった場合に限り、担当教員の判断により履修中止をすることができます。 ※ 詳細は10月にポータルサイトに掲示します。通常の履修中止手続き期間と異なる場合がありますので、注意してください。
インターンシップ実習<2>	
理工系インターンシップ実習	所定の説明会、マナー講座等を受講し、かつ、実習を行う意志があるにもかかわらず、実習先が見つからなかった場合に限り、担当教員の判断により履修中止をすることができます。 ※ 詳細は10月にポータルサイトに掲示します。通常の履修中止手続き期間と異なる場合がありますので、注意してください。
インターンシップ実習<3> (丸の内ビジネス研修 (MBT))	履修中止をすることはできません。

外国人留学生の日本語科目等の履修について

外国人留学生には、特別に以下の要領で、日本語および日本事情に関する科目を履修することができます。

日本語および日本事情の科目の履修を希望する外国人留学生は、授業開始日の前日までに、6号館1階の教務部各学部カウンターで申し出てください。

ただし、これらの科目は、申告により個別対応することとなります。また、希望する科目のすべてが開講されるとは限りません。

履修要領

■ 母語が英語である者または審査の上、認められた者

- ① 人間形成系統・英語科目コアの「College English」に代えて、「日本語Ⅰ～Ⅷ」を履修できます。
- ② 「日本事情A～D」を履修することができ、それを人間形成系統・英語科目発展の科目の単位の一部として振り替えることができます。

(注) ○印の数字は、当該科目の単位数を表す。

科目区分	振り替える科目区分	振り替えて履修する授業科目・単位数・配当年次			
		1年次	2年次	3年次	4年次
日本語	英語科目コア	日本語Ⅰ① 日本語Ⅱ① 日本語Ⅲ① 日本語Ⅳ①			
			日本語Ⅴ① 日本語Ⅵ① 日本語Ⅶ① 日本語Ⅷ①		
日本事情	英語科目発展	日本事情A② 日本事情B② 日本事情C② 日本事情D②			

■ 母語が英語以外の言語である者又は審査の上、認められた者

- ① 国際理解科目・初修外国語・異文化理解科目コアに定める各外国語科目に代えて、「日本語Ⅰ～Ⅷ」を履修できます。
- ② 「日本事情A～D」を履修することができ、それを国際理解科目・初修外国語・異文化理解科目発展の科目の単位の一部として振り替えることができます。

(注) ○印の数字は、当該科目の単位数を表す。

科目区分	振り替える科目区分	振り替えて履修する授業科目・単位数・配当年次			
		1年次	2年次	3年次	4年次
日本語	初修外国語・異文化理解科目コア	日本語Ⅰ① 日本語Ⅱ① 日本語Ⅲ① 日本語Ⅳ①			
			日本語Ⅴ① 日本語Ⅵ① 日本語Ⅶ① 日本語Ⅷ①		
日本事情	初修外国語・異文化理解科目発展	日本事情A② 日本事情B② 日本事情C② 日本事情D②			

成蹊教養カリキュラム 履修上の諸注意

桃李成蹊科目

■ 武蔵野市寄附講座

本学の学生のほか、武蔵野市で募集した聴講生が受講します。毎年サブテーマが設定され、() 書きで表示されます。サブテーマが違うものであれば、別科目として履修ができます。

■ 成蹊ボランティア

成蹊学内でのボランティア活動に関する単位認定科目です。活動の種類、履修申請、単位認定方法についての詳細は、後掲の『成蹊ボランティア』の単位認定』を参照してください。

人間形成系統

■ 英語科目

(1) 「TOEFL Preparation」、 「TOEIC Preparation」、 「IELTS Preparation」

科目によって、レベルが設定されています (Intermediate と Advanced)。シラバスをよく読み、過去に受検した TOEIC-IP 等の結果をもとに自分の英語能力を判断し、それに合ったクラスを履修してください。なお、システム上の表示科目名が異なりますので、「授業科目読替表」を確認してください。

(2) 上の 3 つの科目は TOEFL テスト (TOEFL-ITP は除く)、TOEIC 公開テスト (TOEIC-IP は除く) および IELTS テストを受検し、所定のスコアを取得した場合は、願い出により単位認定を受けることができます。詳細は後掲の『単位認定・単位互換』を参照してください。

■ 日本語力科目

(1) 「テーマ別日本語表現」

毎年サブテーマが設定され、() 書きで表示されます。サブテーマが違うものであれば、別科目として履修ができます。

■ キャリア教育科目

(1) 「キャリアプランニング」

前期開講科目は 2、3 年次に、後期開講科目は 1、2 年次に履修することが望ましいです。

(2) 「ビジネストレーニングセミナー」

2015 年度から新設され、1 年次後期 (第 2 ターム) に開講します。履修できるのは、1 年次生のみです。

(3) 「キャリア発展講義」

毎年サブテーマが設定され、() 書きで表示されます。サブテーマが違うものであれば、別科目として履修ができます。

(4) 「インターンシップ準備講座<1>・<2>」、「インターンシップ実習<1>・<2>」

同一クラス番号のセット履修となります。どちらかみの履修はできません。年度始めのオリエンテーション期間に行われる「インターンシップ科目・MBT 履修ガイダンス」に必ず出席し、ガイダンス時に指示される所定の手続きを行わなければ履修することができません。詳細は前掲の『インターンシップ科目の履修について』を参照してください。

(5) 「インターンシップ実習<3>」

丸の内ビジネス研修 (MBT) に参加した場合に単位認定される科目で、特別に許可された学生のみ履修することができます。年度始めのオリエンテーション期間に行われる「インターンシップ科目・MBT 履修ガイダンス」に必ず出席し、履修方法を確認してください。詳細は前掲の『インターンシップ科目の履修について』を参照してください。

(6) 「理工系インターンシップ実習」

理工学部生対象の科目です。年度始めのオリエンテーション期間に行われる「インターンシップ科目・MBT 履修ガイダンス」に必ず出席し、履修を希望する方は SEIKEI PORTAL で履修登録してください。詳細は前掲の『インターンシップ科目の履修について』を参照してください。

(7) 「International Internship」

所定の中期協定留学で行うインターンシップの結果により単位が認定される科目です。履修登録はできません。

■ 健康・スポーツ科目（発展演習科目）

発展演習科目を履修するには、「健康・スポーツの基礎」の単位を修得している必要があります。発展演習科目は、「健康・スポーツの発展 A」を前期、「健康・スポーツの発展 B」を後期に開講します。各学期 1 クラスずつ履修できます。年度が異なれば、同じ種目・クラス番号の履修が可能です。各クラスで行う種目については、シラバスまたは『開講科目一覧』で確認してください。ただし、各年度に履修したそれぞれの科目の評価は、すべて成績証明書に記載され、通算 GPA に算入されます。

※「健康・スポーツの基礎」は「健康・スポーツ演習 A」の一部のクラスと読替になります。

読替になるクラスについては、「授業科目読替表」で確認をしてください。

※「健康・スポーツの発展 S」は休講となります。

文化創造系統

■ 総合文化科目

(1) 以下の科目については、履修できない学部・学科がありますので、注意してください。

科目区分	科目名	履修できない学部・学科
社会と文化	政治学の基礎	法学部（政治学科）
	経済学の基礎	経済学部
	日本国憲法	法学部
	市民生活と法Ⅰ、市民生活と法Ⅱ	法学部（法律学科）
科学技術と文化	科学的に考える（文系のための数学）	理工学部
	科学的に考える（文系のための科学実験）	理工学部

(2) 「科学的に考える」・「環境と科学」

サブテーマが（ ）書きで表示されます。サブテーマが違うものであれば、別科目として履修ができます。

■ 初修外国語・異文化理解科目

- (1) 登録必須科目として基礎 AI・BI・AII・BII（コア科目）を履修する場合（再履修を含む）前掲の『あらかじめクラスが指定される科目（プレ・タームと第2タームの科目）』を参照してください。
- (2) 基礎 AI・BI・AII・BII（コア科目）を以下の①か②に該当する学生が2年次前期（第3ターム）以後に履修する場合
 - ① 理工学部、文学部日本文学科の2年次以上の学生で外国語の基礎科目の履修を希望する学生
 - ② 上記の学部・学科以外の2年次以上の学生で、1年次前期（第1ターム）に指定した外国語に加え、他の言語の履修を希望する学生

上記①、②の学生が履修を希望する場合は、3月下旬の指定の申請期間に教務部に申し出てください。基礎 AI・AII、BI・BIIのコア科目を、同一クラス番号のクラスでセット履修することになりますが、必修科目などとの関連で、同一クラス番号のクラスでのセット履修が難しい場合も、教務部に申し出てください。ただし、クラスには定員があるため、空きのあるクラスのみ受け入れます。空きを上回る履修希望の申請があった場合は抽選になります。空きのあるクラスについては、教務部で確認してください。なお、初修外国語（ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・韓国語）のクラスすべてに空きができるわけではありません。登録必須の学生が多いために履修できない言語が生じる可能性もあります。

※ 履修の申請期間、クラス発表の日時は『年度始め行事日程』を参照してください。

※ 履修申請後の履修変更・履修中止はできません。

- (3) 基礎 AIII・BIIIの履修について
基礎 AIII・BIIIは、予備登録を必要としないので、通常の履修申請期間に履修申請をしてください。また、履修中止も可能です。基礎 AIIIは基礎 AI・AII、基礎 BIIIは BI・BIIの単位を取得している、もしくはそれと同等の学力を有する学生が対象となります。
- (4) 発展科目 B群 会話 I・IIの履修について
会話 Iについては予備登録が必要になります（ドイツ語、フランス語では不要）。会話 IIについては、会話 Iを修得しているか、それと同等の学力を有する場合のみ履修可能になります。基礎 AI・AII、基礎 BI・BIIと同時履修可能です。
- (5) 発展科目 B群（会話科目 III・IV）の履修に必要な前提条件
発展科目 B群（会話科目）の科目については、修得すべき科目の単位を修得しているか、それと同等の学力を有する者が対象です。授業のレベルをシラバス等で確認したうえで、履修してください。詳細は前掲後掲の『初修外国語・異文化理解科目の履修について』を参照してください。
- (6) 発展科目 D群（世界の言語）
予備登録は行いません。通常の履修申請期間に履修申請してください。

■ 国際教養科目

- (1) 「国際教養総合講義」・「歴史トピックス」・「地域理解トピックス」
毎年サブテーマが設定され、() 書きで表示されます。サブテーマが違うものであれば、別科目として履修ができます。
- (2) 「海外研修 A、B」
所定の短期協定留学、中期協定留学を終了することにより単位が認定される科目です。履修登録はできません。

文学部共通 履修上の諸注意

他学科履修（第2ターム生以上対象）

他学科で開講されている科目は、第2タームから履修することができます。特に手続きは必要ありません。履修登録期間および履修変更期間にポータルサイトから履修登録をおこなってください。ただし、専門科目の演習科目など一部の科目は履修できません。

他学部履修（第3ターム生以上対象）

他学部開講の授業科目のうち、原則として専門科目（ただし、上級ターム配当科目は履修できません）について、2年次から他学部履修を願い出ることができます。履修を願い出の際は、以下の「注意事項」を熟読し、『年度始め行事日程』を確認し手続きを行ってください。

■ 注意事項

- ①安易な気持ちで履修することは他学部に迷惑がかかります。慎重に検討し、願い出てください。
- ②申請が認められた場合、履修変更・履修中止はできません。
- ③文学部開講の授業科目と同一名称の授業科目は、他学部履修として履修できません。
- ④他学部授業科目の単位は、自由設計科目の「複合・学際科目」の単位として、12単位まで卒業に必要な単位に算入されます。
- ⑤最終的に履修できるかどうかは、文学部および開講学部での審査のうえ決定されます。他学部履修許可者は、履修登録時に個人の Web 履修申請画面上に反映されるので確認してください。

退学勧告

学期ごとの GPA が3学期連続して1.0未満の場合、退学を勧告します。
退学勧告を受け、その後も改善の見込みがない場合は、除籍または懲戒退学となることもあります。

大学院（文学研究科）開講科目の履修（第7ターム生以上対象）

■ 手続き

履修を希望する場合は、履修登録期間内に教務部まで申し出てください。
なお、履修登録した科目について、大学院生の履修登録者がいない場合、その科目は休講となるため履修できなくなります。

■ 注意事項

- ①履修登録可能科目は、1学年に半期2科目、または通年1科目の計4単位を限度とします。
- ②修得した単位は4単位まで、大学院入学時に単位認定することができます。
- ③大学院開講科目の修得単位は、「卒業に必要な修得単位数」には含まれません。

英語英米文学科 履修上の諸注意

必修科目

基幹科目、英語強化科目、演習科目の単位全てを必ず修得する必要があります。
配当タームで修得できなかった場合は、翌年度以降再履修をしてください。

■ 英語強化科目（2014～2017 年度入学生）

学年	科目名	履修方法
1 年次	CALL I（第 1 ターム）	あらかじめ指定されたクラスを履修してください。ポータルサイトで履修クラスを発表します。
	CALL II（第 2 ターム）	
2 年次	Academic Reading（第 3 ターム）	前年度後期のプレースメントテストの結果によりレベルを判定し、履修クラスを指定します。ポータルサイトで履修クラスを発表します。
	Academic Writing I（第 4 ターム）	
3 年次	Academic Writing II（第 5 or 第 6 ターム）	

■ 英語強化科目（2018～2019 年度入学生）

学年	科目名	履修方法
1 年次	CALL I（第 1 ターム）（※1）	夏期集中講義期間に実施します。あらかじめ指定されたクラスを履修してください。
	CALL II（第 2 ターム）	前期に開講します。あらかじめ指定されたクラスを履修してください。
2 年次	Academic Reading（第 3 ターム）	前年度後期のプレースメントテストの結果によりレベルを判定し、履修クラスを指定します。ポータルサイトで履修クラスを発表します。
	Integrated English I（第 3 ターム）	
	Academic Writing I（第 4 ターム）	
	Integrated English II（第 4 ターム）	
3 年次	Academic Writing II（第 5 or 第 6 ターム）	

（※1）夏期短期留学に参加した場合は、単位認定を受けることができます。

■ 演習科目

学年	科目名	履修方法
1 年次	1 年次演習（第 2 ターム）	あらかじめ指定されたクラスを履修してください。第 1 タームのフレッシュャーズ・セミナーと同じクラスになります。
2 年次	2 年次演習 I（第 3 ターム）	あらかじめ指定されたクラスを履修してください。ポータルサイトで履修クラスを発表します。
	2 年次演習 II（第 4 ターム）	年度始めの予備登録で履修クラスを決定します。（※2）詳細は、『年度始め行事日程』で確認してください。
3 年次	演習 I（第 5 ターム）	前年度（12 月頃）に予備登録を行い、履修クラスを決定します。予備登録の日程については掲示で発表します。
	演習 II（第 6 ターム）	
4 年次	演習 III（第 7 ターム）	3 年次のクラスが原則持ち上がりになります。
	演習 IV（第 8 ターム）	

（※2）予備登録票はポータルサイトからダウンロードしてください。受付は教務部でおこないます。

選択科目

基本講義科目から 10 単位以上、研究講義科目から 8 単位以上修得する必要があります。

■ 「Oral English」(2014～2017 年度入学生)(2 年次配当、2 単位以上修得することが必要です。)

学年	科目名	履修方法
2 年次	Oral English (第 3・4 ターム)	前年度後期のプレースメントテストの結果により、履修クラスを指定します。ポータルサイトで履修クラスを発表します。

■ 「Advanced Oral English A、B」

英語英米文学科の学生がこの科目を履修するためには、2014～2017 年度入学生は、「Oral English」の単位を 2 単位以上、2018～2019 年度入学生は「Integrated English」の単位を 2 単位修得していることが必要です。

他学科の学生については、「Oral English」「Integrated English」の単位を修得していなくても履修をすることができます。

■ 「Practical English Training」

単位認定科目です。履修登録はできません。詳細は後掲の『Practical English Training 単位認定』を参照してください。

必修科目の再履修方法

必修科目の再履修が必要な場合は、次の指示に従ってください。

学年	科目名	再履修方法
1 年次	フレッシュヤーズ・セミナー	手続き不要です。 あらかじめクラスを指定し、ポータルサイトで発表します。 指定されたクラスを履修してください。
	1 年次演習	
	CALL I ・ II	
	Freshers' English (*1)	
	College English (Listening & Speaking) I ・ II	
	College English (Reading & Writing) I ・ II	
	英米文学概論 I ・ II	手続き不要です。教務部で履修登録を行います。
	英語学概論 I ・ II	
2 年次	2 年次演習 I	手続き不要です。 あらかじめクラスを指定し、ポータルサイトで発表します。
	2 年次演習 II	通常の学生と同様に、予備登録をおこなってください。
	Academic Reading	手続き不要です。 あらかじめクラスを指定し、ポータルサイトで発表します。 指定されたクラスを履修してください。
	Academic Writing I	
	Integrated English I (*2)	手続き不要です。 あらかじめクラスを指定し、ポータルサイトで発表します。 指定されたクラスを履修してください。
	Integrated English II (*2)	
	Oral English (*3)	
	College English (Global Topics) I ・ II	
	College English (Local Topics) I ・ II	手続き不要です。教務部で履修登録を行います。
	イギリス文学史 I ・ II	
	アメリカ文学史 I ・ II	
3 年次	Academic Writing II	手続き不要です。 あらかじめクラスを指定し、ポータルサイトで発表します。 指定されたクラスを履修してください。
	演習 I ・ II	教務部に相談してください。
4 年次	演習 III ・ IV	教務部に相談してください。
	卒業論文	手続き不要です。教務部で履修登録を行います。

- (*1) 英語英米文学科の Freshers' English については他学科と扱いが異なります。 (*
2) 2018～2019 年度入学生対象となります。
(*3) 2014～2017 年度入学生対象となります。

日本文学科 履修上の諸注意

必修科目

■ 演習科目

学年	科目名	履修方法
1 年次	日本文学入門（第 2 ターム）	あらかじめ指定されたクラスを履修してください。 第 1 タームのフレッシュャーズ・セミナーと同じクラスになります。
2 年次	古典文学基礎研究Ⅰ（第 3 ターム） 近・現代文学基礎研究Ⅰ 日本語学基礎研究Ⅰ 古典文学基礎研究Ⅱ（第 4 ターム） 近・現代文学基礎研究Ⅱ 日本語学基礎研究Ⅱ	各科目とも a～d の 4 クラスあります。 年度始めの予備登録で履修クラスを決定します。（※1） 詳細は、「年度始め行事日程」で確認してください。 なお、Ⅰ・Ⅱは同じクラスとなります。
3 年次	日本文学演習Ⅰ（第 5 ターム） または 日本語学演習Ⅰ 日本文学演習Ⅱ（第 6 ターム） または 日本語学演習Ⅱ	前年度（11 月頃）に予備登録を行い、履修クラスを決定します。 予備登録の手続き日程については掲示で発表します。
4 年次	日本文学演習Ⅲ（第 7 ターム） または 日本語学演習Ⅲ 日本文学演習Ⅳ（第 8 ターム） または 日本語学演習Ⅳ	3 年次のクラスが原則持ち上がりになります。

※1 予備登録の方法についてはポータルサイトで事前に掲示しますので、ご確認ください。

選択科目

■ 文学史科目

「文学史科目」の科目区分から 8 単位以上修得する必要があります。

■ 日本語学講義科目

- ①「日本語学講義科目」の科目区分から 4 単位以上修得する必要があります。
- ②「日本語学講義 A～D」は、重複履修（同一科目を複数回履修すること）が可能です。
- ③「日本語学講義 E・F」は重複履修できません。ただし、2019 年度までの「日本語学講義 E・F」（重複履修可）を 1 回以上修得した学生が、2020 年度以降の「日本語学講義 E・F」（重複履修不可）を 1 回修得することは可能です。

■ 日本文学講義科目、学際講義科目、日本探究科目

- ①「古代日本文学講義 A～F」、「中世日本文学講義 A～D」、「近世日本文学講義 A～D」、「近・現代日本文学講義 A～D」、「日本語・日本文学総合テーマ講義 C・D」、「物語と絵画 A」は、重複履修（同一科目を複数回履修すること）が可能です。

- ②「日本語・日本文学総合テーマ講義A・B」は重複履修できません。ただし、2019年度までの「日本語・日本文学総合テーマ講義A・B」（重複履修可）を1回以上修得した学生が、2020年度以降の「日本語・日本文学総合テーマ講義A・B」（重複履修不可）を1回修得することは可能です。

必修科目の再履修方法

必修科目の再履修が必要な場合は、次の指示に従ってください。

学年	科目名	再履修方法
1 年次	フレッシュャーズ・セミナー	手続き不要です。 あらかじめクラスを指定し、ポータルサイトで発表します。指定されたクラスを履修してください。
	日本文学入門	
	Freshers' English	
	College English (Listening & Speaking) I・II	
	College English (Reading & Writing) I・II	
	日本文学研究の基礎	手続き不要です。教務部で履修登録を行います。
	日本語研究の基礎	
	日本語法	
2 年次	古典文学基礎研究 I・II	通常の学生と同様に、予備登録をおこなってください。 <u>なお、予備登録は単位未修得の科目のみをおこなってください。</u>
	近・現代文学基礎研究 I・II	
	日本語学基礎研究 I・II	
	College English (Global Topics) I・II	手続き不要です。 あらかじめクラスを指定し、ポータルサイトで発表します。指定されたクラスを履修してください。
	College English (Local Topics) I・II	
3 年次	日本文学演習 I・II または 日本語学演習 I・II	教務部に相談してください。
4 年次	日本文学演習Ⅲ・Ⅳ または 日本語学演習Ⅲ・Ⅳ	教務部に相談してください。
	卒業論文	手続き不要です。教務部で履修登録を行います。

国際文化学科 履修上の諸注意

必修科目

■ 演習科目

学年	科目名	履修方法
1 年次	国際文化基礎演習Ⅰ（第 2 ターム）	あらかじめ指定されたクラスを履修してください。 第 1 タームの「フレッシュャーズ・セミナー」と担当教員が異なります。
2 年次	国際文化基礎演習Ⅱ（第 3 ターム）	年度始めの予備登録で履修クラスを決定します。（※1） 「国際文化基礎演習Ⅱ・Ⅲ」は違うクラスになります。 詳細は、『年度始め行事日程』で確認してください。
	国際文化基礎演習Ⅲ（第 4 ターム）	
3 年次	演習Ⅰ（第 5 ターム）	前年度（11 月頃）に予備登録を行い、履修クラスを決定します。 予備登録の手続き日程については掲示で発表します。
	演習Ⅱ（第 6 ターム）	
4 年次	演習Ⅲ（第 7 ターム）	3 年次のクラスが原則持ち上がりになります。
	演習Ⅳ（第 8 ターム）	

（※1）予備登録票はポータルサイトからダウンロードしてください。受付は教務部でおこないます。

選択必修科目・選択科目

■ 選択必修科目

次の科目区分から 4 単位以上修得する必要があります。

- ・国際関係科目
- ・文化人類学科目
- ・歴史・文化研究科目

■ 選択必修科目・選択科目

次の科目区分から、合計で 26 単位以上修得する必要があります。

- ・国際関係科目
- ・文化人類学科目
- ・歴史・文化研究科目
- ・広域科目

必修科目の再履修方法

必修科目の再履修が必要な場合は、次の指示に従ってください。

学年	科目名	再履修方法
1 年次	フレッシュャーズ・セミナー	手続き不要です。 あらかじめクラスを指定し、ポータルサイトで発表します。 指定されたクラスを履修してください。
	国際文化基礎演習 I	
	Freshers' English	
	College English (Listening & Speaking) I・II	
	College English (Reading & Writing) I・II	
	国際文化研究の現在	手続き不要です。教務部で履修登録を行います。
2 年次	国際文化基礎演習 II・III	通常の学生と同様に、予備登録をおこなってください。
	College English (Global Topics) I・II	手続き不要です。 あらかじめクラスを指定し、ポータルサイトで発表します。 指定されたクラスを履修してください。
	College English (Local Topics) I・II	
3 年次	演習 I・II	教務部に相談してください。
4 年次	演習 III・IV	教務部に相談してください。
	卒業論文	手続き不要です。教務部で履修登録を行います。

現代社会学科 履修上の諸注意

必修科目

必修専門科目、演習科目の全てを必ず修得する必要があります。配当年次で修得できなかった場合は、翌年度以降再履修をしてください。

■ 演習科目

学年	科目名	履修方法
1 年次	現代社会研究の基礎（第 2 ターム）	あらかじめ指定されたクラスを履修してください。 第 1 タームの「フレッシュャーズ・セミナー」と同じクラスになります。
2 年次	現代社会研究の方法Ⅰ（第 3 ターム）	あらかじめ指定されたクラスを履修してください。 「現代社会研究の方法Ⅰ・Ⅱ」は同じクラスになります。
	現代社会研究の方法Ⅱ（第 4 ターム）	
3 年次	演習Ⅰ（第 5 ターム）	前年度（11 月頃）に予備登録を行い、履修クラスを決定します。 予備登録の手続き日程については掲示で発表します。
	演習Ⅱ（第 6 ターム）	
4 年次	演習Ⅲ（第 7 ターム）	3 年次のクラスが原則持ち上がりになります。
	演習Ⅳ（第 8 ターム）	

選択科目

広域基礎科目以外の科目区分から、34 単位以上修得する必要があります。

■ 「社会調査入門」、「社会調査の方法」

これら 2 科目は、登録必須科目です。1 年次に必ず履修登録しなければなりません。

■ 「社会調査演習Ⅰ」、「社会調査演習Ⅱ」

社会調査士課程登録者のみ履修可能な科目です。

■ 「コミュニティ演習 A」、「コミュニティ演習 B」

現代社会学科の学生のみ履修可能な科目です。

■ 「地域交流実践研究」

単位認定科目です。履修登録はできません。詳細は後掲の『地域交流実践研究 単位認定』を参照してください。

必修科目の再履修方法

必修科目の再履修が必要な場合は、次の指示に従ってください。

学年	科目名	再履修方法
1 年次	フレッシュヤーズ・セミナー	手続き不要です。 あらかじめクラスを指定し、ポータルサイトで発表します。 指定されたクラスを履修してください。
	現代社会研究の基礎	
	Freshers' English	
	College English (Listening & Speaking) I・II	
	College English (Reading & Writing) I・II	
	現代社会入門	手続き不要です。教務部で履修登録を行います。
	コミュニケーション論入門	
	社会学入門	
	メディア論入門	
2 年次	現代社会研究の方法 I・II	手続き不要です。教務部で履修登録を行います。
	College English (Global Topics) I・II	手続き不要です。 あらかじめクラスを指定し、ポータルサイトで発表します。 指定されたクラスを履修してください。
	College English (Local Topics) I・II	
	社会学史	手続き不要です。教務部で履修登録を行います。
	メディア史入門	
3 年次	演習 I・II	教務部に相談してください。
4 年次	演習 III・IV	教務部に相談してください。
	卒業論文	手続き不要です。教務部で履修登録を行います。

自由設計科目・教職科目・特設科目 履修上の諸注意

自由設計科目

■ 単位認定科目

成蹊教養カリキュラム超過単位（34 単位を超えて修得した単位）は、6 単位を限度に卒業に必要な修得単位数に算入されます。

■ 学際科目

- ①他学科の専門科目を履修する場合には、原則として特別な手続きはありません。
ただし、専門必修科目の演習科目は履修できません。また、予備登録が必要な科目については、必ず所定の手続きを行ってください。
- ②他学部開講授業科目の単位は、12 単位まで卒業に必要な単位として算入されます。ただし、「他学部履修願」を提出して、許可を得なければなりません。
- ③他大学開講授業科目の単位は、12 単位まで卒業に必要な単位として算入されます。詳しくは「単位互換」の項を参照してください。
- ④単位認定科目である「Practical English Training」、「国際ボランティア」、「地域交流実践研究」は、他学科履修の対象ではありません。

特設科目

- ①特設科目は、卒業に必要な単位には算入されません。
- ②日本文学科の教職課程登録予定者で、中学校教諭免許状（国語）取得希望者は、「書道 A」、「書道 B」から 1 科目以上を履修するようにしてください。
- ③国際文化学科および現代社会学科の教職課程登録予定者で、中学校教諭免許状（社会）、高等学校教諭免許状（地理歴史）取得希望者は、「日本史概論Ⅰ・Ⅱ」、「世界史概論Ⅰ・Ⅱ」、「人文地理学」、「自然地理学」、「地誌学」を履修するようにしてください。
- ④学校図書館司書教諭課程科目および日本語教員養成課程科目は、それぞれ当該課程登録者のみ履修可能で、それ以外の学生は履修できません。

教職科目

- ① 「学校と社会」（2014 年度以降入学生対象）、「教育史」、「生涯教育研究」、「生涯学習研究」（2014～2018 年度入学生対象）は、自由設計科目として卒業に必要な単位に算入されるとともに、各年度において、履修することができる単位数（履修上限単位数）に算入されます。その他の教職科目は卒業に必要な単位には算入されません。
- ②自由設計科目に含まれていない教職課程科目は、教職課程登録者のみ履修することができます。

Q & A

予備登録

Q. 予備登録をして履修許可を受けた科目と、履修登録したい他の科目の時間割が重なっているのですが、履修許可を受けた予備登録科目を取り消すことはできますか。

A. 科目により扱いが異なります。

予備登録の結果、履修許可を受けたということは、希望者の中から選ばれたということであり、希望したのに履修できない人がいるということです。予備登録をして、履修が許可された科目は、必ず履修しなければなりません。ただし、履修の変更・取消しや履修中止できる科目もありますので、履修要項や開講科目一覧で確認してください。

なお、予備登録を申請する際は、予備登録科目と今年度履修すべき必修科目等が重ならないよう、事前に時間割を確認してください。

Q. 予備登録を忘れたのですが、追加することはできますか。

A. 申請期間後は追加することはできません。

ただし、定員に満たない科目・クラスについては追加募集を行います。日程は『履修成績関係日程』を参照してください。

履修登録

Q. 履修登録完了後、履修登録している科目を確認したいのですが、どのようにすればよいですか。

A. 「Seikei Portal 利用マニュアル」に従い、ポータルサイトから確認してください。（期間により確認できるメニューが異なります。）なお、履修登録内容確認日には必ず履修登録内容を「My 時間割」から確認し、エラーや履修申請に誤りがある場合は、教務部に申し出てください。

他学部・他学科履修

Q. 他学部で開設されている授業科目を履修したいのですが、どのようにしたらよいですか。

A. 指定された申請期間での手続きが必要です。

「他学部・他学科科目履修願」を提出し、所属学部および開講学部の許可を得て履修することができます。手続きの詳細については、『年度初め行事日程』を参照してください。

履修中止

Q. 履修中止した単位分の履修追加はできますか。

A. 追加登録は認めていません。履修中止した科目は、履修上限単位数に含まれます。
卒業・進級に影響することがないように、十分に注意して、履修中止申請を行ってください。

Q. 履修登録した科目を履修中止しようと思います。もう授業には出席しなくてもよいですか。

A. 履修中止の申請が許可されるまでは授業に出席してください。
履修中止が許可されなかった場合、単位修得が難しくなります。

Q. 履修中止した科目をやっぱり履修したいのですが、できますか。

A. できません。
卒業・進級、就職などいかなる理由があっても、その学期において、履修中止申請の取消、履修中止科目の復活および中止した分の科目の追加はできませんので、安易に履修中止をしないように気を付けてください。

Q. 履修中止した科目は、再履修できますか。

A. 次年度以降であれば再履修が可能です。

成績

Q. 成績通知表は、どのような形で自分の手元に届くのですか。

A. 前期の成績に関しては、「成績通知表」を、10月上旬に保証人住所（保証人と本人の連名宛）に送付し、後期の成績に関しては、3月下旬に送付します。なお、ポータルサイトでも成績を開示します。成績開示の日時は『履修成績関係日程』で確認してください。

Q. 成績通知表を受け取りましたが、成績評価に疑問のある科目があり、担当の先生に問い合わせたいのですが、どうすればよいですか。

A. 「履修・成績質問票」を、教務部に提出してください。
教務部から担当者に問い合わせ、回答が戻り次第掲示で連絡します。質問票が提出できる期間は決まっていますので、掲示等で確認してください。卒業予定者に対する後期の成績については、別途受付期間が設けられていますので、掲示等で確認してください。

Q. 今年度 F（不合格）評価だった科目を次年度以降に再履修した場合、成績証明書の記載はどうなりますか。

A. 不合格科目を再履修し、単位を修得できた場合、再履修前の「F」評価は記載されません。
（一部の演習科目を除く）

卒業・進級

Q. 進級できるか確認したいのですが、どうすればよいですか。

A. 自身の成績と前掲の『卒業・進級要件』で確認してください。学科や入学年度によって要件が異なるので、注意してください。

なお、電話や電子メールでの問い合わせには応じられません。わからないことがある場合は、教務部カウンターまで来てください。

Q. 卒業できるか確認したいのですが、どうすればよいですか。卒業できない場合は、どのような手続きが必要ですか。

A. 自身の成績と前掲の『卒業・進級要件』で確認してください。学科や入学年度によって要件が異なるので、注意してください。

自身の卒業資格認定結果は、3月上旬にポータルサイトで発表されます。卒業要件を満たさなかった場合は、3月上旬に通知文と成績通知表が本人に送付されますので、それらを確認し、次年度の履修登録について、指導教授や教務部とよく相談してください。

なお、電話や電子メールでの問い合わせには応じられません。わからないことがある場合は、教務部カウンターまで来てください。

Q. 4年間で卒業できませんでした。5年目から変わることはありますか。

A. 条件を満たした場合は、授業料等の納付金の減免対象になります。

前期で卒業所要単位を修得できれば、9月卒業も可能です。9月卒業を希望する場合は、6月末までに願出の提出が必要です。

学生証は学生部での更新手続きが必要になります。

Q. 留年した場合、何か手続きは必要ですか。

A. 特にありません。今年度、卒業要件や進級要件を満たせるように、履修登録をおこなってください。

文学部情報

単位認定・単位互換

TOEFL および TOEIC、IELTS のスコアに基づく単位認定

TOEFL および TOEIC、IELTS のテストを受検し、次のスコア（点数）を取得した者については、成蹊教養カリキュラム英語科目の単位として認定することができます。

単位認定希望者は、次の要領に従い、「単位認定願」（教務部備付）にテストのスコアシートを添付して教務部に提出してください。

■ 認定対象テストとスコア

テストの種類		スコア	認定科目名	認定 単位 数	成績 評価
TOEFL	PBT(Paper-Based Test)	550 以上	TOEFL Preparation Intermediate	1 単位	S
			TOEFL Preparation Advanced	1 単位	S
	iBT(Internet-Based Test)	79 以上	TOEFL Preparation Intermediate	1 単位	S
			TOEFL Preparation Advanced	1 単位	S
TOEIC	Listening & Reading 公開テスト	730 以上	TOEIC Preparation Intermediate	1 単位	S
			TOEIC Preparation Advanced	1 単位	S
IELTS		5.5 以上	IELTS Preparation Intermediate	1 単位	S
		6.5 以上	IELTS Preparation Intermediate	1 単位	S
			IELTS Preparation Advanced	1 単位	S

※ 各学期の認定申請締切日から逆算して、2 年前までに取得したスコアが対象です。

※ 学内で行う、TOEFL-ITP および TOEIC-IP テストのスコアでは認定できません。

※ 単位認定を願い出ることができる科目は、未修得科目に限ります。

スコア提出時点で、すでに単位を修得している場合は、認定（評価の変更）は行いません。

※ 該当科目の履修登録の有無は問いません。

■ スコア提出受付期間

スコア提出受付期間	
前期	新年度オリエンテーション開始日（3 月下旬）から 6 月末日まで（休日の場合は翌日）
後期	後期授業開始日（9 月中～下旬）から 12 月の最終開室日まで

※ 受付は、教務部開室時間に限ります。開室日、開室時間に注意してください。

■ 履修の取扱い

スコアを提出した期間により、履修の取扱いが次のようになります。

期間	スコア提出時期	履修の取扱い
前期	履修登録開始日の前日までにスコアの提出があった場合	履修登録期間中に単位認定される科目の登録はしないでください。認定された単位は、履修上限単位数に含まれません。
	履修登録開始日以降にスコアの提出があった場合	〔 認定を受けた科目が履修中の授業科目である場合 〕 (1) 認定された授業科目の履修は取り消され、授業への出席および学期末試験が免除されます。 (2) 認定を受けた単位数分について、後期履修変更期間で履修の追加ができます。 〔 認定を受けた科目を履修していない場合 〕 (1) 認定された単位は、履修上限単位数に含まれません。

期間	スコア提出時期	履修の取扱い
後期	後期授業開始日以降にスコアの提出があった場合	〔 認定を受けた科目が履修中の授業科目である場合 〕 (1) 認定された授業科目の履修は取り消され、授業への出席および学期末試験が免除されます。 (2) 認定単位数分の追加履修はできません。 〔 認定を受けた科目を履修していない場合 〕 (1) 認定された単位は、履修上限単位数に含まれません。

在学中または入学前の他大学等の単位認定

文学部では、在学中または入学前に他大学等において修得した単位等を、審査の上、本学部で修得した単位として認定することができます。

■ 対象となる修得単位等

1. 大学または短期大学において修得した単位（外国の大学等で修得した単位および科目等履修生として修得した単位を含む）
2. 短期大学または高等専門学校の専攻科における学修
3. 大学の専攻科における学修
4. 高等専門学校の課程における学修で、本学部において大学教育に相当する水準と認めたもの
5. 専修学校の専門課程のうち修業年限が2年以上のものにおける学修で、本学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの
6. 決められた技能試験などの審査に合格し、本学部において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの

（注意）認定された単位は、履修上限単位数に含まれません。

■ 単位認定の手続き

単位認定を希望する学生は、教務部にて次の手続きを行ってください。

- ① 所定の願い出用紙とともに、上記に該当する学修等を修めたことを証明する成績証明書等を提出してください。
- ② 単位認定を願い出ることができる科目は、未修得科目に限ります。
（履修登録の有無は問いません。）
- ③ 認定結果については、後日掲示で通知します。

■ 手続き期間

前期	新年度オリエンテーション開始日から 6 月末日まで
後期	後期授業開始日から 12 月末日まで

※ただし、入学前に修得した単位については、入学年度の 4 月末日までに手続きを終えることが必要です。

■ 成績評価

成績評価は、「T」で表示され、卒業所要単位に算入されます。

単位互換（武蔵野地域 5 大学単位互換制度）

単位互換制度とは大学間の交流と協力を促進し、それぞれの大学の教育内容の充実を図ることを目的として、単位互換協定を締結した大学に所属する学部生が、所属する大学以外の協定大学の授業科目を履修し、修得した単位をその学生の所属する大学の単位として認定する制度です。本学は武蔵野地域の 5 大学（亜細亜大学・成蹊大学・東京女子大学・日本獣医生命科学大学・武蔵野大学）と単位互換協定（武蔵野地域単位互換制度）を結んでいます。

この制度により、多岐にわたる授業科目の履修が可能となり、皆さんの関心や興味に応じて、それぞれの大学の特色ある授業科目や所属する大学では学べない分野の授業科目の履修をすることができます。また、他大学の学生との交流を通して、幅広い視野を培うとともに、新たな学修意欲を高めることができますので、積極的に利用してください。ただし、他大学での履修が許可された場合は、いつも以上に成蹊大学の学生として責任ある行動を心掛ける必要があります。

履修希望者を対象にガイダンスを実施します。日時などの詳細は、巻頭の『年度始め行事日程』を参照してください。

■ 単位互換申請資格

単位互換協定に基づき、他大学の授業科目を履修するためには、次の条件を満たす必要があります。

- (1) 本学に在学する 2 年次生以上の学部生であること
※ 科目等履修生・聴講生・研究生等の正規外の学生は対象外です。
- (2) 4 月のオリエンテーション期間に定期健康診断を受診していること
※ 未受診の場合は、原則として申請を認めません。

■ 履修上の注意

- (1) 上級年次に配当されている授業科目は履修できません。
- (2) 履修が許可された科目についての**変更・取消しは認められません。**
万が一、本学の科目と時間割が重複した場合には、本学の科目を取消しの上、他大学の科目の履修が優先されます。
- (3) 単位互換により履修する科目は、各学部で定める**年間の履修上限単位数に含まれます。**
- (4) 履修が許可された科目は、**履修中止できません。**
- (5) 在学中に他大学の授業科目で単位互換できる単位数は合計で 12 単位です。

■ 成績通知

成績は、本学で履修した科目と合わせてお知らせします。成績の確認方法については、『成績』を参照してください。

※ 制度についての詳細や受講できる科目、履修申請については、オリエンテーション期間中の**単位互換ガイダンス**時に配布する『単位互換ガイドブック』を参照してください。ガイダンスの詳細は巻頭の『年度始め行事日程』を参照してください。

単位認定の上限

単位認定できる単位数は 60 単位です。この 60 単位には、入学前に修得した単位等による単位認定、検定・資格試験による単位認定、外国留学による認定単位、武蔵野地域 5 大学単位互換による単位認定、ネットワーク多摩提携講座による単位認定のすべての単位数が含まれます。

「成蹊ボランティア」の単位認定

成蹊ボランティアとは

「成蹊ボランティア」(2単位)は、大学が指定したボランティア活動プログラムを行っている者(行う予定の者)が履修申請を行い、定められた単位認定基準を充足した時点以降に単位認定を願い出ること、当該科目の単位として認定するものです。

本来、ボランティア活動は自主的に行う奉仕活動であり、単位認定を目的に行うものではありません。単位認定を受けたことで、予定されていたそれ以降のスケジュールをキャンセルするなど、相手に迷惑をかけることがないようにボランティア活動に取り組んでください。

認定対象の活動および基準

成蹊学園内での次の活動が対象となります。

活動名称	内容	認定基準	活動状況 確認担当者
小学校 英語教育 TA	小学校における 英語授業の補助	60 コマ以上の TA 活動 (1 コマの実働時間は、授業 45 分、準備・ 片づけ等 15 分の計 1 時間)	小学校 英語教員
小学校 クラブ学習 補助	クラブ学習の コーチ等	60 時間以上の補助活動※	クラブ 顧問教員等
中高 課外活動 補助	クラブ活動の コーチ等	60 時間以上の補助活動※	クラブ 顧問教員等

※ 複数年にまたがる活動も可とします。

※ 小学校クラブ学習補助と中高課外活動補助を行っている学生は、両方の活動時間を合算して単位認定の申請をすることができます。

活動を行うための条件

活動名称	活動を行うための条件
小学校 英語教育 TA	小学校での選考のうえ採用された者 応募方法：4 月中旬に小学校に応募 (問い合わせは小学校事務室 (0422-37-3839) まで) ※ 選考に合格した場合でも、担当できるコマ数については小学校の 指示に従うこと。
小学校 クラブ学習補助	小学校から依頼を受けた者
中高 課外活動補助	中高から依頼を受け、かつ「委嘱状」を受けた者

申請手続き

■ 履修希望申請

「成蹊ボランティア」の単位認定希望者は、「成蹊ボランティア履修申請書」（教務部備付）を、活動開始前（開始直後も可）に教務部に提出してください。

申請は随時受け付けますが、活動開始後しばらくしてから申請した場合は、原則として申請時点からの活動時間数をカウントします。

なお、上記の単位認定基準にある活動が 1 年では満たされず、複数年にわたる場合は、「継続希望申請書」を、**4 月末日**までに提出してください。

この科目はポータルサイトでの履修申請をする必要はありません。各学部で定める履修上限単位数に含まれません。

■ 活動状況の記録

「成蹊ボランティア履修申請書」を提出した学生に、次の書類を配付しますので、説明に従い、記録してください。

書類名	記録する内容
活動記録簿	活動日ごとに活動時間数等を記入し、当該活動日中に活動状況確認担当者のサインまたは押印を必ず受けてください。

■ 単位認定の申請

行ってきた活動が単位認定基準を満たし、単位認定の申請を希望する場合は、次の書類に「活動記録簿」を添付して、教務部に提出してください。

申請は随時受け付けますが、当年度の単位認定の対象となる申請期限は、1 月末日（当日が日曜日の場合は翌日）とします。

提出する書類	記入する内容
成蹊ボランティア単位認定願	単位認定申請時に記入し、提出してください。
成蹊ボランティア活動報告書 （活動状況確認担当者 所見欄を含む）	単位認定申請を行う前に、感想・成果・自己評価などを記入し、活動状況確認担当者からの所見を受けてください。

■ 単位の認定

申請書類提出後、審査を行い、要件を満たしている場合には、評価「T」を認定します（GPA の対象にはなりません）。

「Practical English Training」の単位認定

「Practical English Training」とは（英語英米文学科生対象）

「Practical English Training」（1単位）は、英語を主要言語とする職場で働いている、または、英語を主要言語としてボランティア活動を行っている者（またはその予定の者）が、①履修申請を行い、②定められた単位認定基準を充足した時点以降に活動報告書を作成し、③単位認定を願い出ること、当該科目の単位として認定するものです。なお、履修申請ができるのは英語英米文学科の学生に限られます。

この科目は、成蹊教養カリキュラムの「成蹊ボランティア」と同様、学生の自主的活動を対象とした単位認定科目です。「成蹊ボランティア」との違いは以下の3点です。

- ①大学指定の活動ではなく、学生本人が科目の趣旨に合致すると判断した活動について、単位認定の願い出を行うこと。（単位認定対象となるかどうかについては、学科で審査を行います）
- ② 活動報告書（後述参照）を作成し提出すること。
- ③ 認定される単位が1単位であること。

単位認定の対象活動及び単位認定基準

- (A) 対象活動は、英語を主要言語とする職場で働いている、または、英語を主要言語としてボランティア活動を行っている者です。たとえば以下のようなものが考えられます。
- ・外資系企業などでのインターンシップ（外資系でなくてもかまいませんが、英語を主要言語として用いていることが客観的に判断できる職業や仕事場に限定されます）
 - ・国際交流・協力活動
 - ・異なる文化を背景とする人びとを支援する活動
 - ・日本文化の紹介にかかわる活動
 - ・NGO等が主催する研修、スタディツアー、ワークキャンプなど
- (B) 活動期間は、原則実質 22.5 時間以上。単位の認定は、提出された活動報告書の内容をみて行います。長期にわたり継続して行う活動の場合は、ある程度まとまった期間活動を行った時点で報告書を提出してください。複数年にまたがる活動も可能です。
- (C) 単位認定を希望する者は、履修申請の前に必ず教務部に申し出て、申請しようとする活動が単位認定対象となるか審査を受けてください。（後述参照）
- (D) 以下の活動は単位認定の対象外とします。
- ・学内サークルで行う通常の活動
 - ・成蹊大学社会活動支援奨学金の受給対象活動
 - ・外国人客の多い飲食店などでのアルバイト
 - ・「成蹊ボランティア」の単位認定対象活動。
 - ・MBT（丸の内ビジネス研修）のインターンシップ実習

申請手続きから単位認定までの流れ

① 履修希望申請（事前審査）

「Practical English Training」の単位修得を希望する者は、教務部に申し出て、当該の活動が単位認定の対象となるかを相談してください。

＊この科目は、Web で履修申請をする必要はありません。

また、年間の履修制限単位には含まれません。

② 活動報告書の作成

以下の要素を満たす活動報告書を作成してください（本文 5000 字程度）。

- ・活動の概要
- ・活動を行った理由・目的
- ・どのように英語を使用して活動を行っていたか
- ・活動の経過と成果、参加を通して感じた疑問や課題
- ・活動経験を今後どう生かしていくか

＊A4 用紙に、1 ページ 30 字×20 行で作成する。

＊本文にはページ数を打つこと。

＊表紙をつけ、ホチキス等で綴じること。表紙には「Practical English Training 活動報告」と明記し、学籍番号、氏名、提出年月日を記載すること。

＊本文の後に参考文献リスト、付録（図表、写真、資料等）をつけてもよい。

＊報告書には、活動の事実を証明する書類（活動や主催団体に関する資料のコピー、記録写真等）を添付する。難しい場合は提出の際に理由を申し出ること。

③ 単位認定の申請

②の要領で作成した報告書を、単位認定申請書とともに教務部に提出してください。申請は随時受け付けますが、当年度の単位認定の対象となる申請期限は 1 月末日（当日が日曜日の場合は、翌日）とします。

④ 単位の認定

申請書提出後、審査を行い、要件を満たしている場合には、評価「T」を認定します。（GPA の対象にはなりません。）

活動報告書の形式に著しい不備がある場合は、審査対象として認められません。内容が不足している場合、書き直しを求めることもあります。

「国際ボランティア」の単位認定

「国際ボランティア」とは（国際文化学科生対象）

「国際ボランティア」（1 単位）は、国際文化学科の学生で、学科の学習内容と関連したボランティア活動を行っている者（行う予定の者）が、①履修申請を行い、②定められた単位認定基準を充足した時点以降に活動報告書を作成し、③単位認定を願い出ること、当該科目の単位として認定するものです。

この科目は、成蹊教養カリキュラムの「成蹊ボランティア」と同様、学生の自主的活動を対象とした単位認定科目です。「成蹊ボランティア」との違いは次の 3 点です。

- ① 大学指定の活動ではなく、学生本人が科目の趣旨に合致すると判断した活動について、単位認定の願い出を行うこと。（単位認定対象となるかどうかについては、国際文化学科で審査を行います。）
- ② 活動報告書（後述参照）を作成し提出すること。
- ③ 認定される単位が 1 単位であること。

ボランティア活動は自主的に行う社会貢献活動であり、単位認定を目的に行うものではありません。単位認定を受けたことで、予定されていたそれ以降のスケジュールをキャンセルするなど、相手方に迷惑をかけることがないよう活動に取り組んでください。

単位認定の対象活動及び単位認定基準

- (A) 対象活動は、国際文化学科での学習内容と関連した、国内外を問わないボランティア活動とする。たとえば以下のようなものが考えられる。
- ・ 国際交流・協力活動
 - ・ 異なる文化を背景とする人びとを支援する活動
 - ・ 日本文化の紹介にかかわる活動
 - ・ NGO 等が主催する研修、スタディツアー、ワークキャンプなど
- (B) 活動期間は、原則実質 22.5 時間以上。単位の認定は、提出された活動報告書の内容をみて行う。長期にわたり継続して行う活動の場合は、ある程度まとまった期間活動を行った時点で報告書を提出する。複数年にまたがる活動も可。
- (C) 単位認定を希望する者は、履修申請の前に必ず教務部に申し出て、申請しようとする活動が単位認定対象となるか審査を受けること。（後述参照）
- (D) 以下の活動は単位認定の対象外とする。
- ・ 学内サークルで行う通常の活動。
 - ・ 成蹊大学社会活動支援奨学金の受給対象活動。
 - ・ アルバイト。（交通費などの実費以外に報酬や謝礼を得る活動）
 - ・ 「成蹊ボランティア」の単位認定対象活動。

申請手続きから単位認定までの流れ

■ 履修希望申請（事前審査）

「国際ボランティア」の単位修得を希望する者は、教務部に申し出て、当該の活動が単位認定の対象となるかを相談してください。

＊この科目は、Web で履修申請をする必要はありません。

＊年間の履修制限単位には含まれません。

■ 活動報告書の作成

以下の要素を満たす活動報告書を作成してください（本文 5000 字程度）。

- ・活動の概要
- ・活動を行った理由・目的
- ・活動の経過と成果、参加を通して感じた疑問や課題
- ・活動経験を今後どう生かしていくか

＊A4 用紙に、1 ページ 35 字×25 行で作成する。

＊本文にはページ数を打つこと。

＊表紙をつけ、ホチキス等で綴じること。表紙には「国際ボランティア活動報告」と明記し、学籍番号、氏名、提出年月日を記載すること。

＊本文の後に参考文献リスト、付録（図表、写真、資料等）をつけてもよい。

＊報告書には、活動の事実を証明する書類（活動や主催団体に関する資料のコピー、記録写真等）を添付する。難しい場合は提出の際に理由を申し出ること。

■ 単位認定の申請

上述の要領で作成した報告書を、単位認定申請書とともに教務部に提出してください。単位認定の申請期限は、前期は 5 月末日、後期は 10 月末日（当日が日曜日の場合は、翌日）とします。

■ 単位の認定

申請書提出後、審査を行い、要件を満たしている場合には、評価「T」を認定します。（GPA の対象にはなりません。）

活動報告書の形式に著しい不備がある場合は、審査対象として認められません。内容が不足している場合、書き直しを求めることもあります。

「地域交流実践研究」の単位認定

「地域交流実践研究」とは（現代社会学科生対象）

「地域交流実践研究」（1 単位）は、現代社会学科での学習内容と関連したボランティアなどの地域交流活動を行っている者（または行う予定の者）が、①履修申請を行い、②定められた単位認定基準を充足した時点以降に活動報告書を作成し、③単位認定を願い出ることによって単位認定される科目です。なお、履修申請ができるのは現代社会学科の学生に限られます。

この科目は、成蹊教養カリキュラムの「成蹊ボランティア」と同様、学生の自主的活動を対象とした単位認定科目です。「成蹊ボランティア」との違いは以下の 3 点です。

- ① 大学が指定した活動ではなく、学生本人が科目の趣旨に合致すると判断した活動について、単位認定の願い出を行うこと。（当該の活動が単位認定対象となるかどうかについては、現代社会学科で審査を行います）
- ② 活動報告書（次頁の「申請手続きから単位認定までの流れ」参照）を作成し提出すること。
- ③ 認定される単位が 1 単位であること。

「地域交流実践研究」は、学生が自発的に行った地域交流活動に対し、運営にかかわる、活動で主導的な役割を果たす、今後の活動に有益な提案をするなど、活動に主体的に取り組んだと判断されたときに単位を付与することを趣旨としています。学生が単位認定を目的とした地域交流活動をおこなうことを推奨するものではありません。単位認定を受けた後で予定されていたそれ以降のスケジュールをキャンセルするなど、相手方に迷惑をかけることがないよう活動に取り組んでください。事前審査は活動の成果を得た後に行います。

単位認定の対象活動及び単位認定基準

- (A) 対象活動は、現代社会学科での学習内容と関連した地域交流活動とします。たとえば以下ののようなものが考えられます。
 - ・ 公民館、コミュニティセンターや福祉施設、学校等でのボランティア活動
 - ・ 地域を舞台とした NPO 活動への参加
 - ・ 夏まつりなど、地域の行事等の実行委員会への参加
- (B) 活動時間は、原則実質 22.5 時間以上。単位の認定は、提出された活動報告書の内容をみて行います。長期にわたり継続して行う活動の場合は、ある程度まとまった時間活動を行った時点で報告書を提出してください。複数年にまたがる活動も可とします。
- (C) 単位認定を希望する者は、履修申請の前に必ず教務部に申し出て、申請しようとする活動が単位認定対象となるか審査を受けてください。（次頁「申請手続きから単位認定までの流れ」参照）
- (D) 以下の活動は単位認定の対象外とします。
 - ・ 学内サークルで行う通常の活動
 - ・ 成蹊大学社会活動支援奨学金の受給対象活動
 - ・ アルバイト（交通費などの実費以外に報酬や謝礼を得る活動）
 - ・ 「成蹊ボランティア」の単位認定対象となっている活動

申請手続きから単位認定までの流れ

① 履修希望申請（事前審査）

「地域交流実践研究」の単位修得を希望する者は、教務部に申し出て、当該の活動が単位認定の対象となるかを相談してください。

＊この科目は、Web で履修申請をする必要はありません。

また、年間の履修制限単位には含まれません。

② 活動報告書の作成

以下の要素を満たす活動報告書を作成してください（本文 5000 字程度）。

- ・活動の概要
- ・活動を行った理由・目的
- ・活動の経過と成果、参加を通して感じた疑問や課題
- ・活動経験を今後どう生かしていくか

＊A4 用紙に、1 ページ 40 字×30 行で作成する。

＊本文にはページ数を打つこと。

＊表紙をつけ、ホチキス等で綴じること。表紙には「地域交流実践研究活動報告」と明記し、学籍番号、氏名、提出年月日を記載すること。

＊本文の後に参考文献リスト、付録（図表、写真、資料等）をつけてもよい。

＊報告書には、活動の事実を証明する書類（活動や主催団体に関する資料のコピー、記録写真等）を添付する。難しい場合は提出の際に理由を申し出ること。

③ 単位認定の申請

②の要領で作成した報告書を、単位認定申請書とともに教務部に提出してください。申請は随時受け付けますが、当年度の単位認定の対象となる申請期限は 1 月末日（当日が日曜日の場合は、翌日）とします。

④ 単位の認定

申請書提出後、審査を行い、要件を満たしている場合には、評価「T」を認定します。（GPA の対象にはなりません。）

活動報告書の形式に著しい不備がある場合は、審査対象として認められません。内容が不足している場合、書き直しを求めることもあります。

指導教授

指導教授制度

指導教授とは、学修の問題だけではなく、生活上の問題においても助言、指導等を行う担当教員のことです。

休学・留学願など学籍に関する書類や、教務に関する各種書類を提出する場合、指導教授の承認が必要となる場合が多いので、各種相談に応じてもらうことはもとより、何か重大なことがあった場合に備えて、すぐに連絡を取れるようにしておく必要があります。

指導教授担当授業

各年次原則として以下の授業を担当する教員が指導教授にあたります。

指導教授はポータルサイト「学生カルテ」→「学生基本情報」→「学務情報」に記載の「前期 主担当」「後期 主担当」を確認してください。

	英語英米文	日本文	国際文化	現代社会
1 年	セミナー100	日本語・日本文学入門 I・II	基礎演習 I・II	現代社会研究の基礎 I・II
2 年	セミナー400	古典文学基礎研究 I・II	基礎演習 III・IV	現代社会研究の方法 I・II
3 年	セミナー500・600 または 演習 I・II	日本文学演習 I・II または 日本語学演習 I・II	演習 I・II	演習 I・II
4 年	セミナー700・800 または 演習 III・IV	日本文学演習 III・IV または 日本語学演習 III・IV	演習 III・IV	演習 III・IV

注意事項

- ①該当科目を非常勤講師あるいは本学他学部専任教員等が担当している場合は、別に文学部専任教員が指導教授となります。
- ②休学者および留学者の指導教授は、原則として休学願・留学願を提出したときの担当教員となりますが、諸々の事情により該当教員が不在の場合には、学科主任がその任にあたります。
- ③留年者で、その学年の上記指導教授担当授業を修得済みの場合の指導教授は、原則として単位修得時の指導教授になります。ただし、諸々の事情により学科主任など他の教員となることもありますので、該当者は4月のオリエンテーション期間に確認してください。

一般情報

授 業

授業時間

本学の授業は前期・後期を通じ、5 時限制となっています。各時限の開始・終了時刻は次のとおりです。

時 限	講 義
第 1 時限	8:50 ～ 10:30
第 2 時限	10:40 ～ 12:20
第 3 時限	13:10 ～ 14:50
第 4 時限	15:00 ～ 16:40
第 5 時限	16:50 ～ 18:30
第 6 時限	18:40 ～ 20:20

※ 学期末試験や補講は第 6 時限に実施する場合があります。

曜日不足分授業日

祝日や行事が多く、授業日数が十分に確保できない曜日がある場合は、その曜日の授業を異なる曜日に実施します。日程などの詳細は、『学年暦』を参照してください。

祝日授業日

授業日数を確保するために、祝日に授業を行うことがあります。日程などの詳細は、『学年暦』を参照してください。

授業予備日

天災（台風、地震、大雪等）や事故、ストライキなどによる交通機関運行停止等の理由により、授業が実施できなくなった場合、その日の授業を授業予備日に実施することがあります。日程は、『学年暦』を参照してください。

休講

授業担当者がやむを得ない事由により講義を休む場合は、掲示でお知らせします。万一連絡がなく、担当者が不在で授業開始時刻より 30 分経過した場合は、教務部に連絡の上、指示を受けてください。

台風、地震、大雪などの天災、事故、その他の緊急事態による一斉休講の場合も、掲示によりお知らせします。

補講

補講は、前期と後期に設けられている補講日に実施します。また、所定の期間の 6 時限目に実施することもあります。

補講を行う科目とその実施日時は、掲示でお知らせします。補講日や 6 時限目補講期間は『学年暦』を参照してください。

教室

授業が行われる教室は、ポータルサイトで調べることができます。また教室が変更される場合があるので、授業開始前に必ず確認するようにしてください。表示は以下のように略記号になっている場合があります。

- (例) 2 - 411 大学 2 号館 4 階演習室 411
4 - 101 大学 4 号館 (ホール)
8 - 102 大学 8 号館 1 階 102 教室

出席情報の管理について

2024 年度をもって、カードリーダー（出席端末）の運用を終了しました。

出席の取得方法（※CoursePower の出席機能、アンケート、クリッカー、コメントシート等）については、授業担当者に確認をしてください。

※CoursePower の出席機能について

CoursePower の出席機能は、授業担当教員があらかじめ受付時間やパスワードを設定しておくことにより、学生自身が持参するパソコンやタブレット上で出席を登録できる機能です。具体的な出席の登録方法については、キャビネットに格納されている「CoursePower 操作マニュアル（学生）」を参照してください。

【CoursePower の出席機能についての注意点】

- ・授業担当者の判断により、出席機能が必ず利用されるとは限りません。
- ・担当教員が設定をしている出席受付時間中のみ、出席を登録することができます。
- ・自分の出席情報は、CoursePower の「成績参照」で確認することができ、ポータルサイトでは確認することができません。

授業の欠席について

大学では、次項「感染症にかかった場合の対応について」に定める感染症により登校が停止となった場合を除き、公に認められる欠席はありません。

ケガ・病気・忌引で授業を欠席したときは、次回の授業時に、直接担当教員に連絡してください。ただし、欠席の取扱い担当教員の判断に任されています。

※ 1 週間以上欠席する場合は、教務部に相談してください。また、後掲の『学籍』の「長期欠席」を参照してください。

感染症にかかった場合の対応について

学校感染症にかかった場合は、罹患報告が必要になります。必ず以下の大学保健室 HP の「学校感染症」のページを確認し、大学保健室へ報告してください。

大学保健室 HP <https://www.seikei.ac.jp/university/campuslife/hoken/>

天災（台風、地震、大雪等）、事故、ストライキなどによる交通機関運行停止の場合の授業措置

天災、事故、ストライキ等により交通機関の一部が不通となっても、大学は可能な限り授業を実施します。ただし、首都圏の JR のうち中央線（東京～高尾間）・山手線の全線がともに不通となった場合に限り、次のとおり休講措置を講じます。

なお、学期末試験についても同様の措置を講じます。

JR 中央線（東京～高尾間） JR 山手線の運行状況	授業の取扱い
午前 7 時現在不通の場合	第 1 時限および第 2 時限の授業を休講とする
午前 10 時現在不通の場合	第 3 時限から第 5 時限までの授業を休講とする
午後 3 時現在不通の場合	第 6 時限および第 7 時限の授業を休講とする

※ 休講の決定は、ポータルサイトや HP 等でお知らせします。

気象警報、地震に関する情報、Jアラートを通じた緊急情報などが発表された場合の授業措置

気象警報（大雨、洪水、暴風、暴風雪、大雪等）、地震発生の可能性に関する情報、Jアラート（全国瞬時警報システム）を通じた緊急情報などが発表された場合は、学生の皆さんの安全を考え、また、交通機関の乱れに備え、授業の休講・学期末試験の延期等の措置をとることがあります。

他の理由による場合も含めて休講等の決定は、ポータルサイトや HP 等でお知らせします。

学 籍

学籍とは

「学籍」とは、本学での身分所属を表すものです。

通常、本学に4年間在学し、所定の単位を修得して卒業することになりますが、在学すべき年数に算入されない「休学」や、学籍がなくなる「退学」などの「学籍異動」を希望する場合には、願い出で、許可を受ける必要があります。

問い合わせ先は基本的に教務部ですが、それ以外の場合は担当の部署を記載しています。

休学

疾病またはその他の理由により、3か月以上就学できない場合は、当該期間を休学することができます。その場合「休学願」（疾病、怪我等の場合は診断書を添付）を大学に提出して許可を受ける必要があります。休学中の授業料等の納付金については、後掲の『納付金』を参照してください。

休学については、次のことに注意してください。

- ① 休学期間は、1年以内とします。
- ② 休学期間の延長の必要がある場合には、さらに1年間まで延長を願い出ることができます。
- ③ 休学期間は、通算して4年を超えることができません。
- ④ 休学期間は、学則に定められた卒業要件としての在学すべき年数（4年）には算入されません。
- ⑤ 休学期間は、学則に定められた在学が許される期間（8年）には算入されません。
- ⑥ 休学期間終了と同時に卒業することはできません。

復学

休学者が休学期間を終え、復学する場合は「復学願」を大学に提出して許可を受ける必要があります。教務部より送付する書類に基づき、所定の期日までに手続きを行ってください。

長期欠席

休学をせず、病気・怪我等、やむを得ない事由により長期（1週間以上3か月未満）欠席する場合、その事実を客観的に判断できる証明書を添付して「長期欠席願」を大学に提出し、許可を受けると、教務部から教員に長期欠席の連絡をします。そのため、診断書記載日と期間をあげずに、教務部に提出してください（成績確定後の提出は受け付けません）。ただし、必ずしも出席の扱いになるとは限りません。なお、長期欠席が認められた場合、履修中止申請期間外でも履修中止の申請を受け付けることがありますので、教務部に申し出てください。

退学

事情により退学する場合は、「退学願」を大学に提出して許可を受ける必要があります。退学は「願い出による退学」と「懲戒による退学」に区分されます。

「願い出による退学」は、学生自身の意思により大学を辞めることです。退学後の進路における履歴の証明や再入学の可能性等を十分に考慮し、退学理由や退学日付についても考えた上、提出してください。「願い出による退学」に伴う納付金の返還については、後掲の『納付金』を参照してください。

一方、大学の規則に違反し、学生の本分にそむく行為のあった者が、「懲戒による退学」を受ける場合もあります。

再入学

退学者が再入学を希望する場合は、「再入学願」を提出することで、選考の上、再入学を認める場合があります。再入学の時期は、原則許可された年度の翌年度の始めとします。

除籍

学則には、大学の決定により、学生が本学での身分を失うものとして除籍が規定されています。学則に定められている除籍の理由は次のとおりです。

- ① 在学期間が所定の年数（8年）を超える者
- ② 授業料等の納付金又は在籍料を滞納し、催告してもこれに応じない者
- ③ 退学勧告を受けた者で、その後も改善が認められない者

転部

学部の変更を希望する学生に対し、学内試験を実施し、転部を認める場合があります（概ね2年次に進級する際の若干名の募集となり、毎年行われるとは限りません）。

6月中旬に募集する学部を掲示で発表します。「募集要項」、「転部・転科願」を教務部にて配付します。学内試験は9月から10月にかけて行われる予定です。

転科

■ 文学部、法学部

転部に同じ。

■ 経済学部

経済学部内の他の学科へ移ることを希望する学生に対し、志望理由、成績等を考慮し、選考の上、若干名の転科を認める場合があります。認められた場合、2年次に転じることになります。

募集の詳細は10月に掲示で発表します。転科を希望する学生は1月末日までに「転科希望願」を教務部に提出する必要があります。選考は2月に行われる予定です。

■ 理工学部

理工学部内の他の学科へ移ることを希望する学生に対し、志望理由、成績等を考慮し、選考の上、若干名の転科を認める場合があります。転科の時期は原則として2年次進級時となります。

募集の詳細は12月に掲示で発表します。転科を希望する学生は1月末日までに「転科希望願」を教務部に提出する必要があります。学内試験は2月に行われる予定です。なお、選考結果にかかわらず、当該年度末の成績が以下の要件を満たしていない場合は、転科は認められないので注意してください。

- ① 所属する学科において次の年次への進級基準を満たしていること。
- ② 通算のGPAが所属する学科の当該年次における平均値を越えていること。

9月卒業

前年度に卒業が認められなかった学生で、今年度前期末で卒業要件の充足が見込まれる学生は、9月30日付けで卒業することができます。

■ 要領・手続き

4月の履修登録時において、卒業要件の充足が見込まれるように、前期開講科目を必ず履修登録してください。

「9月卒業資格認定願」を6月末日までに提出してください。上述のとおり履修登録をしても、期限までに「9月卒業資格認定願」が提出されなければ、9月卒業の対象とはなりません。また、要件充足者について、自動的に卒業認定を行うことはしません。

■ 卒業資格の認定

9月卒業資格は、9月に審査し、学長により認定されます。

進路未定等で9月卒業をしなくなった場合には、別途「9月卒業資格認定取消願」を提出しなければなりません。その場合は、至急教務部に連絡してください。

■ 9月卒業の特例措置

卒業論文提出につき、提出したが不受理ないし不合格となった学生、または提出しなかったが仮題目および本題目を提出済みの学生については、特例措置として、本人が希望し所定の手続きを経て次年度前期に卒業論文を提出し、卒業論文が合格、かつ次年度前期末で卒業要件を満たす場合には、9月卒業資格が与えられます。

この場合の日程は次のとおりですが、詳細は12月下旬に掲示予定ですので、確認してください。

卒業論文題目（本題目）提出：4月中旬の別途指定した期間（教務部）

卒業論文提出：5月中旬の別途指定した期間（教務部）

9月卒業資格認定願の提出：卒業論文と一緒に提出（教務部）

卒業延期

4年次生で、卒業要件を満たすものの、国家試験受験、就職活動など正当な理由により、引き続き在学することを希望する場合は、卒業要件を満たしたまま、卒業を延期することができます。手続きの詳細や日程については、12月上旬に掲示します。

■ 出願資格

- ① 4年次生であること。
- ② 卒業要件を満たす見込みである、あるいは満たしていること。

ただし、次に該当する場合は、出願できません。

- ・卒業延期により在学期間を延長した結果、在学期間が8年を超える場合
- ・授業料等の納付金を滞納している場合

また、4年次後期から1年間留学する場合（留学期間を延長する場合を含む）は、卒業延期とはならず在学期間が延長されますので、卒業延期制度は適用されません。

■ 在学延長期間・卒業の時期

在学を延長できる期間は1年で、1回（1年）を限度に再延長することができます（通算2年まで）。ただし、延長期間中の休学は認められません。

卒業の時期は、在学延長期間が終了する年度の終了日です。ただし、在学延長期間中に事情変更により、9月卒業を希望する場合は、所定の手続きを経ることで卒業が認められます。期間を再延長した場合も同様です。

■ 手続き

- ・所定の期間（12月～1月頃）に「卒業延期願」を提出した学生に対し、審査の上、卒業延期が許可されます。卒業要件を満たさなかった場合は、留年となり、この制度の適用を受けることはできません。

- ・一旦卒業延期を許可された学生が、事情変更により本来卒業すべき年度末での卒業を希望する場合は、教務部に連絡の上、所定の期日までに「卒業延期許可取消願」を提出する必要があります。提出した場合に限り、本来卒業すべき年度末での卒業を認めます。
- ・卒業延期を許可された学生が、在学延長期間分の授業料等の納付金を所定の期間内（3月中旬）に納入しなかった場合は、卒業延期の許可を取り消し、本来卒業すべき年度末での卒業とします。
- ・在学期間の再延長を希望する場合、改めて手続きが必要となります。

■ 履修登録

原則として、他学部・他学科科目、単位互換科目、教職等資格課程科目を含め、通常どおり履修登録することができます。

■ 学生の身分等

卒業延期者の身分は、在學生と何ら変わりませんので、情報教育用施設、図書館などの諸施設・設備の利用、学割の発行、学生教育研究災害傷害保険の加入などはもちろん、学則に基づく懲戒処分についても通常の学生と同等に扱われます。

また、在学延長期間中（4月1日以降）に、本学の留学制度に基づく留学をすることもできます。単位認定を希望する場合は、12月末日までに教務部に申し出てください。単位認定手続きの締切については、申し出の際に教務部に確認してください。各学部の審査日程に手続きが間に合わない場合は、単位認定できません。

氏名の変更

改姓や改名をした場合は、「改姓・改名届」に変更の事実を証明できる書類（戸籍の「全部事項証明書（謄本）」、「個人事項証明書（抄本）」）を添えて提出する必要があります。

保証人の変更（学生部）

保証人を変更する場合は、「保証人変更届」を提出する必要があります。保証人の名前が変更になった場合も同様です。詳しくは、学生部に問い合わせてください。

住所・電話番号の変更（学生部）

本人および保証人の住所・電話番号を変更した場合は、「住所変更届」を提出する必要があります。本人のみの住所・電話番号の変更の場合は、ポータルサイトから申請入力することができます。申請方法の詳細は「Seikei Portal 利用マニュアル」を参照してください。その他不明点等については、学生部に問い合わせてください。

留学（国際課）

留学については、後掲の『外国留学』を参照してください。詳しくは、国際課に問い合わせてください。

納 付 金

納入時期

2023 年度入学者の後期納付金より、原則、口座振替での納入となります。入学後、ご登録頂く金融機関口座から、授業料等の納付金（授業料、施設費および設備費をいう。以下同じ。）を引き落とししますので、振替日の前日までに口座にご資金の準備をお願いします。なお、口座振替に係る手数料については、納入者負担となりますので、予めご了承ください。口座振替日は次のとおりです。

前期： 4 月 12 日

後期：10 月 6 日

なお、2022 年度以前に入学された方については、振込依頼書を毎年 4 月上旬に前期分と後期分を同封して学生（保証人住所）宛に郵送します。授業料等の納付金は、次の期日までに納入してください。

前期： 4 月 19 日まで

後期：10 月 11 日まで

- ※ 振替日および納入期限の最終日が土・日・祝日または金融機関の休日の場合は、翌日が振替日・納入期限となります。
- ※ 期日までに納入することが困難な場合は、財務部経理課に願い出て、納入期限を延長することができます。延納が許可された後、振込依頼書を郵送します。

休学期間中の取扱い

休学を許可された場合であっても、休学期間中の授業料等の納付金を納入しなければなりません。しかし、次のすべての条件を満たす場合は、在籍料（半期 75,000 円、年間 150,000 円）の納入となります。

① 休学期間が学期の全期間にわたる場合

② 前期：4 月 30 日、後期：10 月 31 日までに「休学願」を提出し、休学が許可された場合

- ※ 休学が許可された後、在籍料の振込依頼書を郵送します。ただし、2023 年度以降の入学者については、改めて口座振替のご案内をいたします。

退学に伴う納付金の返還について

次の期日までに退学願を教務部に提出し、退学が許可された場合は納付金返還の対象となります。

なお、返還にあたっては、退学願同様、期日までに「退学に伴う納付金返還願」を経理課へ提出する必要があります。

前期：前期納付金を納入した場合、その年度の 4 月 30 日までに退学願を教務部へ提出した場合に、前期納付金の返還対象とする。

後期：後期納付金を納入した場合、その年度の 10 月 31 日までに退学願を教務部へ提出した場合に、後期納付金の返還対象とする。

授業料等の減免

4 年次生のうち、学部の修業年限を超えて在学している者（卒業延期者を除く。）で、本年度の始めにおいて卒業に必要な単位数のうち未修得の単位数が 8 単位以下の者については、本年度納入すべき授業料等の納付金の 2 分の 1 を減額します。該当者については、手続きは必要なく、減免措置がとられ、4 月上旬に財務部経理課より納付金減免の通知が郵送されます。ただし、2023 年度以降の入学者については、改めて口座振替のご案内をいたします。

なお、資格試験等による単位認定を希望する者で、オリエンテーション期間に手続きを行い、単位認定がされた結果、未修得単位数が 8 単位以下となった者についても減免対象とします。

※ 授業料等の減免が適用される年度に休学した場合は、減免の対象とはなりません。

※ 納付金減免の通知に同封の振込依頼書で、前期分のみ納めてください。この減免は年額の 2 分の 1 のため、後期分を納める必要はありません。

4 年次後期から 1 年間、本学の外国留学制度で留学する場合の取扱い

留学期間が学期の全期間にわたる場合に限り、その学期について納入すべき授業料等の納付金の 3 分の 2 を減額します。ただし、他の減免措置が同時に適用されることはありません。また、留学終了後に引き続き在学する場合は通常の納付金が適用されます。

9 月卒業時の取扱い

9 月卒業が認定された学生については、その年度に納入すべき授業料等の納付金の 2 分の 1 を減額します。9 月卒業が認定されなかった場合は、全額納付しなければなりません。ただし、年度の始めにおいて卒業に必要な単位数のうち未修得の単位数が 8 単位以下であれば、授業料等の減免が受けられます。

卒業延期者の取扱い

卒業延期者については、履修登録の有無、履修登録単位数、留学にかかわらず、その年度に支払うべき授業料等の納付金の 2 分の 1 を減額します。卒業延期期間中は、休学は認められません。

学期末試験・レポート

【注意】 下記の内容は今後変更の可能性があります。

学期末試験関連の連絡事項については、必ずポータルサイトの掲示を確認してください。

試験期間

試験期間については『学年暦』を参照してください。

試験時間割

試験期間前に学期末試験時間割を掲示で発表します。通常授業とは異なる曜日、時間帯(6限を含む)に試験を実施する科目もありますので、注意してください。

■ 試験教室

試験教室は学期末試験時間割に記載されていますので必ず確認してください。

科目によっては複数の教室に分かれて同時に試験が行われる場合があります(「分離試験」という)。必ず指定された教室で受験してください。

■ 受験上の注意

学期末試験時間割と一緒に掲示します。後述の受験上の注意を必ず読んだ上で、受験してください。受験上の注意は変更になる場合もありますので、必ず最新のものを確認してください。なお、履修登録をしていない科目および履修中止した科目は受験できません。

参照許可物

参照許可物(試験時に持込可能な図書類)については、試験期間前に掲示される「参照許可物一覧」あるいは、授業内で担当教員より指示がありますので確認してください。

受験上の注意

■ 座席について

正面に向かって左端から一人おきに着席すること。座席指定等を行う科目もあるため、監督者からの指示があればそれに従うこと。

■ 学生証について

学生証は必ず携帯し、机上の見やすい位置に写真の部分を表にして置くこと。学生証を携帯しない者は、受験を認めない。

■ 仮受験許可証について

学生証を忘れた者は、教務部の証明書自動発行機にて仮受験許可証(200円)を発行し、教務部の確認印を受けた場合に限り受験が認められる。仮受験許可証で受験する場合には、最前列で受験すること。なお、仮受験許可証の有効期限は当日限り。

■ 受験開始時の注意事項

机上に置くことができるもの

- ・学生証
- ・筆記用具（鉛筆・シャープペンシル、消しゴム、定規等）
- ・持込みを許可された参照許可物

※ 上記以外は、机上・机の棚には置かずにすべてカバンの中にしてしまうこと。
置いたまま受験すると、不正行為とみなされることがあるので特に注意すること。

机上・机の棚に置いてはならないもの

- ・参照許可物以外のもの
- ・携帯電話、スマートフォン、通信機能をもつ腕時計等（電源を切りカバンにしまうこと）
- ・携行品（カバンなど収納具、筆箱・ケース類を含む）
- ・上着、帽子類

※ 口を閉めることのできない収納具・中身が見える透明ケース等は隣の座席にも置かず、カバンにしまうこと。

■ 入退室について

受験者は、**試験時間割定刻 10 分前まで**に指定された試験場に入室すること。遅刻した場合でも、**試験時間割定刻 20 分以内**に試験場に到着したときは、必ず受験すること。

途中入室については試験時間割定刻より 20 分までとし、以後は認めない。途中退室については開講学部等によって異なるので、以下の表でよく確認すること。

開講学部等	途中退室
成蹊教養カリキュラム	認めない
EAGLE（2020 年度以降入学生）・ 成蹊国際コース（2019 年度以前入学生）	認めない
教職課程	認めない
経済学部	認めない
経営学部	認めない
理工学部	試験開始後 60 分以降
文学部	認めない
法学部	試験開始後 30 分以降

※ 試験時間中の入退室は静粛に行うこと。

※ 試験終了後の答案用紙の提出は、監督者の特別な指示のない限り着席したままで行う。答案回収が終わり、監督者の指示があるまでは退室することができない。

※ 開講学部は、掲示されている学期末試験時間割で確認すること。

■ 受験中・終了時について

- ・答案用紙・出席票は、学籍番号・氏名を必ず記入し提出すること。学籍番号・氏名が記入されていない答案用紙・出席票は無効とみなされる。
- ・退室の際、答案用紙（白紙答案であっても）・出席票を試験場から持ち出してはならない。
- ・受験中の不正行為が確認された場合は、学則にもとづき厳重に処罰される。また、監督者の注意にもかかわらず公正さを疑わせる行為や秩序を乱す行為等をした場合は、不正行為と同等の処罰を受けることがある。
- ・試験終了後も、教室内では携帯電話等電子機器を出さないこと。
- ・以上のほか、受験に関する行為は全て監督者の指示に従うこと。監督者の指示に従わない者は不正行為を行った者と推定され、直ちに受験を中止させることがある。

不正行為

受験中、学期末試験の実施に関する規則に定める不正行為を行った場合には、所定の手続きを経て、学則により懲戒処分（通常は無期停学）されます。無期停学となった期間は卒業に必要な修業年限（4年）には算入されず、**4年間での卒業ができなくなります**。また、当該学期の学期末試験科目の成績評価はすべて「F」（不合格）となり、単位を修得することはできません。停学処分のあった年度末には進級できず、原級にとどまることになります。

不正行為とは、次に掲げる行為をいいます。

- ① 参照を許可されていない書籍、ノートその他の物品を試験中に参照すること。
- ② 机、身体、所持品、用紙、書籍等に、解答に役立つ可能性のある文字・記号を記載し、試験中にそれを参照することができるような状態の下で受験すること。
- ③ 他人に代わって受験すること。他人を代わりに受験させること。
- ④ 試験中に、他人の答案を見ること、他人に答案を見せること。他人が自己の答案を見ている状態をことさらに放置すること。
- ⑤ 試験中に、音声、動作、メモその他の伝達手段により、解答に役立つ情報を伝えること、または、そのような行為を共謀し、助勢し、要求し、もしくは加担すること。
- ⑥ 科目担当者または試験監督者が一度不正行為に関する警告カードにより警告したにもかかわらず、その指示に従わないこと。
- ⑦ その他健全な大学生としての常識に照らし、明らかに公正な試験の実施を阻害すると認められる行為をすること。

追試験

学期末試験実施日に病気またはやむを得ない理由により、受験が不可能であった者に対し、審査の上、追試験を許可することがあります。ただし、平素の出席状況等によっては、許可を取り消すことがあります。また、許可された試験を放棄・欠席することは認められません。放棄・欠席した場合、再度の追試験は実施いたしません。また、次回以降の追試験受験を認めない対象となります。

■ 願出の手続き

所定の期間に追試験願および証明書を提出してください。詳細はポータルサイトの掲示を確認してください。

■ 交通機関の遅延による追試験手続き

交通機関の遅延により、試験時間割定刻から20分を超えたため、学期末試験を受けることができなかった場合の追試験の申請は、自宅（大学に届け出ている住所）から大学に向かう場合に限ります。次の書類を提出してください。詳細はポータルサイトの掲示を確認してください。

① 追試験願

「自宅を出た時刻」、「自宅から大学までの乗り換え経路」、「大学への到着時刻」等を詳しく記載してください。

② 遅延証明書

「乗車日付」および「遅延時間」が記載されたものを有効とします。インターネット上の証明書も有効です。

【 教務部連絡先 】

経済学部：0422-37-3703
 経営学部：0422-37-3703
 理工学部：0422-37-3551
 文学部：0422-37-3736
 法学部：0422-37-3556

■ 証明書の添付

追試験を願い出る際には、当該試験の受験ができなかったことを客観的に証明する次の書類（試験を欠席した日付が確認できるもの）を必ず添付しなければなりません。

欠席理由	欠席理由を証明する書類等
本人の傷病 ※1	医師の診断書 (大学所定用紙又はそれに準ずるもの)
親族（三親等以内）の死亡	会葬礼状又は死亡診断書
親族（三親等以内）の傷病	医師の診断書
就職試験 ※2	企業、官公庁等発行の証明書（就職試験の場所・日時が明記され、社印等が押印されていること）
交通機関の遅延等 ※3（注意！）	交通機関の遅延証明書
災害（台風、水害、火災、地震等）	罹災証明書等、災害の状況が把握できる書類
正課授業に基づく実習（教育実習、インターンシップ）	証明する書類の提出は不要 (大学でその事実を確認できるものに限る)
単位互換制度による他大学、他大学院との試験時間の重複または移動時間の不足による欠席	証明する書類の提出は不要
部活動等における「学生の日本代表」または「日本代表クラス」での大会参加	招聘機関等からの証明書及び当該大会等の内容が分かる書類等
裁判員制度に基づく要請	裁判所からの要請等を証明する書類等
その他公的機関からの要請等	公的機関からの要請等を証明する書類等
その他	所属する学部又は研究科が特に提出を求めたもの

※1 インフルエンザ、はしかなどの学校感染症にかかった場合は、「学校感染症出席停止証明書」または診断書を提出してください。

※2 日程変更ができない就職試験の場合に限ります。セミナー、説明会、OB 訪問は含まれません。

※3 「乗車日付」および「遅延時間」が記載されたものを有効とします。

■ 許可者発表

審査結果や追試験時間割は、掲示にて発表します。

■ 注意事項

追試験の対象となる科目は、学期末試験時間割に記載された科目のみです。科目担当教員の判断で、授業時間中に実施されるテストは、学期末試験にはあたりません。学期末試験の実施に関する規則は適用されませんので、注意してください。

■ レポートの提出について

提出期間、提出方法等の詳細については担当教員より指示があります。提出方法は、授業内での回収、6号館1階教務部レポート提出ボックスへの提出、ポータルサイト、CoursePowerから提出などがありますので、必ず教員の指示を確認してください。

■ 注意事項

レポートの提出の際には、次の点に注意して提出してください。

- ① 履修登録をしていない科目および履修中止した科目のレポートは、提出しても無効となる。
- ② レポートは完成した状態にして提出すること。提出形式に不備がある場合には無効となることもある。
- ③ 他の者のレポートを写したり、Webサイトの内容を複写するなどの行為が認められた場合には、成績評価は「F」になることがある。（※）
- ④ いかなる理由でも、指定された期間以外の提出は受付けない。
- ⑤ 指定された提出先に提出すること。異なった提出先に提出されたレポートは無効になることがある。
- ⑥ 提出日が近づくと、学内のパソコンの利用が混み合うため、レポートは余裕を持って作成し、提出すること。

（※注意！）～盗用、剽窃について～

レポートに限らず、授業において様々な成果物を課されることがありますが、それらを作成するにあたり、友人の成果物やWebサイトの文章など、他人が作成したものをあたかも自分が作成したかのように見せかけることは、「盗用」や「剽窃（ひょうせつ）」と呼ばれ、厳しく禁じられています。成蹊大学では、そのような行為を行った学生に対し厳正に対処していますので、絶対に行わないようにしてください。

■ 生成AIの利用について

生成AIの利用について、所属する学部等や担当教員から指示がある場合は、それに従ってください。生成AIの出力をそのまま、あるいは多少表現を変えた程度で、レポートとして提出することは認められません。レポートに取り組む際に生成AIをなんらかの形で利用した場合は、利用方法を明示してください。特に、自分の意見との区別に留意してください。

成 績

成績評価

■ 評価の方法

シラバスに各科目の評価方法が記載されています。科目の特性や授業方法等により、学期末試験（前期・後期）、レポートの提出、授業中に行われる小テストおよび授業における学習態度や出席状況など、評価方法が多岐に渡っていますので、科目ごとに確認してください。

■ 評価の種類

成績評価は「S」「A」「B」「C」「F」「P」「N」のいずれかで評価されます。「S」「A」「B」「C」「P」は合格として所定の単位が認定されますが、「F」「N」は不合格で単位は認定されません。

また留学等により単位認定を受けた科目は「T」（Credits Transferred）と表示され、履修中止した科目は「W」（Withdrawal）と表示されます。

■ 科目の再履修

不合格となった科目の単位を修得するためには、翌年度以降に再履修する必要があります（「N」評価で不合格の場合を除く）。しかし、一度合格し単位を修得した科目は、再履修できません。（日本文学科の重複履修科目を除く。）

■ 成績証明書への記載

成績証明書には、「W」を除き、不合格の「F」「N」評価を含めたすべての評価が記載されます。ただし、「F」評価で不合格になった科目を再履修し、合格の評価を得た場合には、再履修前の「F」評価は記載されません。（日本文学科の重複履修科目を除く。）

GPA 制度

■ GPA とは

各評価に GP（Grade Point）を設け、所定の計算式に基づいて算出した平均値を GPA（Grade Point Average）といいます。

成績表示	成績評価基準	GP
合格	S	100 ～ 90 点
	A	89 ～ 80 点
	B	79 ～ 70 点
	C	69 ～ 60 点
不合格	F	59 点以下
GP 対象外	P	Pass
	N	Non Pass
	T	単位認定
	W	履修中止

■ GPA の算出方法

GPA : $P1/Q1$ (小数点以下第 4 位を四捨五入し、小数点以下第 3 位まで表示する)

$P1 =$ 各評価の単位数に指定のポイントを乗じて累積したもの

$S \text{ 単位数} \times 4 + A \text{ 単位数} \times 3 + B \text{ 単位数} \times 2 + C \text{ 単位数} \times 1 + F \text{ 単位数} \times 0$

$Q1 =$ 総履修単位数

■ GPA の注意事項

- (1) GPA の対象となる科目は、卒業に必要な単位数に算入することができる科目です。
- (2) 「T」、「W」、「P」、「N」評価の科目は GPA に算入しません。
- (3) 過去に「F」評価を受けた科目で、再履修して合格評価 ($S \cdot A \cdot B \cdot C$) を得た場合や「T」で単位認定を受けた場合は、通算 GPA 算出の際の「 $Q1 =$ 総履修単位数」に含まれません。ただし、「F」評価を受けた当該学期の「 $Q1 =$ 総履修単位数」には含まれます。
- (4) 「F」評価を受けた科目を再履修し、その科目を履修中止して「W」表記となった場合は、再履修前の「F」評価の単位数は GPA に算入されますので注意してください。
- (5) GPA には学期ごとの GPA、年度 GPA、通算 GPA があります。成績通知表には、この 3 種類の GPA がすべて記載され、成績証明書には、通算 GPA が記載されます。

成績の通知・確認

■ 前期の成績確認

後期の授業開始前にポータルサイトで開示するほか、「成績通知表」を 10 月上旬に保証人住所（保証人と本人の連名宛）に送付します。それまで履修した科目すべての成績が表示されます。成績の確認方法の詳細は、「Seikei Portal 利用マニュアル」を参照してください。

■ 前期集中講義の成績確認

ポータルサイトで開示します。成績評価に質問がある場合は、「履修・成績質問票」を教務部に提出してください。

成績開示の時期や「履修・成績質問票」の受付期間は『履修成績関係日程』および掲示を確認してください。

■ 学年末の成績確認

「成績通知表」を、3 月下旬に保証人住所（保証人と本人の連名宛）に送付します。なお、ポータルサイト上では、3 月上旬に開示します。成績開示の日時は掲示を確認してください。

■ 成績評価に疑問がある場合

授業の担当教員に直接問い合わせないでください。

「履修・成績質問票」を、教務部に提出してください。日程は『履修成績関係日程』や掲示を確認してください。

教務部から担当者に問い合わせ、回答が戻り次第掲示で連絡します。

証 明 書

申込み方法・交付

証明書が必要な場合は、証明書自動発行機を利用してください。証明書自動発行機は 3 号館 1 階と 6 号館 1 階に設置しています。(3 号館 1 階の証明書自動発行機は交通系 IC カード決済専用です。)

発行可能な証明書は、学籍状態や、単位の修得および履修状況などにより異なります。また、発行期間が限定されるものもありますので、注意してください。

証明書の種類

下記の証明書は、証明書自動発行機で即日交付が可能です。下記に記載のない証明書については発行機で申請書を購入のうえ、教務部に申請してください。(発行までに時間がかかりますので、余裕をもって申請してください。) 申請書は、6 号館教務部内の証明書自動発行機でのみ購入できます。詳細は HP または発行機の掲示を参照してください。

証明書の種類	対象学生	発行手数料
在学証明書（和文・英文）	1 年次生以上	1 通 200 円
成績証明書（和文・英文）		
卒業見込証明書（和文・英文）	4 年次生	
卒業見込・成績証明書（和文・英文）		
教育職員免許状取得見込証明書（和文）	1 年次生以上	
健康診断証明書（※）		

※本学所定の用紙の場合のみ。専用用紙による健康診断証明書については、申請書を購入のうえ大学保健室に提出してください。なお、この証明書は 4 月の健康診断受診後、5 月中旬頃から申し込むことができます。

自動発行機の稼働時間

曜日	稼働時間
平日 (月～金曜日)	9:00～17:00
土曜日	9:00～12:00

※夏期・冬期休業期間中の稼働日・時間については掲示を参照してください。

卒業見込証明書・卒業証明書の発行時期・条件

卒業見込証明書は 4 年次に卒業要件を満たせるように履修登録をした学生を対象に、4 月初旬から発行します。

卒業証明書は、卒業資格認定者を対象に 3 月卒業者は 3 月中旬から、9 月卒業者は 9 月下旬から発行します。なお、卒業した翌月からは手数料が卒業生料金 (1 通 400 円) となります。

外国留学

本学では、外国の大学（外国における正規の高等教育機関で学位授与権を有するもの、またはこれに相当する教育研究機関）に留学を希望する学生が、休学することなく、在学したまま留学することができる外国留学制度があります。留学の手続きについては国際教育センター国際課で行います。

外国留学の種類

本学の外国留学には、協定留学、JSAF プログラム、認定留学があります。

■ 協定留学

学内で選抜された学生が、本学の外国留学制度を利用し、本学と協定を結んでいる大学に留学するものです。この協定留学には、長期協定留学、中期協定留学、短期協定留学があります。協定先の大学、留学時期、募集時期等の最新情報は、国際教育センターホームページの「海外留学ガイド」を参照してください。

URL <https://www.seikei.ac.jp/gakuen/siis/>

留学の手続きについては、国際教育センター国際課が主催する各協定留学プログラムの説明会に参加し、指示を受けてください。

(1) 長期協定留学

この留学は、本学に 1 年以上在学し、かつ、所定の単位を修得した学生を対象としています。ただし、1 年次生であっても出願することができます。留学期間は、半年もしくは 1 年です。

留学する学年	卒業に必要な修得単位
2 年次で留学する場合	36 単位以上
3 年次で留学する場合	72 単位以上
4 年次で留学する場合	100 単位以上

主な特徴は、次の 5 点です。

- ① 1 年の留学期間を修業年限（4 年）に算入することができます。
- ② 留学先大学で修得した単位は、60 単位を限度に授業科目として認定することがあります。必修の演習科目についても、留学先大学で修得した授業科目の内容により、単位認定されることがあります。卒業論文については、原則として認定されませんが、留学先で修得した授業内容により、認定されることがあります。各年次で修得する必要がある演習や卒業論文等が単位認定された場合には、各学科 4 年間で卒業できる可能性があります。ただし各資格課程・教職課程に関する科目は認定しません。
- ③ 後期から 1 年間留学する場合には、年度始めに履修登録した通年科目を留学終了後の後期において継続して履修できる制度があります。
- ④ 留学期間が学期の全期間にわたる場合に限り、その学期について納入すべき授業料等の納付金の 3 分の 2 を減額します。また、参加プログラムによっては「成蹊大学外国留学プログラム費補助金」を受給することが可能です。
- ⑤ 留学先での授業料は、交換協定の場合のみ一部の協定校を除き全額免除されます。

留学期間は、実際の出国日または帰国日にかかわらず、開始日は 4 月 1 日または 10 月 1 日、終了日は 3 月 31 日または 9 月 30 日となります。

(2) 中期協定留学

この留学は、本学に1年以上在学し、かつ、所定の単位を修得した学生を対象としています（長期協定留学の項を参照）。

主な特徴は、次の4点です。

- ① 半期の留学期間は、修業年限（4年）に算入することができます。
- ② 留学する年度の履修登録は、留学期間ではない前期もしくは後期の科目に制限され、一部の演習科目を除き通年科目の履修はできません。
- ③ 留学期間が学期の全期間にわたる場合に限り、その学期について納入すべき授業料等の納付金の3分の2を減額します。また、「成蹊大学外国留学プログラム費補助金」を受給することが可能です。
- ④ 留学先での学修を終了した学生には、その学修内容により、授業科目として単位認定を受けることができます。単位認定科目および単位数については、後掲の表を確認してください。

※ 留学する年度の履修登録は、必ず指導教授等の履修指導を受けて行なってください。またこの中期留学に前期または後期から参加することにより、当年度の半期分の履修登録および単位認定方法等が変わりますので、注意してください。

【前期(春期)に留学する場合】

履修登録できる科目は、後期開講科目と卒業論文のみです。

4年次

(ア) 英語英米文学科・国際文化学科・現代社会学科

「演習Ⅲ」の留学による単位認定、留学終了後の後期における「演習Ⅳ」の履修および「卒業論文」の提出が可能です。このため、卒業要件を満たせば、留学した年度に卒業することができます。

(イ) 日本文学科

留学終了後の後期に、「日本文学演習Ⅳ」または「日本語学演習Ⅳ」のいずれかを集中して2科目履修することで、そのうち1科目を「日本文学演習Ⅲ」または「日本語学演習Ⅲ」に読み替えて、「日本文学演習Ⅲ」と「日本文学演習Ⅳ」、または「日本語学演習Ⅲ」と「日本語学演習Ⅳ」という2科目の単位を修得することが可能です。また、留学終了後の後期における「卒業論文」の提出が可能です。このため、留学前の既修得単位と、留学により認定された単位および後期開講科目のうち修得した単位（「日本文学演習Ⅲ」または「日本語学演習Ⅲ」を含む）とを合わせて、卒業要件を満たすのであれば、留学した年度に卒業することができます。

3年次

(ア) 英語英米文学科・国際文化学科・現代社会学科

留学前の既修得単位、留学により認定された単位（「演習Ⅰ」を含む）、および後期開講科目のうち修得した単位（「演習Ⅱ」を含む）と合わせて進級要件を満たすのであれば、4年次に進級することが可能です。

(イ) 日本文学科

留学終了後の後期に、「日本文学演習Ⅱ」または「日本語学演習Ⅱ」のいずれかを集中して2科目履修することで、そのうち1科目を「日本文学演習Ⅰ」または「日本語学演習Ⅰ」に読み替えて、「日本文学演習Ⅰ」と「日本文学演習Ⅱ」、または「日本語学演習Ⅰ」と「日本語学演習Ⅱ」という2科目の単位を修得することが可能です。このため、留学前の既修得単位と、留学により認定された単位および後期開講科目のうち修得した単位（「日本文学演習Ⅰ」または「日本語学演習Ⅰ」を含む）とを合わせて、進級要件を満たすのであれば、4年次に進級することができます。

2 年次

全学科について、留学前の既修得単位、留学により認定された単位および後期開講科目のうち、修得した単位と合わせて、進級要件を満たすのであれば、3 年次に進級することができます。

なお、留学により単位認定が可能な科目には限りがあります。そのため、進級要件を満たすかどうかを、慎重に検討する必要があります。また 4 年間で卒業するためには、3 年次以降に多くの科目を履修し、単位を修得する必要があります。留学後の 3 年次において、履修希望科目に時間割上の重複がおこることもあるため、必ずしも思いどおりの履修登録ができない場合も考えられますので注意してください。

【 後期(秋期)に留学する場合 】

履修登録できる科目は、前期開講科目のみです。

4 年次

全学科について、留学によって「卒業論文」が単位認定されないため、留学した年度においては卒業ができません。なお、次年度については、卒業論文の提出にかかわる手続き等が変更になる可能性がありますし、授業料などの減免、9 月卒業などの可能性もあるので、指導教授と個別に十分な相談をしてください。

(ア) 英語英米文学科

「演習Ⅳ」の留学による単位認定を認めません。

(イ) 日本文学科

留学前の前期に、「日本文学演習Ⅲ」または「日本語学演習Ⅲ」のいずれかを集中して 2 科目履修することで、そのうち 1 科目を「日本文学演習Ⅳ」または「日本語学演習Ⅳ」に読み替えて、「日本文学演習Ⅲ」と「日本文学演習Ⅳ」、または「日本語学演習Ⅲ」と「日本語学演習Ⅳ」という 2 科目の単位を修得することが可能です。あるいは、留学後の次年度前期に、「日本文学演習Ⅲ」または「日本語学演習Ⅲ」を履修して、それを「日本文学演習Ⅳ」または「日本語学演習Ⅳ」に読み替えることも可能です。

(ウ) 国際文化学科・現代社会学科

「演習Ⅳ」の留学による単位認定が可能です。

3 年次

(ア) 英語英米文学科・国際文化学科・現代社会学科

留学前の既修得単位（「演習Ⅰ」を含む）と、留学により認定された単位（「演習Ⅱ」を含む）とを合わせて、進級要件を満たすのであれば、帰国後 4 年次に進級することが可能です。

(イ) 日本文学科

留学前の前期に、「日本文学演習Ⅰ」または「日本語学演習Ⅰ」のいずれかを集中して 2 科目履修することで、そのうち 1 科目を「日本文学演習Ⅱ」または「日本語学演習Ⅱ」に読み替えて、「日本文学演習Ⅰ」と「日本文学演習Ⅱ」、または「日本語学演習Ⅰ」と「日本語学演習Ⅱ」を修得することが可能です。このため、留学前の既修得単位（「日本文学演習Ⅱ」または「日本語学演習Ⅱ」を含む）と、留学により認定された単位とを合わせて、進級要件を満たすのであれば、帰国後 4 年次に進級することができます。

2 年次

全学科について、留学前の既修得単位、留学により認定された単位と合わせて進級要件を満たすのであれば、帰国後 3 年次に進級することができます。

なお、留学により単位認定が可能な科目には限りがあります。そのため、進級要件を満たすかどうかを、慎重に検討する必要があります。また 4 年間で卒業するためには、3 年次以降に多くの科目を履修し、単位を修得する必要があります。留学後の 3 年次において、履修希望科目に時間割上の重複がおこることもあるため、必ずしも思いどおりの履修登録ができない場合も考えられますので注意してください。

オーストラリア中期協定留学単位認定利用可能科目(文学部)

(2018年度以降入学生適用)

履修科目名・時間	学部・科目区分	利用可能科目	備考	認定 単位数
Global English (300時間)	成蹊教養カリキュラム 英語科目コア	College English (Listening & Speaking) I ①	教養カリ英語科目の認定は、 コア科目は原則2単位以内、 発展科目は10単位以内。 ただし、コア・発展合計で、 最大10単位まで。	10
		College English (Listening & Speaking) II ①		
		College English (Global Topics) I ①		
		College English (Global Topics) II ①		
		College English (Reading & Writing) I ①		
		College English (Reading & Writing) II ①		
		College English (Local Topics) I ①		
		College English (Local Topics) II ①		
	成蹊教養カリキュラム 英語科目発展	Presentation Skills ②		
		Discussion Skills ②		
		Writing Skills ②		
		多読で学ぶ英語と文化②		
		映画で学ぶ英語と文化②		
		ドラマで学ぶ英語と文化②		
		歌で学ぶ英語と文化②		
	文学部科目	Academic Reading ①		
		Academic Writing I ①・II ②	英米2年次3年次のみ認定可	
		Integrated English I ①・II ①		
		English Workshop A～D(各①)		
		Advanced Oral English A・B(各②)	3年次・4年次認定可	
	成蹊国際コース 必修科目	Independent Study I ②	成蹊国際コース所属者のみ 認定可	
		Independent Study II ②		
		Independent Study III ②		
	成蹊国際コース 選択必修科目	Academic Listening②		
		Cross Cultural Communication Skills②		
		Discussion & Presentation②		
		English for the Work Place②		
		Essay Writing②		
	Intensive Reading②			
Preparing for the Global Workforce (60時間) Professional Internship (280時間)	成蹊教養カリキュラム キャリア教育科目	インターンシップ準備講座②	3年次・4年次認定可	
		International Internship②		
	成蹊教養カリキュラム 国際教養科目	海外研修A②		
		海外研修B②		
	文学部科目	<2年次> 英米:2年次演習 I または II ② 国際:国際文化基礎演習 II または III ② 現社:現代社会研究の方法 I または II ②	日文における演習の扱いに ついては「参加者への対応」参照	
		<3年次> 英米・国際・現社:演習 I または II ②		
		<4年次> 英米:演習Ⅲのみ② 国際・現社:演習ⅢまたはⅣ②		
		Topics in British Culture A・B(各②)		
		イギリスの歴史と文化A・B(各②)		
		イギリス文学・文化AⅠ～DⅠ		
		イギリス文学・文化AⅡ～DⅡ(各②)		
		イギリス文化・文化史特講A・B(各②)		
グローバリゼーションと社会学②				
コミュニティの社会学②				
文学部科目・ 成蹊国際コース	海外研修C～H(各②)			
認定可能単位数合計			20単位	

※ 留学先大学は、前期・後期の各派遣回において、国際教育センター国際課から募集要項にて発表される。

※ College English の単位認定について

- ・2年次は当該留学期間で履修できない科目を認定する。(前期:Global Topics I・Local Topics I、後期:Global Topics II・Local Topics II)
- ・再履修がある場合には、状況に応じ検討する。

※ 演習の単位認定について

- ・各年次とも当該留学期間で履修できない科目を認定する。(英米文学科の演習Ⅳを除く)。
- ・卒業論文の単位認定はできないため、4年後期に留学した場合は、当該年度では卒業できない。

※ 成蹊国際コース科目の単位認定について

- ・成蹊国際コース科目は、成蹊国際コース所属者のみ単位認定できる。
- ・成蹊国際コースの必修科目は、当該留学期間で履修できない科目を認定する。

※ 単位認定は、単位を修得していない上記科目で行う。

113

なお、既に単位を修得し認定できる科目がない場合には、代替科目などの措置はとらない。

ダブリンシティ中期協定留学単位認定利用可能科目(文学部)

(2014~2017年度 入学生適用)

履修科目名・時間	学部・科目区分	利用可能科目	備考	認定 単位数
General English (160時間)	成蹊教養カリキュラム 英語科目コア	College English (Listening & Speaking) I ①	左記、英語科目の認定は、 コア科目は原則2単位以内、 発展科目は10～12単位以内。 ただし、コア・発展合計で、 最大12単位まで。	12
		College English (Listening & Speaking) II ①		
		College English (Global Topics) I ①		
		College English (Global Topics) II ①		
		College English (Reading & Writing) I ①		
		College English (Reading & Writing) II ①		
		College English (Local Topics) I ①		
		College English (Local Topics) II ①		
	成蹊教養カリキュラム 英語科目発展	Presentation Skills ②		
		Discussion Skills ②		
		Writing Skills ②		
		多読で学ぶ英語と文化②		
		映画で学ぶ英語と文化②		
		ドラマで学ぶ英語と文化②		
		歌で学ぶ英語と文化②		
	文学部科目	Academic Reading ①	英米2年次のみ認定可	
		Academic Writing I ①・II ②	英米2年次3年次のみ認定可	
		Oral English I～Ⅵ(各①)		
		English Workshop A～D(各①)		
		Advanced Oral English A・B(各②)	3年次・4年次認定可	
	成蹊教養カリキュラム 国際教養科目	海外研修A②		
		海外研修B②		
	文学部科目・ 成蹊国際コース	海外研修C～H(各②)		
成蹊国際コース 必修科目		Independent Study I ②	成蹊国際コース所属者のみ 認定可	
	Independent Study II ②			
	Independent Study III ②			
成蹊国際コース 選択必修科目	Academic Listening②			
	Cross Cultural Communication Skills②			
	Discussion & Presentation②			
	English for the Work Place②			
	Essay Writing②			
Intensive Reading②				
Business English (40時間)	成蹊教養カリキュラム キャリア教育科目	インターンシップ準備講座②	3年次・4年次認定可	6
		International Internship②		
	文学部科目	Topics in British Culture A・B(各②)		
		イギリスの歴史と文化A・B(各②)		
		イギリス文学・文化AⅠ～DⅠ		
		イギリス文学・文化AⅡ～DⅡ(各②)		
		イギリス文化・文化史特講A・B(各②)		
		グローバリゼーションの社会学②		
		コミュニティの社会学②		
		<2年次> 英米:2年次演習ⅠまたはⅡ② 国際:国際文化基礎演習ⅡまたはⅢ② 現社:現代社会研究の方法ⅠまたはⅡ②	日文における演習の扱いに ついては前掲を参照	
		<3年次> 英米・国際・現社:演習ⅠまたはⅡ②		
		<4年次> 英米:演習Ⅲのみ② 国際・現社:演習ⅢまたはⅣ②		

			認定可能単位数合計	18単位
--	--	--	-----------	------

※ College English の単位認定について

- ・2年次は当該留学期間で履修できない科目を認定する。(前期:Global Topics I・Local Topics I、後期:Global Topics II・Local Topics II)
- ・再履修がある場合には、状況に応じ検討する。

※ 演習の単位認定について

- ・各年次とも当該留学期間で履修できない科目を認定する。(英米文学科の演習IVを除く)。
- ・卒業論文の単位認定はできないため、4年後期に留学した場合は、当該年度では卒業できない。

※ 成蹊国際コース科目の単位認定について

- ・成蹊国際コース科目は、成蹊国際コース所属者のみ単位認定できる。
- ・成蹊国際コースの必修科目は、当該留学期間で履修できない科目を認定する。

※ 単位認定は、単位を修得していない上記科目で行う。

なお、既に単位を修得し認定できる科目がない場合には、代替科目などの措置はとらない。

ダブリンシティ中期協定留学単位認定利用可能科目(文学部)

(2018~2019年度 入学生適用)

履修科目名・時間	学部・科目区分	利用可能科目	備考	認定 単位数	
General English (160時間)	成蹊教養カリキュラム 英語科目コア	College English (Listening & Speaking) I ①	左記、英語科目の認定は、 コア科目は原則2単位以内、 発展科目は10～12単位以内。 ただし、コア・発展合計で、 最大12単位まで。	12	
		College English (Listening & Speaking) II ①			
		College English (Global Topics) I ①			
		College English (Global Topics) II ①			
		College English (Reading & Writing) I ①			
		College English (Reading & Writing) II ①			
		College English (Local Topics) I ①			
		College English (Local Topics) II ①			
	成蹊教養カリキュラム 英語科目発展	Presentation Skills ②			
		Discussion Skills ②			
		Writing Skills ②			
		多読で学ぶ英語と文化②			
		映画で学ぶ英語と文化②			
		ドラマで学ぶ英語と文化②			
		歌で学ぶ英語と文化②			
	文学部科目	Academic Reading ①			英米2年次のみ認定可
		Academic Writing I ①・II ②	英米2年次3年次のみ認定可		
		Integrated English I ①・II ①			
		English Workshop A～D(各①)	3年次・4年次認定可		
		Advanced Oral English A・B(各②)			
	Business English (40時間)	成蹊教養カリキュラム 国際教養科目	海外研修A②		
			海外研修B②		
		文学部科目・ 成蹊国際コース	海外研修C～H(各②)		成蹊国際コース所属者のみ 認定可
成蹊国際コース 必修科目		Independent Study I ②			
		Independent Study II ②			
		Independent Study III ②			
成蹊国際コース 選択必修科目		Academic Listening②			
		Cross Cultural Communication Skills②			
		Discussion & Presentation②			
		English for the Work Place②			
	Essay Writing②				
Intensive Reading②					
Internship (280時間)	成蹊教養カリキュラム キャリア教育科目	インターンシップ準備講座②	3年次・4年次認定可	6	
		International Internship②			
	文学部科目	Topics in British Culture A・B(各②)			
		イギリスの歴史と文化A・B(各②)			
		イギリス文学・文化AⅠ～DⅠ			
		イギリス文学・文化AⅡ～DⅡ(各②)			
		イギリス文化・文化史特講A・B(各②)			
		グローバリゼーションの社会学②			
		コミュニティの社会学②			
		<2年次> 英米:2年次演習ⅠまたはⅡ② 国際:国際文化基礎演習ⅡまたはⅢ② 現社:現代社会研究の方法ⅠまたはⅡ②			日文における演習の扱いに については前掲を参照
		<3年次> 英米・国際・現社:演習ⅠまたはⅡ②			
		<4年次> 英米:演習Ⅲのみ② 国際・現社:演習ⅢまたはⅣ②			
		認定可能単位数合計			18単位

※ College English の単位認定について

- ・2年次は当該留学期間で履修できない科目を認定する。(前期:Global Topics I・Local Topics I、後期:Global Topics II・Local Topics II)
- ・再履修がある場合には、状況に応じ検討する。

※ 演習の単位認定について

- ・各年次とも当該留学期間で履修できない科目を認定する。(英米文学科の演習IVを除く)。
- ・卒業論文の単位認定はできないため、4年後期に留学した場合は、当該年度では卒業できない。

※ 成蹊国際コース科目の単位認定について

- ・成蹊国際コース科目は、成蹊国際コース所属者のみ単位認定できる。
- ・成蹊国際コースの必修科目は、当該留学期間で履修できない科目を認定する。

※ 単位認定は、単位を修得していない上記科目で行う。

なお、既に単位を修得し認定できる科目がない場合には、代替科目などの措置はとらない。

(3) 短期協定留学

この留学は、夏期あるいは春期休業期間中に、協定校で短期研修を行うものです。

成蹊大学が指定する留学プログラムの学修を終了した学生は、そのプログラムおよび学修内容により、単位認定を受けることができます。単位認定科目および単位数については、下表を参照してください。入学年度により、単位認定科目が異なるため注意してください。

2014 年度～2019 年度入学生

留学先のプログラム	単位認定科目	単位数
成蹊大学が指定するプログラム	海外研修 A～H のうち 1 科目 (A から順番に単位認定されます。)	2 単位

※英米文学科（2018 年度入学生）および英語英米文学科の学生で、夏期集中講義の「CALL I」の単位が未修得の場合は上図ではなく、「CALL I」と「海外研修 J」に単位認定されます。

■ JSAF プログラム

この留学は、本学が協定を結んでいる一般社団法人「日本スタディ・アブロード・ファンデーション（Japan Study Abroad Foundation）」（以下、JSAF）が提供するプログラムを利用し、半年または 1 年間、13 か国約 130 大学の正規学部授業を履修することが可能な留学制度です。本学の定める留学期間の開始日において、本学に 1 年以上在学し、かつ、所定の単位を修得した学生を対象としています（長期協定留学の項を参照）。出願に当たっては、留学先の大学ごとに語学力、GPA の基準が設定されていますので、国際教育センターホームページの「海外留学ガイド」を参照してください。

留学にあたっては、本学に留学の許可を受けるために必要な「留学願」等の提出のほか、予め、JSAF を通じて留学先への手続きが必要となります。

主な特徴は、次の 4 点です。

- ① 留学期間（延長を含め 2 年まで）のうち、1 年に限り、修業年限（4 年）に算入することができます。
- ② 留学先大学で修得した単位は、60 単位を限度に授業科目として認定することがあります。必修の演習科目についても、留学先大学で修得した授業科目の内容により、単位認定されることがあります。卒業論文については、原則として認定されませんが、留学先で修得した授業内容により、認定されることがあります。各年次で修得する必要がある演習や卒業論文等が単位認定された場合には、各学科 4 年間で卒業できる可能性があります。ただし各資格課程・教職課程に関する科目は認定しません。
- ③ 後期から 1 年間留学する場合には、年度始めに履修登録した通年科目を留学終了後の後期において継続して履修できる制度があります。
- ④ 留学期間が学期の全期間にわたる場合に限り、その学期について納入すべき授業料等の納付金の 3 分の 2 を減額します。また、「成蹊大学外国留学プログラム費補助金」を受給することが可能です。ただし、語学科目のみを履修するプログラムの場合は「認定留学」制度が適用されます。

留学期間は、実際の出国日または帰国日にかかわらず、開始日は 4 月 1 日または 10 月 1 日、終了日は 3 月 31 日または 9 月 30 日となります。

■ 認定留学

協定留学や JSAF プログラム以外の国・高等教育機関において留学を行う場合や、JSAF を通じて「大学付属の語学学校」に留学する場合などには、この「認定留学」制度を利用して留学することが可能です。教育機関の基準については、事前に国際教育センター国際課で確認を行ってください（インターンシップやワーキングホリデーが主体の留学は認められていません）。

この制度では、学生自身で留学先の選定および「入学の申込み」を行う必要があります。「認定留学」は大学に許可を受けるために必要な「留学願」等の提出のほか、留学先受入教育機関発行の「受入許可

証」の提出が必要です。個人で留学計画を立てることになるため、時間に余裕を持って計画を行うようにしてください。本学の定める留学期間の開始日において、本学に1年以上在学し、かつ、所定の単位を修得した学生を対象としています（長期協定留学の項を参照）。

主な特徴は、次の4点です。

- ① 留学期間（延長を含め2年まで）のうち、1年に限り、修業年限（4年）に算入することができます。
- ② 留学先大学で修得した単位は、60単位を限度に授業科目として認定することがあります。必修の演習科目についても、留学先大学で修得した授業科目の内容により、単位認定されることがあります。卒業論文については、原則として認定されませんが、留学先で修得した授業内容により、認定されることがあります。各年次で修得する必要がある演習や卒業論文等が単位認定された場合には、各学科4年間で卒業できる可能性があります。ただし各資格課程・教職課程に関する科目は認定しません。
- ③ 後期から1年間留学する場合には、学年始めに履修登録した通年科目を留学終了後の後期において継続して履修できる制度があります。
- ④ 留学期間が学期の全期間にわたる場合に限り、その学期について納入すべき授業料等の納付金の3分の2を減額します。

留学願や受入許可書等の関係書類の提出期限は、原則として出国日の2ヶ月前です。留学期間は、実際の出国日または帰国日にかかわらず、開始日は4月1日または10月1日、終了日は3月31日または9月30日となります。

■ 認定留学から JSAF プログラムへ

JSAF を通じて、「大学付属の語学学校」へ留学を行う場合は、「認定留学」制度を利用することが可能です。留学期間中に留学先の大学から「学部留学（学部授業科目の単位修得のための履修）」が許可された場合（学部在籍期間がサマースクールのみの場合は対象外）には、所定の手続き（「JSAF プログラム」への留学資格の切替え等）の上、「成蹊大学外国留学プログラム費補助金」を受給することが可能です。

認定留学からの「JSAF プログラム」切替えのためには、一定の要件が必要となりますので、「海外留学ガイド」を参照してください。

留学手続き

留学を希望する学生は、教員（文学部「指導教授」）、国際教育センター国際課、教務部、キャリア支援センター事務室などと早い時期から綿密な連絡を取り、留学全般にわたって十分な指導を受けてください。

■ 継続履修

年度の後期から1年間の留学を開始する学生については、教職の「教育実習」、文学部「卒業論文」等において、留学前に履修登録済の通年科目を帰国年度の後期に継続して履修すること（「継続履修」という）を認める場合があります。継続履修を希望する場合は留学前に必ず教務部に相談をしてください。

- ① 帰国年度に当該科目が開講されない場合
- ② 複数の継続履修希望科目の時間割が重複する場合
- ③ 留学開始年度と留学終了年度で授業内容が著しく異なる場合

■ 期間延長（認定留学）

認定留学の留学期間の延長を希望する場合は、留学期間終了の 2 ヶ月前までに「留学延長願」、「留学先大学等が発行する延長後の受入許可書」、および「本人が作成する期間延長後の学修計画書」を国際教育センター国際課に提出してください。留学期間が修業年限に算入されるのは 1 年間で、留学期間の延長を希望する場合、進級や卒業への影響を十分考慮するよう、注意してください。

留学終了の手続き

帰国後速やかに、「留学終了届」および留学レポートを国際教育センター国際課に提出してください。

■ 単位認定

留学先での学修成果について単位認定を受けようとするときは、以下の書類を教務部に提出してください。必要書類と提出締切日は、帰国前に教務部に確認してください。

- ① 単位認定願（教務部備付けの大学所定様式）
- ② 留学先で修得した授業科目の成績表
- ③ 授業科目の内容と履修時間が分かる書類
- ④ 講義ノート・レポート、教科書やプレゼンテーションの資料（ワード原稿やパワーポイント資料など）の類

これらの書類を提出して、認定科目の審査を受けなければなりません。単位認定された科目の成績評価は「T」となり、卒業所要単位に算入されます。

単位認定の審査に必要な書類を持ち帰らない場合、単位認定が認められないこともありますので、十分に注意してください。

※ 外国留学で認定され、卒業所要単位に算入される単位数は、入学前に修得した単位等による単位認定、検定・資格試験による単位認定、武蔵野地域 5 大学単位互換による単位認定のすべてを合算して 60 単位までです。

■ 「留学終了届」の提出および留学終了後の履修

前期から授業を履修する場合は、3 月 31 日までに、後期から授業を履修する場合は 9 月 30 日までに留学先での授業を終了させている必要があります。留学終了後は、帰国次第速やかに「留学終了届」を国際課へ提出してください。留学終了後の履修登録については、『履修成績関係日程』を確認して、ご自身で手続きをしてください。

■ 留学終了後の学年

留学終了後の学年については、教務部に確認してください。

資格課程

教 職 課 程

教職課程の概要

小学校・中学校・高等学校の教員になるためには、学校の種類と担当する教科別の「教育職員免許状」を持っている必要があり、教員の資質の保持と向上を図ることを目的として「教育職員免許法」が制定されています。

本学でも「教育職員免許法」に基づいて教職課程を設けており、大学を卒業して学士号を得るとともに教職課程を履修し、所定の科目の単位等を修得することが必要です。

取得できる免許状の種類と教科

学部・学科	取得できる免許状の種類	
	中学校教諭 1 種免許状	高等学校教諭 1 種免許状
経済学部 経済経営学科	社 会	地理歴史・公 民
経済学部 経済数理学科	社 会	公 民
経済学部 現代経済学科		地理歴史・公 民
経営学部 総合経営学科		公 民
法学部 法律学科		地理歴史・公 民
法学部 政治学科		
文学部 国際文化学科		
文学部 現代社会学科		
理工学部 物質生命理工学科	理 科	理 科・工 業
理工学部 情報科学学科	数 学	数 学・情 報
理工学部 システムデザイン学科		数 学・工 業
文学部 英語英米文学科	英 語	英 語
文学部 英米文学科		
文学部 日本文学科	国 語	国 語

履修および教職課程ガイダンス

教職課程履修希望者は、履修方法等について教職課程ガイダンスで説明しますので必ず出席してください。やむを得ない事情により出席できなかった学生は、速やかに「教職課程センター」に、申し出てください。

ガイダンスの日時や場所は、別途掲示でお知らせします。

教職課程に関する詳しい説明は、『教職課程履修ガイド』を参照してください。

教職課程センターについて

教職課程センターは、教職課程を履修し、教職をめざす学生に対する指導・支援を行うために開設されています。また、教職課程専任教員が、教職に関する質問や相談に応じるオフィスアワーを設けているほか、教員あるいは卒業生との懇談の機会を提供しています。

学校図書館司書教諭課程

学校図書館司書教諭課程の概要

学校図書館司書教諭は、学校図書館の専門的職務を行う、学校図書館法で定められた資格です。学校外にある一般図書館の司書の資格とは異なるものですので、混同しないよう注意してください。

資格取得には学校図書館司書教諭課程の授業科目（5科目 10単位）を修得することが必要です。この資格は教科の教員免許状がなければ有効な資格となりません。そのため、学校図書館司書教諭課程の履修のためには教職課程の履修登録が必要です。詳しい履修方法等については、教職課程ガイドスの中で説明します。

また、詳しい説明は、『教職課程履修ガイド』の「学校図書館司書教諭課程履修ガイド」を参照してください。

日本語教員養成課程

日本語教員養成課程について

日本語教員養成課程とは、外国人に対して日本語を教える教員になるために必要な特別の教育を行うもので、この課程を履修して所定の授業科目および単位を修得した者には、卒業時に本学から「日本語教員養成課程修了証明書」が発行されます。

周知の通り、日本に來住する外国人は増加しており、外国における日本に対する関心や日本語熱も高まりを見せています。そうした国際化の状況の中で、外国人に日本語を教える教育ならびに教員の必要性が、国の内外で強調されるに至っています。

文部省は、日本語教育施策の推進に関する調査研究会を設置して、外国人に対する日本語教育のあり方等について諮問しました。その調査研究会の報告「日本語教員養成等について」（1985年5月）は、日本語教育の専門家として最低限必要な知識・能力を備えた教員の養成のために、大学の学部日本語教員養成課程を設けることを提案し、そのための標準的な教育内容を提示しています。文学部の日本語教員養成課程はこれに準拠して開設されたものです。その後2001年に、文化庁の諮問を受けた日本語教員の養成に関する調査研究協力者会議の答申「日本語教育のための教員養成について」が示されたため、2004年度入学生以降カリキュラムを変更するなどの見直しを行いました。

この課程を修了しても、すぐ日本語教員になれるというわけではありません。しかし、課程を修了すれば、日本語教員としての専門的な教育を受けたことが社会的に承認されることになると言ってよいでしょう。

文学部としては、この課程教育を通じて、優秀な日本語教員を養成し、国際理解の促進に貢献したいと考えています。

履修手続き等について

日本語教員養成課程を履修するには、各年次で以下の手続きを行う必要があります。すべての連絡や注意は掲示で行いますので、常に掲示を見るように心掛けてください。

■ 履修ガイダンス

4月にガイダンスを行います。以下の点を説明しますので、課程登録を考えている人、および課程登録をしている人で「日本語教育実習」を未修得の人は、必ず出席してください。

- ・日本語教員養成課程の概略、履修方法、課程登録等について
- ・日本語教育の現状について
- ・「日本語教育実習」の履修について

■ 履修登録

課程登録を考えている人、すでに課程登録をしている人は、「日本語教員養成課程 授業科目表」に定める、科目区分ごとの修得単位数を満たすように、課程の授業科目を履修してってください。特に4年次生は、不足単位を確認し、履修するようにしてください。

日本語教員養成課程の授業科目は、必修科目であっても、配当タームでの履修が必須ではなく、配当タームより後での履修も可能です。とはいえ、3年次配当の「日本語教育実習」を、多くの人は3年次で履修します。その場合、2年次終了までに、後述の「日本語教育実習 履修の前提条件」を満たさなくてはなりません。そのことを念頭において、課程の授業科目の履修を進めてください。

■ 日本語教員養成課程登録

日本語教員養成課程を正式に履修する場合、原則として2年次の始めに日本語教員養成課程登録を行ってください。ただし、「日本語教員養成課程 授業科目表」に定める科目の履修は、「日本語教育実

習」を除き、課程登録前から行うことができます。

日本語教員養成課程を登録する人は、所定の期間内に証明書自動発行機で、日本語教員養成課程履修費 1 万円の申請書を購入し、教務部窓口へ提出してください。履修費の納入、申請書の提出をもって、「日本語教員養成課程登録」とします。履修費の納入や申請書の提出がない場合、日本語教員養成課程の履修は認めません。なお履修費は、毎年度納入する必要はなく、課程登録をする年度の始めに 1 度だけ納入してください。ただし、途中で課程の履修を中止しても返金はされません。

■ 日本語教育実習 履修の前提条件

3 年次配当の「日本語教育実習」を履修するには、以下の 3 点をすべて満たす必要があります。

- ①前年度終了までに、必修科目 4 科目（日本語教授論Ⅰ・Ⅱ、日本語教材研究Ⅰ・Ⅱ）のうち 2 科目 4 単位以上を修得していること。
- ②前年度終了までに、選択科目 10 科目 20 単位以上を修得していること。
- ③前年度までに日本語教員養成課程登録を済ませていること。（課程登録と実習登録は同年度にできません。）

■ 日本語教育実習 履修登録方法

「日本語教育実習」は、複数クラスを設定して授業を行います。クラスは、予備登録を行い、調整のうえ決定します。予備登録期間や発表方法などについては、年度始め行事日程で確認してください。

「日本語教育実習」の履修が決定した者は、所定の期間内に証明書自動発行機で、日本語教育実習費 5 千円の申請書を購入し、教務部窓口へ提出してください。期限までに実習費の納入や申請書の提出がない場合、「日本語教育実習」の履修は認めません。

■ 日本語教員養成課程修了証明書の発行

「日本語教員養成課程修了証明書」は、卒業時に所定の授業科目および単位を修得した者について、本人の申請に基づき発行します。

日本語教員養成課程 授業科目について

【2014～2019年度以降入学生】

ターム 科目区分										単位	備考		
		第 1	第 2	第 3	第 4	第 5	第 6	第 7	第 8				
必修科目	言語と教育	日本語教授論Ⅰ② 日本語教材研究Ⅰ②								8	日本語教育実習履修の前年度終了までに 2 科目 4 単位以上修得してください。		
		日本語教授論Ⅱ② 日本語教材研究Ⅱ②											
								日本語教育実習②		2			
		必修科目合計										10単位	
選択科目	社会・文化・地域	日本美術史A② 日本民俗学A② 日本の歴史と文化A② 文化人類学②								4	日本語教育実習履修の前年度終了までに 10 科目 20 単位以上修得してください。 卒業時までに左記の必要単位を充たした上、24 単位以上修得してください。		
		近現代日本史A[成]② 近現代日本史B[成]② 戦後の日本と世界[成]② 現代日本の地理[成]② 日本美術史B② 日本民俗学B② 日本の歴史と文化B②											
		日本の思想史[成]② 日本文化・文化史特講A② 日本文化・文化史特講B② 発信する武蔵野地域文化② 実践する日本文化② Musashino Culture Studies ② Japanese Culture Studies ②											
		コミュニケーション論入門②										4	
		世界の言語文化A② 世界の言語文化B② メディア論入門② マス・メディアの歴史② マス・コミュニケーション論② メディア・リテラシー論②											
		コミュニケーションと社会[成]② 出版論②											
	言語と心理	社会心理学② 教育心理学②											
		心理学の基礎[成]② 自己理解の心理学[成]②											
		社会心理学入門[成]② 脳科学と心[成]②											
	言語	日本語研究の基礎② 日本語の歴史A②								12			
		実践漢字講座[成]② 日本語法② 日本語の歴史B②											
		ことばの科学[成]② 日本語学講義A② 日本語学講義B② 日本語学講義C② 日本語学講義D② 日本語学講義E② 日本語学講義F② 上級漢字講座②											
		選択科目合計										24単位以上	
		必要単位数										34単位以上	

※「日本語学講義A～D」は、重複履修（同一科目を複数回履修すること）が可能です。

「日本語学講義E・F」は重複履修できません。ただし、2019年度までの「日本語学講義E・F」（重複履修可）を1回以上修得した学生が、2020年度以降の「日本語学講義E・F」（重複履修不可）を1回修得することは可能です。

※必修科目および「教育心理学」は卒業に必要な単位に算入されません。履修上限にも含まれません。

社会調査士課程

社会調査士課程について（現代社会学科生のみ適用）

文学部現代社会学科では、「社会調査士課程」を設置しています。所定の授業科目を履修して単位を取れば、社会調査士資格を取得することができます。現代社会学科の1年次から履修できます。

現代社会では、世論調査やマーケット調査など、多くの社会調査が行われています。時代を正しく捉え、情報を発信することは、今後社会的にますます期待されていくでしょう。こうした社会的ニーズに応えるために社会調査士という資格があります。一般社団法人 社会調査協会が発行しています。

社会調査士課程では、「世の中は今どうなっているのか」「人々はなにを考えているのか」といった疑問に答えるために、インタビューの仕方、アンケートの作り方、統計資料の読み方などを学びます。将来、企業や官公庁の調査部門などで働きたい人にとっては、必要な基礎能力を身につけることができます。

履修手続きについて

■ 掲示

社会調査士課程に関する連絡はすべて、ポータルサイトで行います。

■ 社会調査士課程室

社会調査士課程の履修者のために、社会調査士課程室が1号館2階にあり、調査・実習指導助手が管理・運営を行っています。コンピュータ、プリンタ、資料などがあり、自習することができます。社会調査演習はここでを行います。調査用のICレコーダの貸し出しも行っています。

■ ガイダンス

1年次の1月頃に、社会調査課程登録等について説明する社会調査士課程ガイダンスを行います。

■ 履修登録

各年次配当の科目を履修登録してください。特に、4年生は不足単位を確認し、履修してください。

■ 社会調査士課程登録（2年次以降）

社会調査士課程を正式に履修するには、社会調査士課程ガイダンスに参加したうえで、指定の期日までに社会調査士課程登録を行ってください。定員を超える場合は選考をします（定員20名）。定員に大きく満たない場合には、追加募集することがあります。

社会調査士課程を履修する者は、所定の期間内に証明書自動発行機で社会調査士課程履修費2万円の申請書を購入し、教務部窓口に提出してください。期間内に納入および申請書の提出がない場合、社会調査士課程の履修は認めません。

■ 社会調査演習の履修（3年次以降）

3年次以降に「社会調査演習Ⅰ」「社会調査演習Ⅱ」を履修します。

履修するためには、以下の2点を両方満たす必要があります。

- ・「社会調査入門」と「社会調査の方法」をすでに修得していること。
- ・2年次配当の「現代社会研究の方法Ⅰ」と「現代社会研究の方法Ⅱ」をすでに修得しているか、「社会調査演習Ⅰ」「社会調査演習Ⅱ」と同じ年度に履修すること。

社会調査演習を履修する者は、所定の期間内に証明書自動発行機で社会調査実習費1万円の申

請書を購入し、教務部窓口に提出してください。期間内に納入および申請書の提出がない場合は、演習の履修を認めません。

■ 資格申請（卒業時）

所定の授業科目の単位を修得したならば、卒業時に本人が申請することで、大学から「社会調査士課程単位修得証明書」が発行されます。

また、卒業時に所定の手続きをすることで、一般社団法人 社会調査士協会から認定証を受け取ることができます。その際、認定手数料 1 万 5 千円（税抜）を協会に振り込む必要があります。

手続きについては、掲示の指示に従ってください。

社会調査士課程 授業科目について

【2014～2019 年度 入学生】

（注）○印の数字は、当該科目の単位数を表す。

科 目 区 分	授 業 科 目 ・ 単 位 数 ・ 配 当 年 次 ・ ター ム								備 考
	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		
	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8	
社会調査の基本的事項 に 関 す る 科 目	社会調査入門②								必修
調査設計と実施方法に 関 す る 科 目		社会調査の方法②							必修
基本的な資料とデータ の分析に関する科目			量的調査入門（統計学）②						必修
社会調査に必要な 統計学に関する科目			量的調査法（統計分析）②						必修
質的な分析の方法に 関 す る 科 目			質的調査入門（資料分析）②						必修
社会調査の実習を 中心とする科目					社会調査演習Ⅰ② 社会調査演習Ⅱ②				2科目必修

社会福祉主事任用資格

社会福祉主事任用資格について

社会福祉主事任用資格とは、生活上の困難に直面している人や、障害があるために支援を必要とする人々のニーズを把握し、支援や援助の方法に関する情報の提供と関係組織・機関への連絡や調整を行う際に必要な資格です。

本来、各地方自治体の福祉事務所などに従事する公務員（ケースワーカーなど）に任用される際に必要とされる、行政が定めた資格基準ですが、その他に、一部の福祉施設の相談員や指導員、社会福祉協議会などの職員募集の際に、資格として準用されることがあります。

任用資格を有することによって活躍できる職場・職種には、福祉事務所や児童相談所のケースワーカー、老人福祉施設や身体障害者施設の指導員、社会福祉協議会の福祉活動専門員などがあります。

社会福祉主事任用資格を取得するためには、厚生労働省の指定した科目のうち3科目以上を修得して大学を卒業することが必要です。

単位の修得について

本学で社会福祉主事任用資格を取得するためには、次の科目から3科目以上の単位を修得しなければなりません。

- ① 社会福祉概論 (2単位) <文学部開講科目>
- ② 社会福祉事業史 (2単位) <文学部開講科目>
- ③ 老人福祉論 (2単位) <成蹊教養カリキュラム開講科目>
- ④ 地域福祉論 (2単位) <成蹊教養カリキュラム開講科目>

①、②の科目は文学部開講科目です。文学部生以外が履修する場合は、所定の期間内に「他学部・他学科科目履修願」を提出し、履修を許可されなければなりません。提出期間等の日程については、『年度始め行事日程』で確認してください。

また、3月に社会福祉主事任用資格についてガイダンスを行います。希望者は、『年度始め行事日程』で詳細を確認の上、参加してください。

資格の認定について

上記の科目のうち、3科目以上の単位を修得し、卒業すると、社会福祉主事任用資格を取得したことになります。社会福祉主事任用資格の任用条件を満たしているかについては、成績証明書と卒業証明書によって証明されます。（上記科目のみの単位修得証明書は発行していません。）

文学部履修要項（2014～2019年度入学生用）
成蹊大学文学部編
東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1
電話(0422) 37・3736（教務部文学部担当）